

令和3（2021）年度

栃木県政世論調査

調査報告書（概要版）

令和3（2021）年10月

栃木県

目 次

I	調査の概要	1
II	調査の結果	2
1	暮らしの変化について	
	(1) 暮らしの変化	2
	(1-1) 暮らしが悪くなった理由	3
	(2) 暮らしの満足度	4
	(3) 今後の暮らしの状況	5
	(4) 今後の暮らしで力を入れる点	6
2	県政への要望について	
	(1) 県政への要望	7
3	日常生活について	
	(1) 文化・芸術活動について	10
	(2) スポーツ活動について	11
	(3) 住んでいる地域について	12
	(4) 住み続けるための理由について	13
	(5) 社会貢献活動について	14
	(6) 県の事業や催し、案内などの情報入手手段	16
	(7) 知りたい県政情報	17
4	栃木県への愛着と誇りについて	
	(1) 栃木県に対する愛着	18
	(1-1) 栃木県に愛着を感じる理由	19
	(1-2) 栃木県に愛着を感じない理由	20
	(2) 栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの	21
5	SDGsについて	
	(1) SDGsの認知度	22
	(1-1) SDGsのどのようなことを知っているか	23
	(2) SDGsに対する理解・促進の方法	24
6	第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」及び第22回全国障害者スポーツ大会 「いちご一会とちぎ大会」の開催について	
	(1) 「いちご一会とちぎ国体」「いちご一会とちぎ大会」の認知度	25
	(1-1) 両大会が栃木県で開催されることを知った方法	26
	(2) 両大会に参加・協力できる方法	27
7	地域防災について	
	(1) 災害に対する備え	28
	(2) 災害の際に必要な情報について知っていること	29
	(3) 防災訓練の参加状況	30

8 男女平等意識について	
(1) 社会全体の中での男女の地位の平等感	31
(2) 固定的な性別役割分担意識	32
(3) 働く場での男女の地位の平等感	33
9 男女間の暴力について	
(1) DVの経験等	34
(2) 男女間の暴力を防止するために重要な対策	35
10 とちぎの元気な森づくり県民税について	
(1) 重要と考える森林の働き	36
(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの	37
11 地域のつながり・住民同士の支え合いについて	
(1) 現在のご近所との関係	38
(2) 日常生活で困ったときに相談できる場所	39
(3) 必要な住民同士の支え合いによるサービス・活動	40
12 生活習慣等や健康意識について	
(1) 新型コロナウイルス感染拡大による心身の状態の変化	41
(2) 新型コロナウイルス感染拡大による生活面の変化	42
(3) コロナ禍において心身の健康づくりのために取り組んでいること	43
(4) 健康寿命について	44
13 里親制度について	
(1) 里親制度の認知度	45
(1-1) 里親制度を知ったきっかけ	46
(2) 里親への登録意向	47
(3) 里親制度の登録を増やすために、あるとよい社会的支援	48
14 食の安全・安心について	
(1) 食品の安全性に対する不安	49
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの	50
(2) 食の安全に関する情報を得られているか	51
(3) 食の安全について県から発信してほしいこと	52
15 食に関する意識と実践について	
(1) 生鮮食品購入の際、産地を確認しているか	53
(2) 農業体験をした経験	54
16 グリーン・ツーリズムに関する情報発信について	
(1) グリーン・ツーリズムを楽しむために必要な情報	55
(2) 農村地域に繰り返し訪れたい事例	56

17 犯罪と治安対策について

- (1) 県内の治安状況の変化 57
- (2) 不安を感じる犯罪 58
- (3) 警察官に力を入れてほしい活動 59
- (4) 交通事故を抑止するための対策 60

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考とすることを目的とする。

2 調査項目

- | | |
|--|------------------------------|
| (1) 暮らしの変化について* | (10) とちぎの元気な森づくり県民税について |
| (2) 県政への要望について* | (11) 地域のつながり・住民同士の支え合いについて |
| (3) 日常生活について* | (12) 生活習慣等や健康意識について※ |
| (4) 栃木県への愛着と誇りについて | (13) 里親制度について※ |
| (5) SDGsについて※ | (14) 食の安全・安心について |
| (6) 第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」及び第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」の開催について | (15) 食に関する意識と実践について |
| (7) 地域防災について | (16) グリーン・ツーリズムに関する情報発信について※ |
| (8) 男女平等意識について | (17) 犯罪と治安対策について |
| (9) 男女間の暴力について※ | (※印は時系列調査、※印は新規調査) |

3 調査設計

- | | |
|----------|-----------------------|
| (1) 調査地域 | 栃木県全域 |
| (2) 調査対象 | 満18歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 2,000 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布－郵送回収） |
| (6) 調査時期 | 令和3（2021）年5月24日～6月15日 |

4 調査機関

株式会社タイム・エージェント

5 回収結果

回収数（率） 1,288（64.4%）

6 報告書の見方

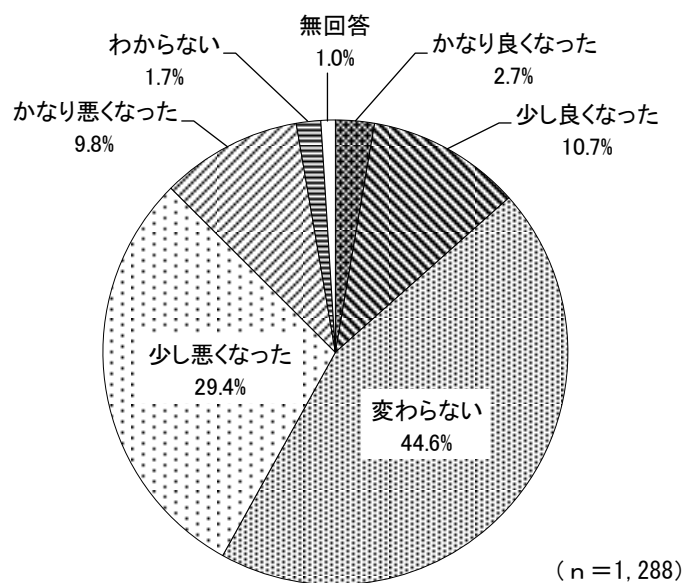
- (1) 各調査項目について、全体、性別、性／年齢別及び過去の調査結果との比較（一部項目のみ）を掲載した。
- (2) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (3) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (4) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (5) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (6) 性／年齢別の分析の説明では、男性18～19歳の回答者は19人、女性18～19歳の回答者は17人と少ないため、他の性／年齢と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、一律にふれていない。

II 調査の結果

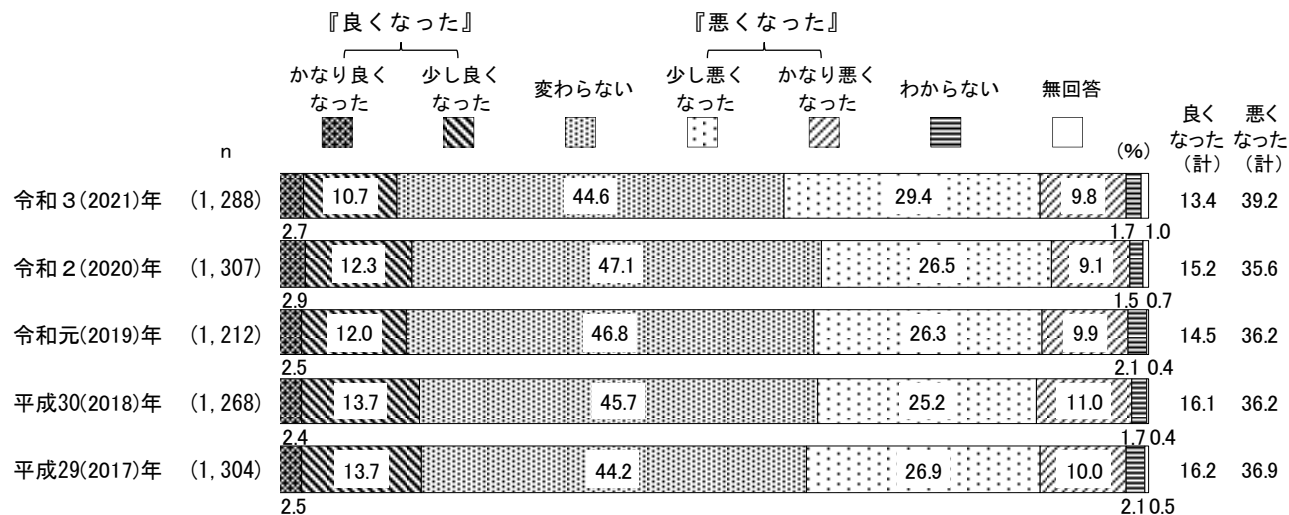
1 暮らしの変化について

(1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]



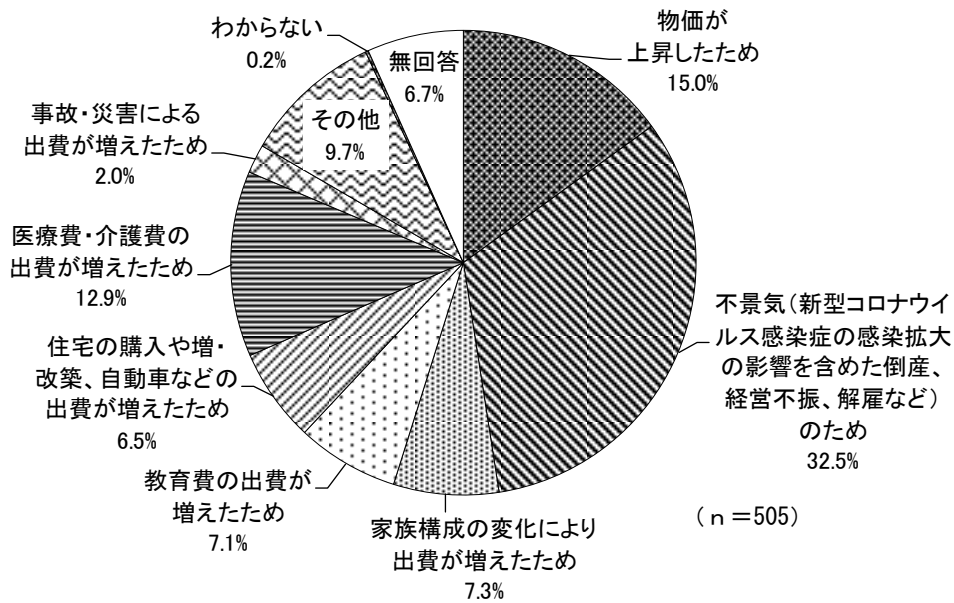
- ・全体で見ると、「かなり良くなった」(2.7%)と「少し良くなった」(10.7%)の2つを合わせた『良くなった』(13.4%)は1割程度となっている。一方、「少し悪くなった」(29.4%)と「かなり悪くなった」(9.8%)の2つを合わせた『悪くなった』(39.2%)がほぼ4割となっている。また、「変わらない」(44.6%)が4割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『良くなった』では〈女性20歳代〉が23.5%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性50歳代〉が50.0%、〈女性60～64歳〉が50.0%と高くなっている。



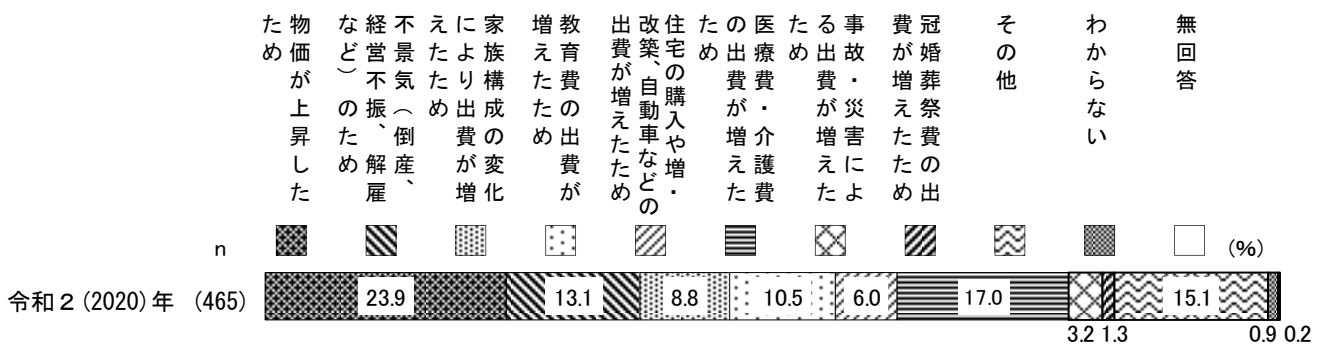
- ・過去の調査結果と比較すると、『悪くなった』が前回(令和2(2020年))より3.6ポイント増加している。

(1-1) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)
 問1-1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。 [n=505]

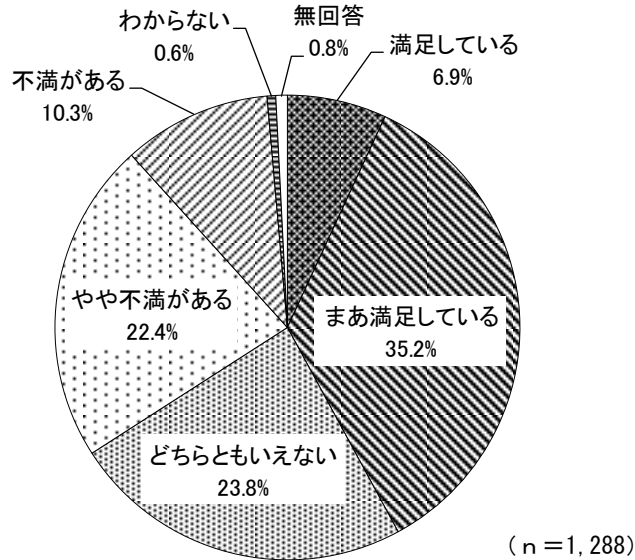


- 全体で見ると、「不景気(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など)のため(以下『不景気のため』という。)」(32.5%)が3割を超えて最も高く、次いで「物価が上昇したため」(15.0%)、「医療費・介護費の出費が増えたため」(12.9%)の順となっている。
- 性別で見ると、『不景気のため』では〈男性〉(38.4%)が〈女性〉(27.9%)より10.5ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「教育費の出費が増えたため」では〈女性40歳代〉が30.2%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈男性70歳以上〉が28.1%、〈女性70歳以上〉が26.7%と高くなっている。
- 過去の調査結果との比較は、今回調査で選択肢を一部変更・削除しているため、比率を直接比較することができないことから、参考として前回(令和2(2020)年)の調査結果のみを示す。

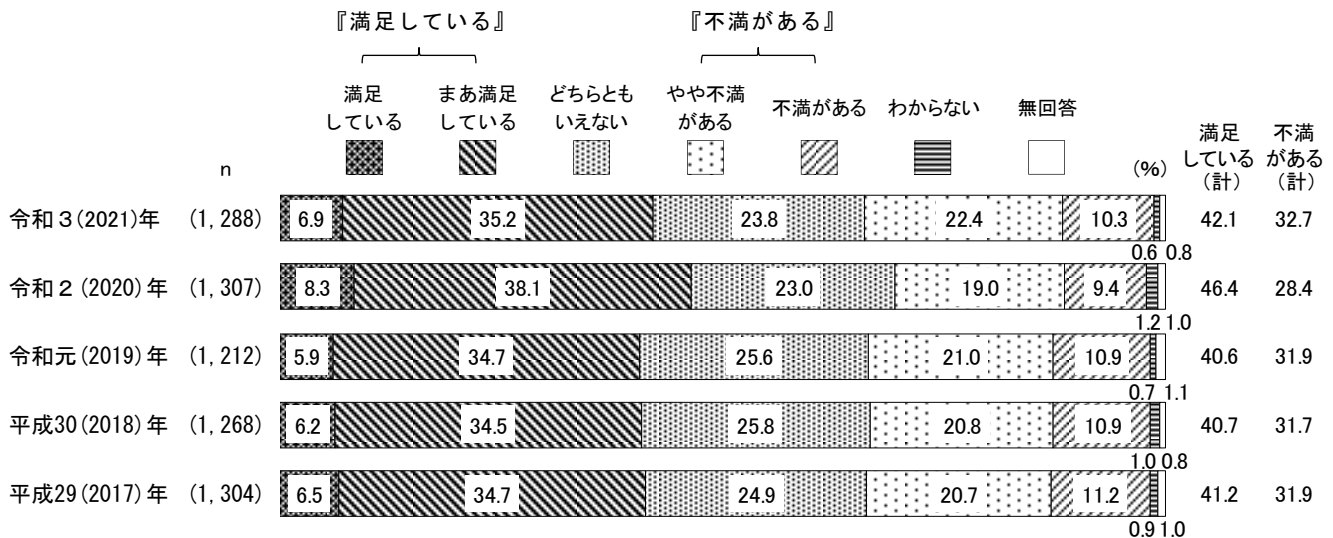


(2) 暮らしの満足度

問2 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。
[n=1,288]



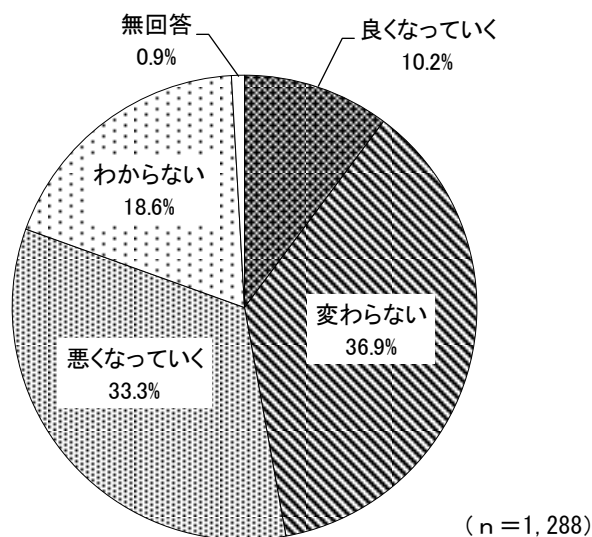
- ・全体で見ると、「満足している」(6.9%)と「まあ満足している」(35.2%)の2つを合わせた『満足している』(42.1%)が4割を超えている。一方、「やや不満がある」(22.4%)と「不満がある」(10.3%)の2つを合わせた『不満がある』(32.7%)は3割を超えている。また、「どちらともいえない」(23.8%)が2割を超えている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『満足している』では〈女性20歳代〉が58.8%と高くなっている。「どちらともいえない」では〈男性70歳以上〉が35.5%と高くなっている。



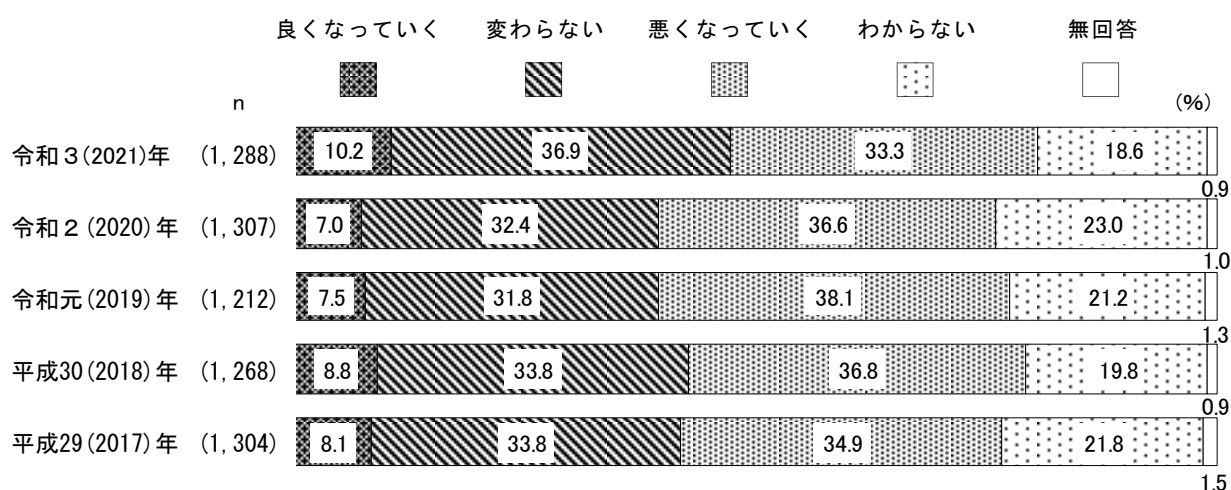
- ・過去の調査結果と比較すると、『満足している』が前回(令和2(2020)年)より4.3ポイント減少している。一方、『不満がある』が前回(令和2(2020)年)より4.3ポイント増加している。

(3) 今後の暮らしの状況

問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]



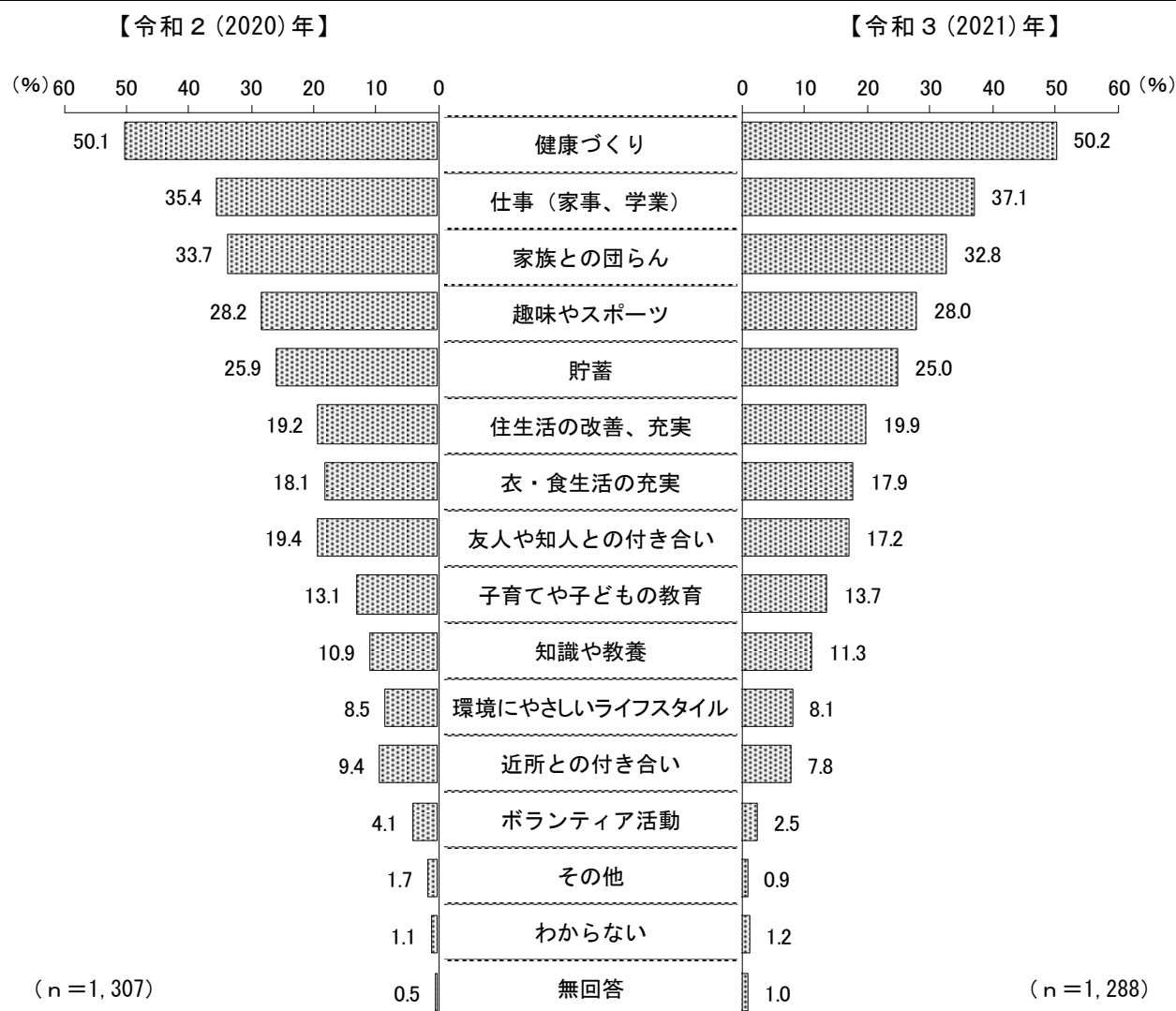
- ・全体で見ると、「良くなっていく」(10.2%)が1割となっている。「変わらない」(36.9%)が4割近く、「悪くなっていく」(33.3%)は3割を超えている。
- ・性別で見ると、「悪くなっていく」では、〈男性〉(35.9%)が〈女性〉(31.0%)より4.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈女性20歳代〉が25.0%、〈女性30歳代〉が22.5%、〈男性20歳代〉が20.3%と高くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈男性60～64歳〉が52.3%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、前回(令和2(2020)年)より「良くなっていく」が3.2ポイント、「変わらない」が4.5ポイント増加し、「悪くなっていく」が3.3ポイント減少している。

(4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。 [n=1,288]

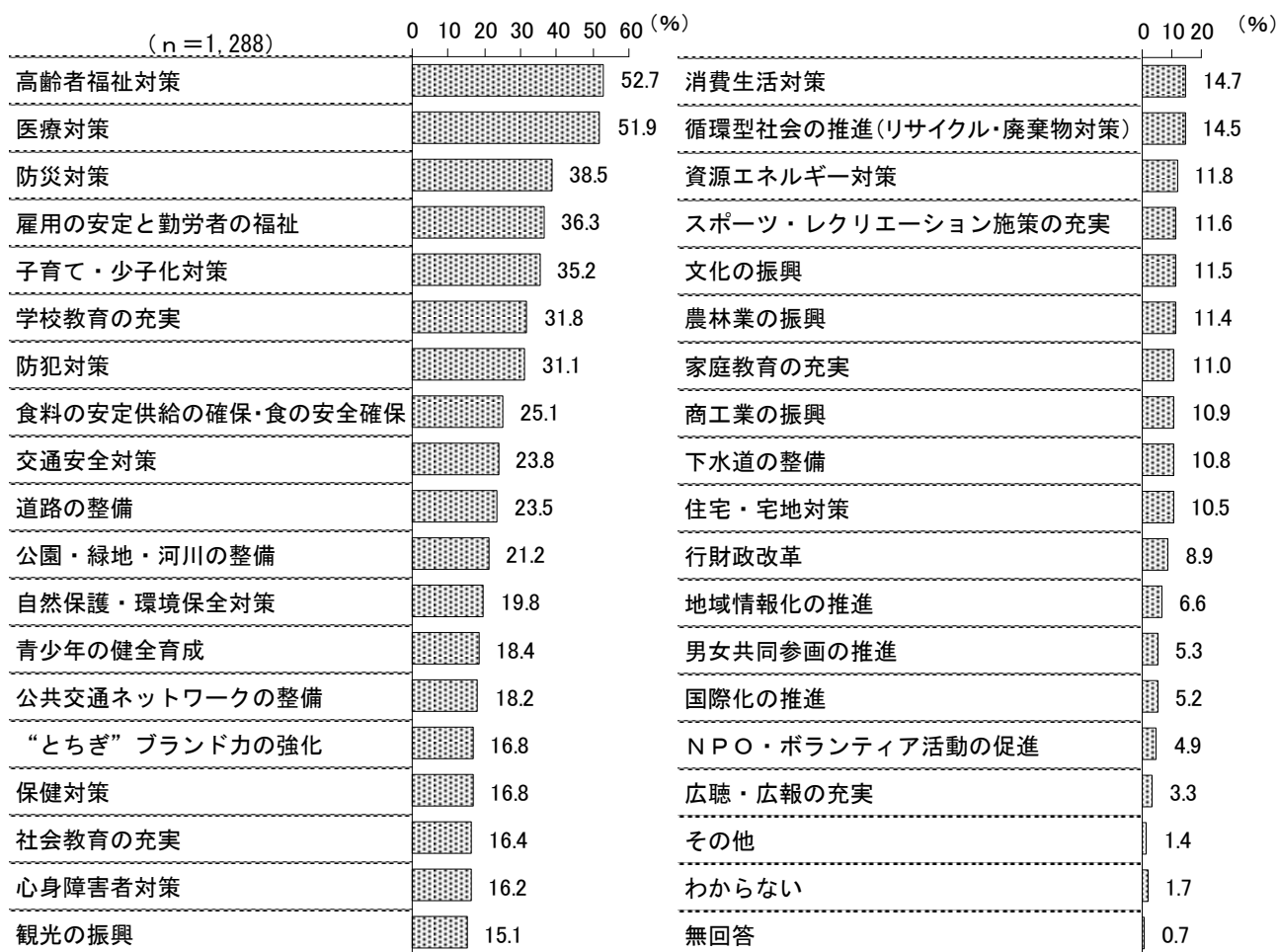


- ・全体で見ると、「健康づくり」(50.2%)が5割で最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(37.1%)、「家族との団らん」(32.8%)、「趣味やスポーツ」(28.0%)、「貯蓄」(25.0%)、「住生活の改善、充実」(19.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(34.7%)が〈女性〉(21.9%)より12.8ポイント高くなっている。「衣・食生活の充実」では〈女性〉(21.7%)が〈男性〉(13.3%)より8.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「健康づくり」では〈女性60~64歳〉が75.0%、〈女性70歳以上〉が73.9%、〈男性70歳以上〉が73.5%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈女性20歳代〉が64.7%、〈男性20歳代〉が64.1%と高くなっている。「家族との団らん」では〈男性40歳代〉が51.1%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性20歳代〉が54.7%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性20歳代〉が47.1%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が52.5%と高くなっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

2 県政への要望について

(1) 県政への要望

問5 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「人が育ち、地域が活きる 未来に誇れる元気な“とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]



・全体でみると、「高齢者福祉対策」(52.7%)が5割を超え最も高く、次いで「医療対策」(51.9%)、「防災対策」(38.5%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(36.3%)、「子育て・少子化対策」(35.2%)、「学校教育の充実」(31.8%)、「防犯対策」(31.1%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(25.1%)、「交通安全対策」(23.8%)、「道路の整備」(23.5%)の順となっている。

・性別でみると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性〉(28.3%)が〈男性〉(20.3%)より8.0ポイント高くなっている。

・性/年齢別でみると、「高齢者福祉対策」では〈女性65～69歳〉が74.2%、〈女性50歳代〉が72.0%、〈男性70歳以上〉が71.0%と高くなっている。「医療対策」では〈女性60～64歳〉が68.8%、〈女性50歳代〉が66.1%と高くなっている。「子育て・少子化対策」では〈女性30歳代〉が71.3%、〈女性20歳代〉が58.8%、〈男性30歳代〉が55.3%と高くなっている。「学校教育の充実」では〈女性30歳代〉が60.0%、〈女性20歳代〉が47.1%と高くなっている。「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性65～69歳〉が40.3%、〈女性60～64歳〉が35.9%と高くなっている。「交通安全対策」では〈女性30歳代〉が40.0%と高くなっている。「道路の整備」では〈男性20歳代〉が37.5%と高くなっている。

[過去の調査結果一年齢別]

(上位5項目)

年齢	年	順位				
		1位	2位	3位	4位	5位
全体	令和3(2021)年 (n=1,288)	高齢者福祉対策 52.7%	医療対策 51.9%	防災対策 38.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.3%	子育て・少子化対策 35.2%
	令和2(2020)年 (n=1,307)	高齢者福祉対策/医療対策 53.3%		防災対策 40.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.3%	子育て・少子化対策 31.9%
	令和元(2019)年 (n=1,212)	高齢者福祉対策 59.1%	医療対策 50.7%	子育て・少子化対策 37.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.5%	防犯対策 34.7%
	平成30(2018)年 (n=1,268)	高齢者福祉対策 58.4%	医療対策 49.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.7%	子育て・少子化対策 34.5%	防犯対策 30.9%
	平成29(2017)年 (n=1,304)	高齢者福祉対策 58.8%	医療対策 50.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 37.0%	子育て・少子化対策の充実(※) 34.1%	学校教育の充実 31.1%
20 〜 39 歳	令和3(2021)年 (n=288)	子育て・少子化対策 58.7%	学校教育の充実 44.8%	医療対策 42.4%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.0%	防災対策 37.5%
	令和2(2020)年 (n=218)	子育て・少子化対策 52.3%	医療対策 46.8%	学校教育の充実 46.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.3%	防災対策 37.2%
	令和元(2019)年 (n=234)	子育て・少子化対策 56.4%	医療対策 49.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 44.9%	学校教育の充実 42.3%	交通安全対策 41.5%
	平成30(2018)年 (n=229)	子育て・少子化対策 53.3%	医療対策 48.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.7%	学校教育の充実 37.6%	高齢者福祉対策 37.1%
	平成29(2017)年 (n=253)	子育て・少子化対策の充実(※) 56.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 49.8%	医療対策 46.6%	学校教育の充実 41.1%	高齢者福祉対策/防犯対策 34.8%
40 〜 59 歳	令和3(2021)年 (n=398)	医療対策 54.5%	高齢者福祉対策 48.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 42.2%	防災対策 38.7%	子育て・少子化対策 33.2%
	令和2(2020)年 (n=449)	医療対策 55.0%	高齢者福祉対策 49.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.3%	防災対策 43.4%	学校教育の充実 34.7%
	令和元(2019)年 (n=392)	高齢者福祉対策 54.8%	医療対策 51.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 42.1%	子育て・少子化対策 39.0%	防犯対策 35.5%
	平成30(2018)年 (n=411)	高齢者福祉対策 57.2%	医療対策 51.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 48.4%	子育て・少子化対策 34.3%	学校教育の充実 33.3%
	平成29(2017)年 (n=389)	高齢者福祉対策 55.8%	医療対策 55.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 42.7%	学校教育の充実 36.5%	子育て・少子化対策の充実(※) 35.2%
60 〜 69 歳	令和3(2021)年 (n=247)	高齢者福祉対策 67.6%	医療対策 59.5%	防災対策 41.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.0%	防犯対策 30.8%
	令和2(2020)年 (n=271)	高齢者福祉対策 62.7%	医療対策 55.4%	防災対策 43.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 30.3%	防犯対策 26.9%
	令和元(2019)年 (n=258)	高齢者福祉対策 67.4%	医療対策 52.7%	防災対策 33.7%	子育て・少子化対策/防犯対策 32.9%	
	平成30(2018)年 (n=267)	高齢者福祉対策 64.0%	医療対策 50.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 33.3%	子育て・少子化対策 31.8%	防犯対策 29.2%
	平成29(2017)年 (n=301)	高齢者福祉対策 65.1%	医療対策 48.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 34.9%	子育て・少子化対策の充実(※) 30.9%	食料の安定供給の確保・食の安全確保/防災対策 29.6%
70 歳 以上	令和3(2021)年 (n=312)	高齢者福祉対策 67.9%	医療対策 51.0%	防災対策 37.8%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 30.8%	防犯対策 28.2%
	令和2(2020)年 (n=315)	高齢者福祉対策 67.9%	医療対策 54.3%	防災対策 34.6%	防犯対策 28.6%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 26.0%
	令和元(2019)年 (n=299)	高齢者福祉対策 75.6%	医療対策 49.2%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 33.4%	交通安全対策 32.4%	防犯対策 30.1%
	平成30(2018)年 (n=320)	高齢者福祉対策 71.9%	医療対策 49.1%	防犯対策 30.0%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 27.2%	学校教育の充実/青少年の健全育成 25.3%
	平成29(2017)年 (n=323)	高齢者福祉対策 78.0%	医療対策 51.7%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 32.5%	交通安全対策 31.0%	防犯対策 27.9%

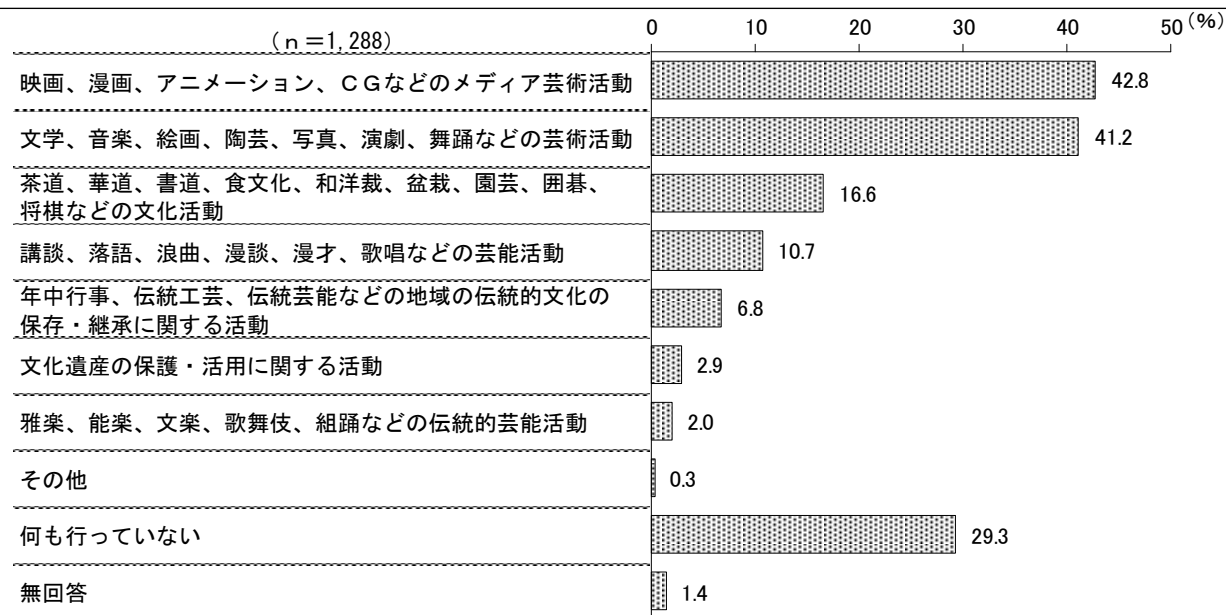
(※)「子育て・少子化対策」は、平成29(2017)年調査以前では「子育て・少子化対策の充実」としていた。

- ・ 上位5項目について、全体及び4区分した年齢層別に過去の調査結果と比較すると、全体では、平成29(2017)年以降「高齢者福祉対策」が同率も含め1位となっている。「医療対策」は平成29(2017)年以降、令和2(2020)年の同率1位を除いて2位となっている。令和2(2020)年に引き続き、「防災対策」が3位、「雇用の安定と勤労者の福祉」が4位、「子育て・少子化対策」が5位となっている。
- ・ 20～39歳では、「子育て・少子化対策」が平成29(2017)年以降1位となっている。令和2(2020)年で3位であった「学校教育の充実」が今回調査では2位となり、平成30(2018)年から令和2(2020)年まで2位であった「医療対策」が今回調査では3位となっている。令和2(2020)年に引き続き、「雇用の安定と勤労者の福祉」が4位、「防災対策」が5位となっている。
- ・ 40～59歳では、令和2(2020)年に引き続き、「医療対策」が1位、「高齢者福祉対策」が2位、「雇用の安定と勤労者の福祉」が3位、「防災対策」が4位となっている。平成29(2017)年以降1～3位は、「医療対策」、「高齢者福祉対策」、「雇用の安定と勤労者の福祉」の3項目が占めている。
- ・ 60～69歳では、平成29(2017)年以降、「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位となっている。「防災対策」は令和元(2019)年以降3位となっている。令和2(2020)年に引き続き、「雇用の安定と勤労者の福祉」が4位、「防犯対策」が5位となっている。
- ・ 70歳以上では、平成29(2017)年以降、「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位となっている。令和2(2020)年に引き続き、「防災対策」が3位となっている。「食料の安定供給の確保・食の安全確保」は令和2(2020)年では5位であったが、今回調査では4位となり、令和2(2020)年で4位であった「防犯対策」が5位となっている。

3 日常生活について

(1) 文化・芸術活動について

問6 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]

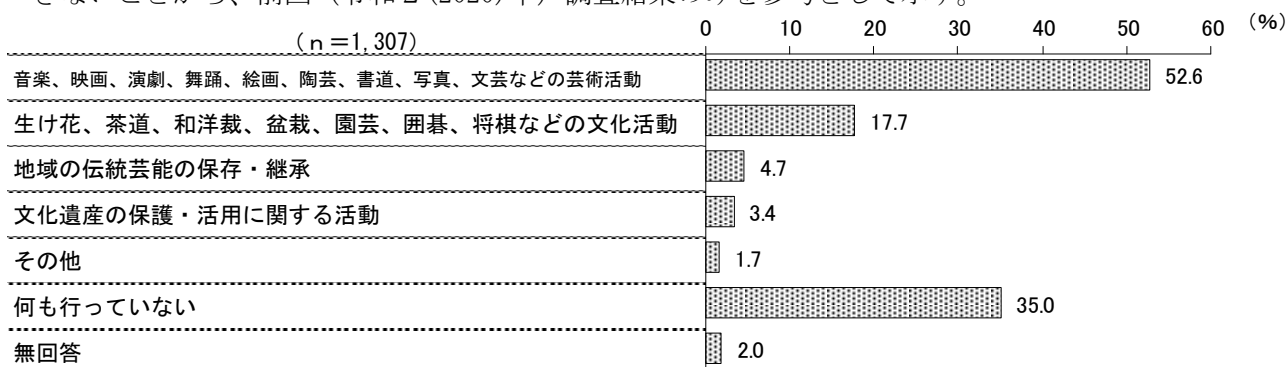


・全体でみると、「映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動（以下『メディア芸術活動』という。）」（42.8%）が4割を超えて最も高く、次いで「文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」（41.2%）、「茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」（16.6%）の順となっている。一方、「何も行っていない」（29.3%）がほぼ3割となっている。

・性別でみると、『芸術活動』では〈女性〉（46.1%）が〈男性〉（36.6%）より9.5ポイント高くなっている。

・性/年齢別でみると、『メディア芸術活動』では〈女性20歳代〉が76.5%、〈男性30歳代〉が69.7%、〈男性20歳代〉が65.6%と高くなっている。『芸術活動』では〈女性20歳代〉が60.3%と高くなっている。『文化活動』では〈男性70歳以上〉が29.7%、〈女性70歳以上〉が29.3%と高くなっている。「年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動」では〈男性70歳以上〉が16.8%で他の年代と比べて高くなっている。

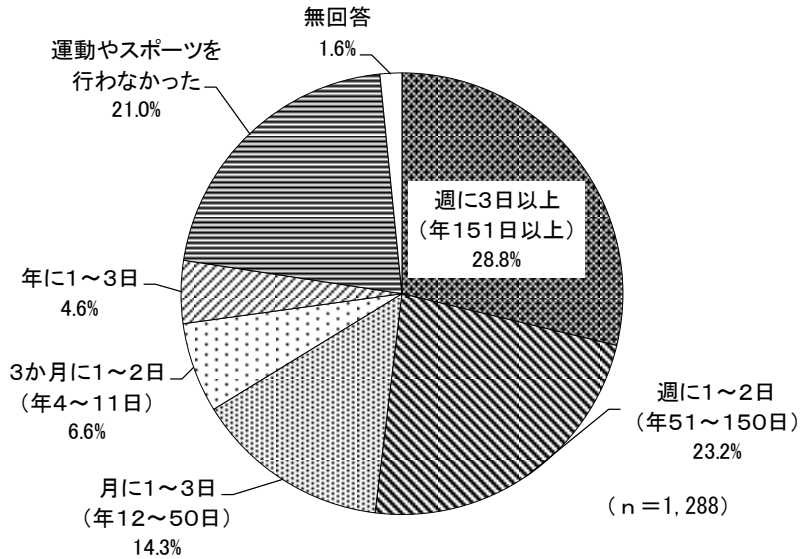
・過去の調査結果との比較は、今回調査で選択肢を大幅に見直したため、比率を直接比較することができないことから、前回（令和2（2020）年）調査結果のみを参考として示す。



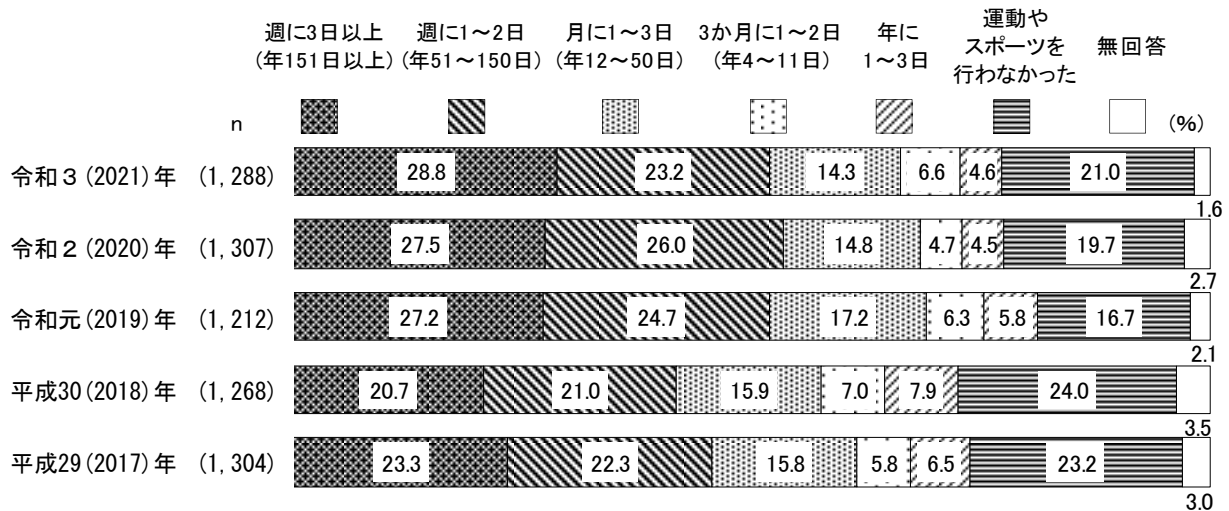
(2) スポーツ活動について

問7 あなたは、この1年間にどの程度運動やスポーツ(※)を行いましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]

※ 運動やスポーツには、ウォーキング(散歩、ぶらぶら歩き、一駅歩きなど)、階段昇降(2アップ3ダウンなど)、ジョギング、水泳、体操(ラジオ体操、エアロビクスなど)、室内運動器具を使ってする運動、レクリエーションスポーツ(フライングディスク、スポーツチャンバラなど)、ゲートボール、登山、ゴルフ、釣り、サイクリングのほか、子どもとの体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすことなどを含まれます。



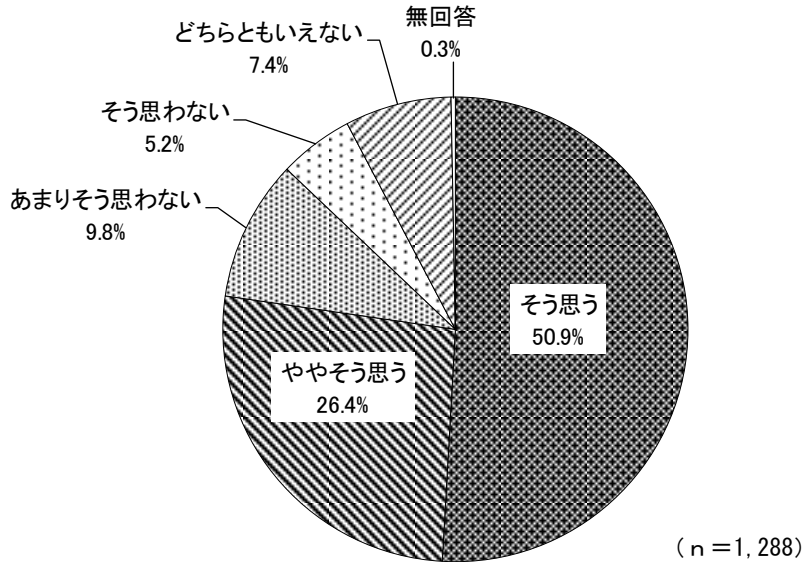
- 全体で見ると、「週に3日以上(年151日以上)」(28.8%)が3割近くで最も高く、次いで「週に1~2日(年51~150日)」(23.2%)、「月に1~3日(年12~50日)」(14.3%)の順となっている。一方、「運動やスポーツを行わなかった」(21.0%)が2割を超えている。
- 性別で見ると、「週に1~2日(年51~150日)」では〈女性〉(25.9%)が〈男性〉(19.8%)より6.1ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「週3日以上(年151日以上)」では〈女性70歳以上〉が43.9%、〈男性70歳以上〉が41.3%と高くなっている。「3か月に1~2日(年4~11日)」では〈男性30歳代〉が15.8%で他の年代と比べて高くなっている。



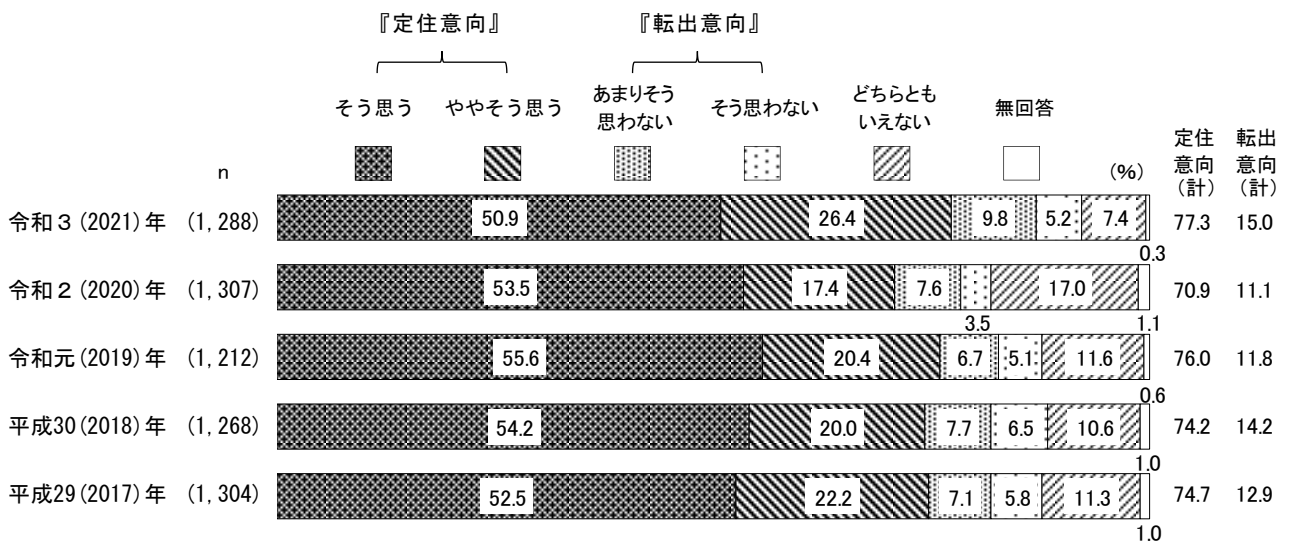
- 過去の調査結果と比較すると、前回(令和2(2020)年)と大きな傾向の違いはみられない。なお、平成30(2018)年以前の調査では、質問文中の「運動やスポーツ」の注釈(※)の文言が異なるため、比率を直接比較することができないことから、参考として示す。

(3) 住んでいる地域について

問8 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]



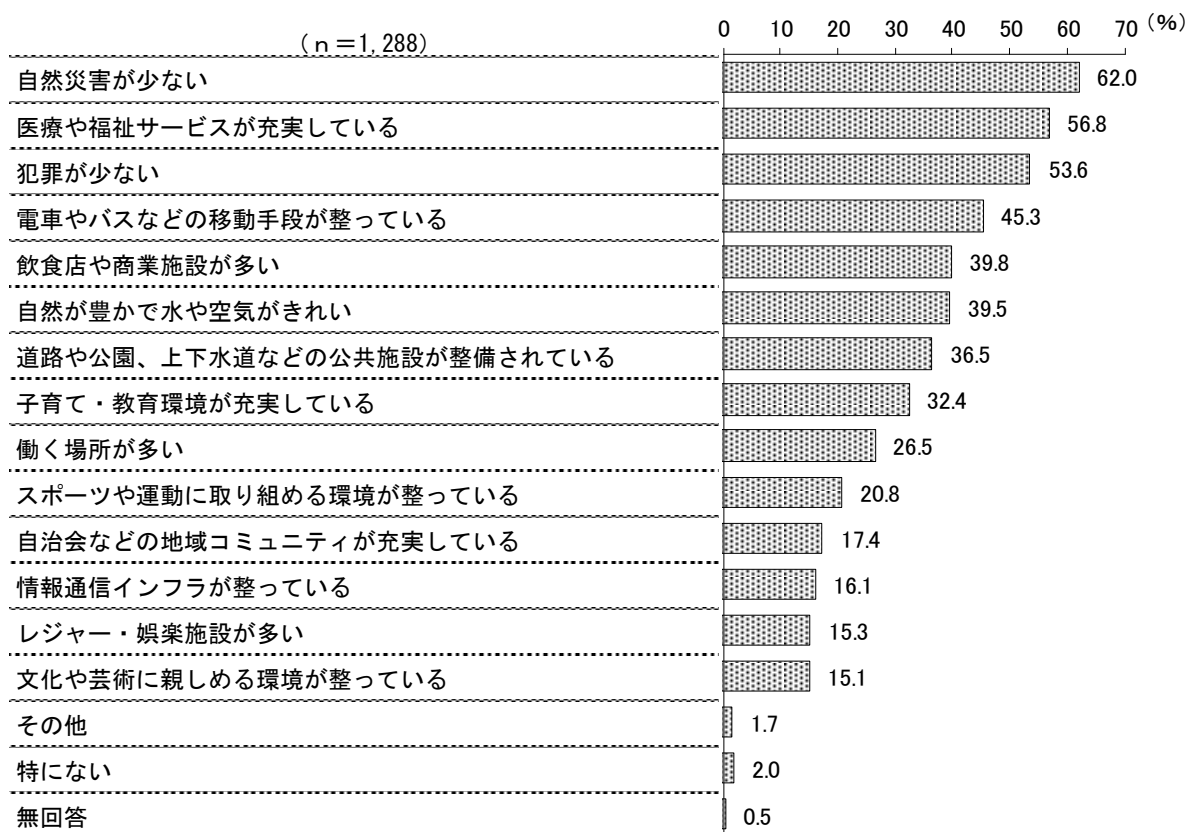
- ・全体で見ると、「そう思う」(50.9%)と「ややそう思う」(26.4%)の2つを合わせた『定住意向』(77.3%)が8割近くと高くなっている。一方、「あまりそう思わない」(9.8%)と「そう思わない」(5.2%)の2つを合わせた『転出意向』(15.0%)が1割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「そう思う」では〈男性70歳以上〉が71.0%、〈女性70歳以上〉が65.0%と高くなっている。「ややそう思う」では〈男性40歳代〉が40.0%と高くなっている。『定住意向』では〈男性40歳代〉が85.6%と高くなっている。一方、『転出意向』では〈男性20歳代〉が23.4%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、『定住意向』が前回 (令和2 (2020)年) より6.4ポイント増加している。一方、「どちらともいえない」が前回 (令和2 (2020)年) より9.6ポイント減少している。

(4) 住み続けるための理由について

問9 今後も住んでいる地域に住み続けていくためには、どのようなことが大切だと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]

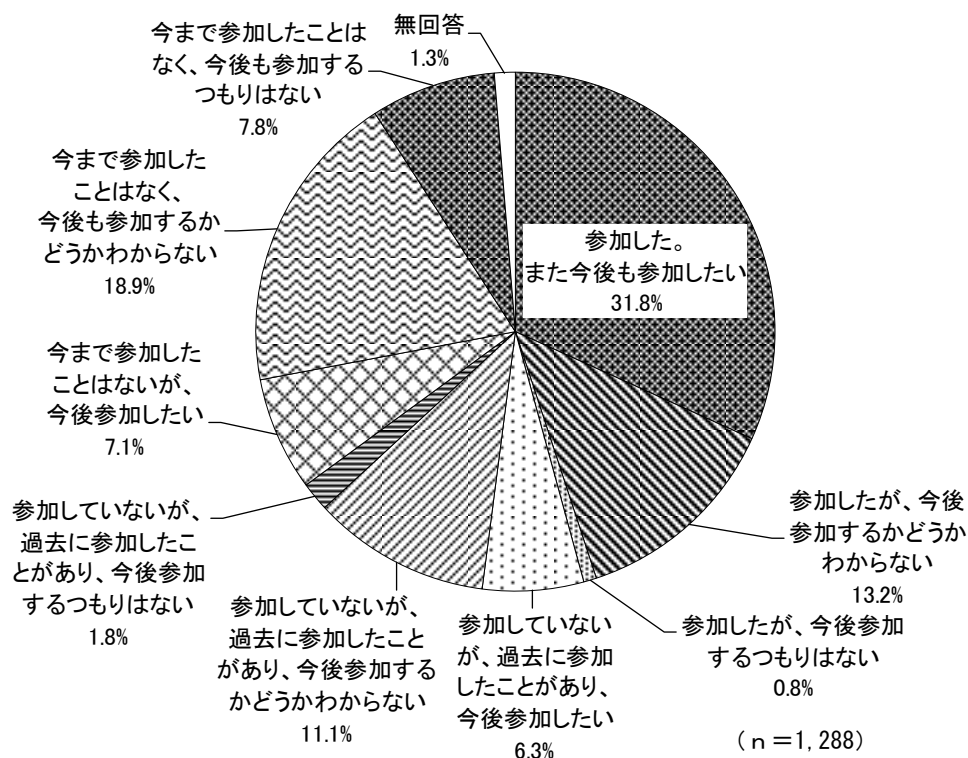


- ・全体で見ると、「自然災害が少ない」(62.0%)が6割を超え最も高く、次いで「医療や福祉サービスが充実している」(56.8%)、「犯罪が少ない」(53.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「電車やバスなどの移動手段が整っている」では〈女性〉(50.0%)が〈男性〉(40.1%)より9.9ポイント高くなっている。「子育て・教育環境が充実している」では〈女性〉(36.2%)が〈男性〉(28.9%)より7.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「自然災害が少ない」では〈女性50歳代〉が76.3%と高くなっている。「医療や福祉サービスが充実している」では〈女性50歳代〉が76.3%と高くなっている。「電車やバスなどの移動手段が整っている」では〈女性60～64歳〉が71.9%と高くなっている。「飲食店や商業施設が多い」では〈女性20歳代〉が66.2%、〈男性20歳代〉が56.3%と高くなっている。「子育て・教育環境が充実している」では〈女性30歳代〉が80.0%、〈男性30歳代〉が57.9%と高くなっている。

(5) 社会貢献活動について

問10 あなたは、この1年間に社会貢献活動(※)に参加しましたか。また、今後参加したいと思いませんか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO(非営利活動団体)活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。



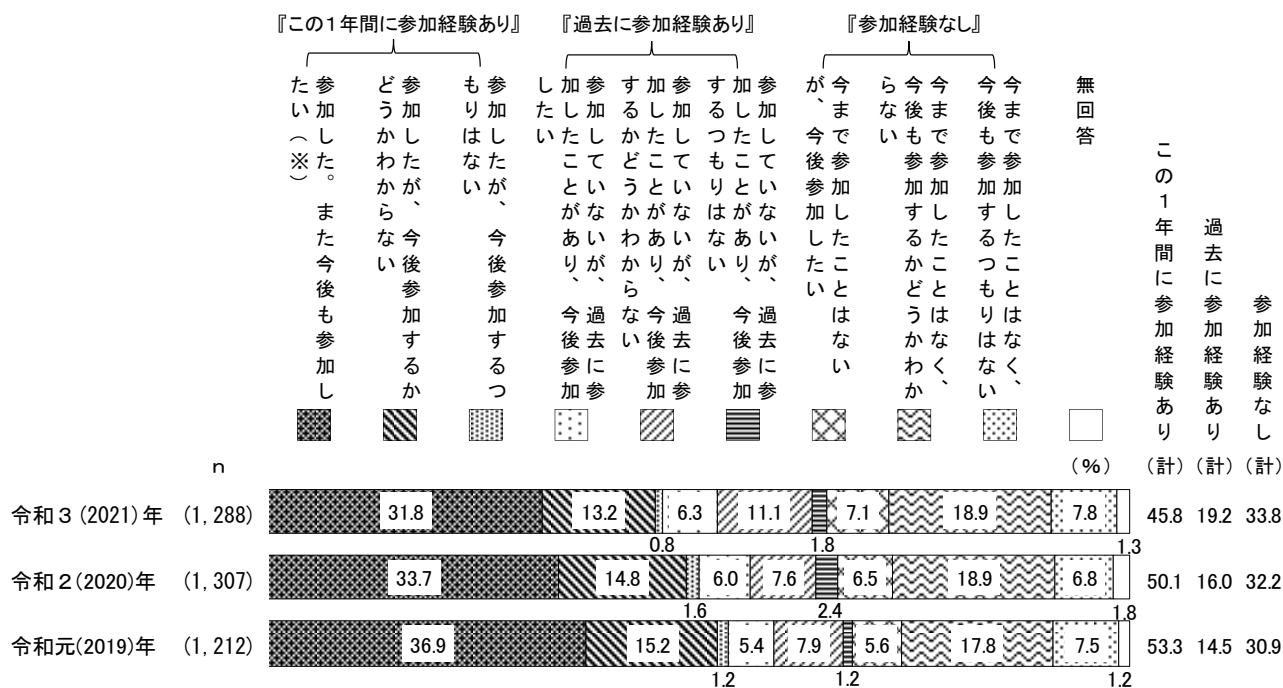
・全体で見ると、「参加した。また今後も参加したい」(31.8%)と「参加したが、今後参加するかどうかわからない」(13.2%)、「参加したが、今後参加するつもりはない」(0.8%)の3つを合わせた『この1年間に参加経験あり』(45.8%)が4割半ばとなっている。

「参加していないが、過去に参加したことがある、今後参加したい」(6.3%)と「参加していないが、過去に参加したことがある、今後参加するかどうかわからない」(11.1%)、「参加していないが、過去に参加したことがある、今後参加するつもりはない」(1.8%)の3つを合わせた『過去に参加経験あり』(19.2%)はほぼ2割となっている。

「今まで参加したことはないが、今後参加したい」(7.1%)と「今まで参加したことはなく、今後参加するかどうかわからない」(18.9%)、「今まで参加したことはなく、今後参加するつもりはない」(7.8%)の3つを合わせた『参加経験なし』(33.8%)は3割を超えている。

- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「参加した。また今後も参加したい」では〈男性50歳代〉が46.8%と高くなっている。『この1年間に参加経験あり』では〈女性40歳代〉が59.4%と高くなっている。『過去に参加経験あり』では〈男性20歳代〉が34.4%と高くなっている。『参加経験なし』では〈女性20歳代〉が58.8%と高くなっている。

[過去の調査結果]

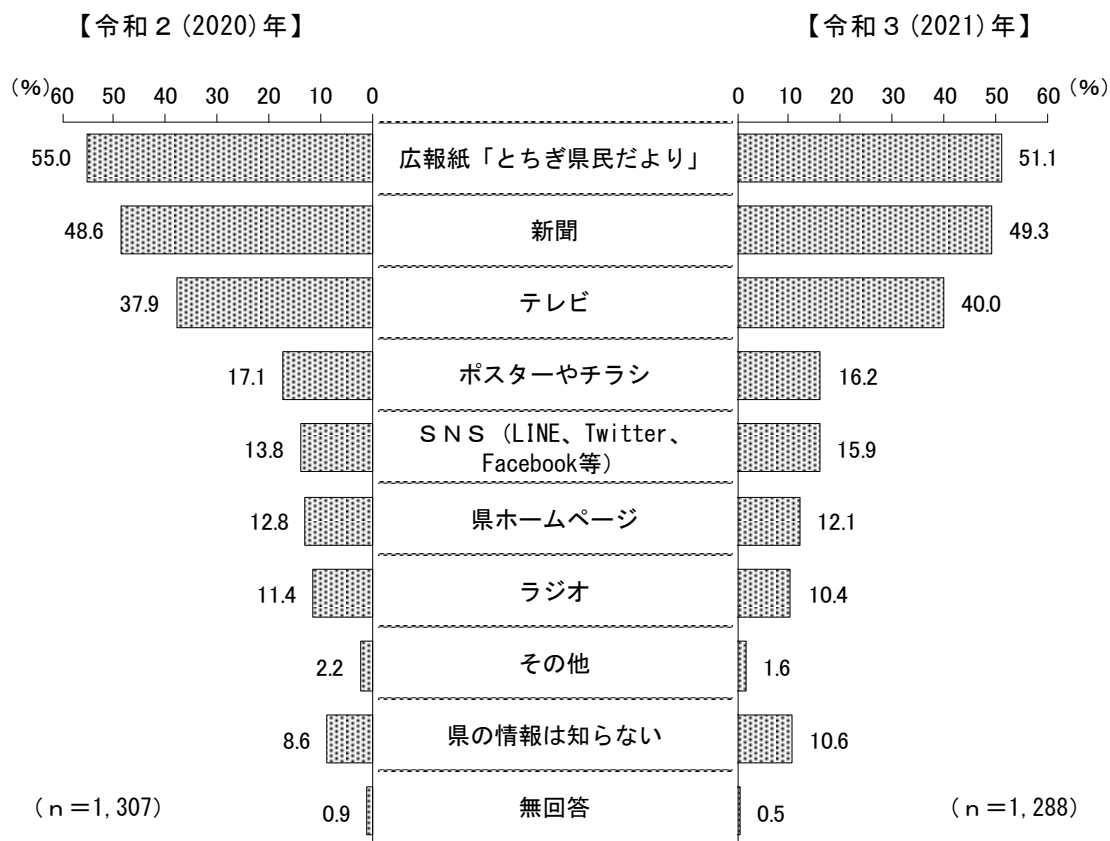


(※)「参加した。また今後も参加したい」は、令和2(2020)年までは「参加し、今後も参加したい」としていた。

- 過去の調査結果と比較すると、『この1年間に参加経験あり』は令和2(2020)年より4.3ポイント減少している。

(6) 県の事業や催し、案内などの情報入手手段

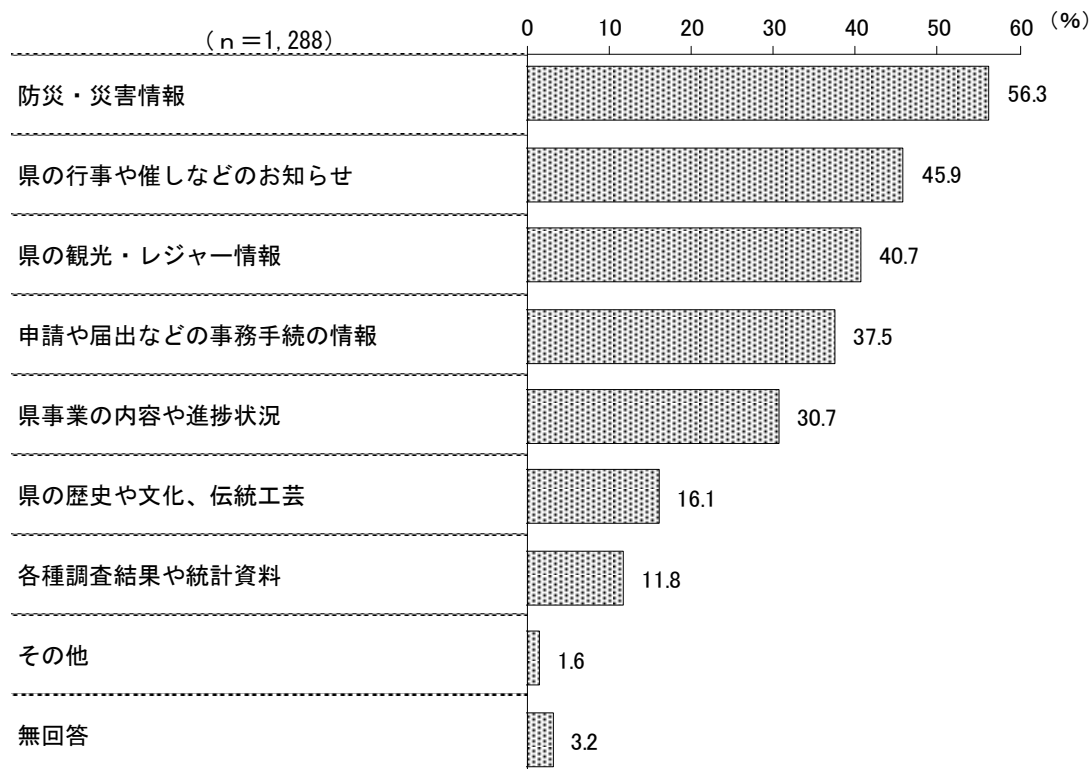
問11 あなたは、県の事業や催し、案内などの情報をどのような方法でお知りになりますか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]



- ・全体で見ると、「広報紙『とちぎ県民だより』」(51.1%)が5割を超えて最も高く、次いで「新聞」(49.3%)、「テレビ」(40.0%)、「ポスターやチラシ」(16.2%)、「SNS (LINE、Twitter、Facebook等)」(15.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「ポスターやチラシ」では〈女性〉(19.2%)が〈男性〉(13.6%)より5.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈男性70歳以上〉が74.8%、〈女性70歳以上〉が71.3%と高くなっている。「新聞」では〈女性70歳以上〉が77.1%、〈男性70歳以上〉が74.2%と高くなっている。「テレビ」では〈女性65～69歳〉が64.5%、〈女性70歳以上〉が56.1%、〈男性70歳以上〉が51.6%と高くなっている。「SNS (LINE、Twitter、Facebook等)」では〈男性20歳代〉が43.8%、〈女性20歳代〉が39.7%、〈女性30歳代〉が35.0%と高くなっている。「県の情報は知らない」では〈女性20歳代〉が26.5%、〈男性30歳代〉が22.4%と高くなっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

(7) 知りたい県政情報

問12 あなたは、県のどのような情報を知りたいですか。次の中からいくつでも選んでください。
[n = 1,288]

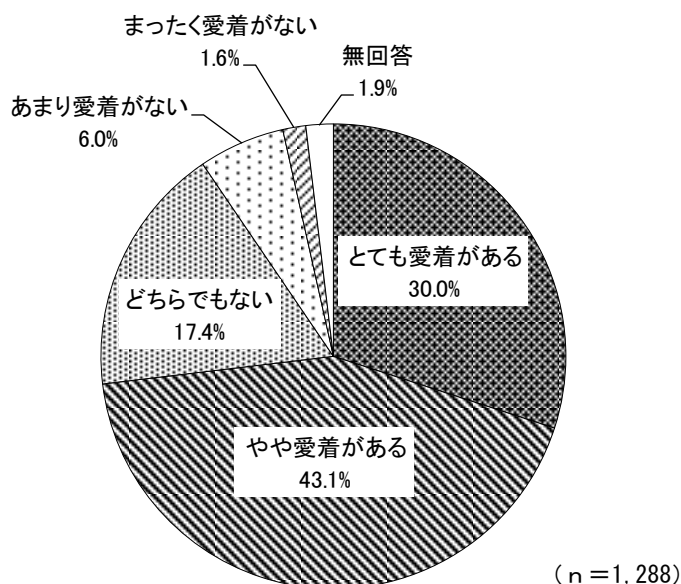


- ・全体で見ると、「防災・災害情報」(56.3%)が5割半ばで最も高く、次いで「県の行事や催しなどのお知らせ」(45.9%)、「県の観光・レジャー情報」(40.7%)、「申請や届出などの事務手続の情報」(37.5%)、「県事業の内容や進捗状況」(30.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「県事業の内容や進捗状況」では〈男性〉(36.7%)が〈女性〉(26.3%)より10.4ポイント高くなっている。「県の行事や催しなどのお知らせ」では〈女性〉(50.6%)が〈男性〉(40.6%)より10.0ポイント高くなっている。「申請や届出などの事務手続の情報」では〈女性〉(41.6%)が〈男性〉(33.7%)より7.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「県の観光・レジャー情報」では〈女性30歳代〉が61.3%と高くなっている。「申請や届出などの事務手続の情報」では〈女性50歳代〉が55.1%、〈女性20歳代〉が52.9%と高くなっている。「県事業の内容や進捗状況」では〈男性40歳代〉が44.4%と高くなっている。「県の歴史や文化、伝統工芸」では〈男性70歳以上〉が27.7%と高くなっている。「各種調査結果や統計資料」では〈男性70歳以上〉が19.4%と高くなっている。

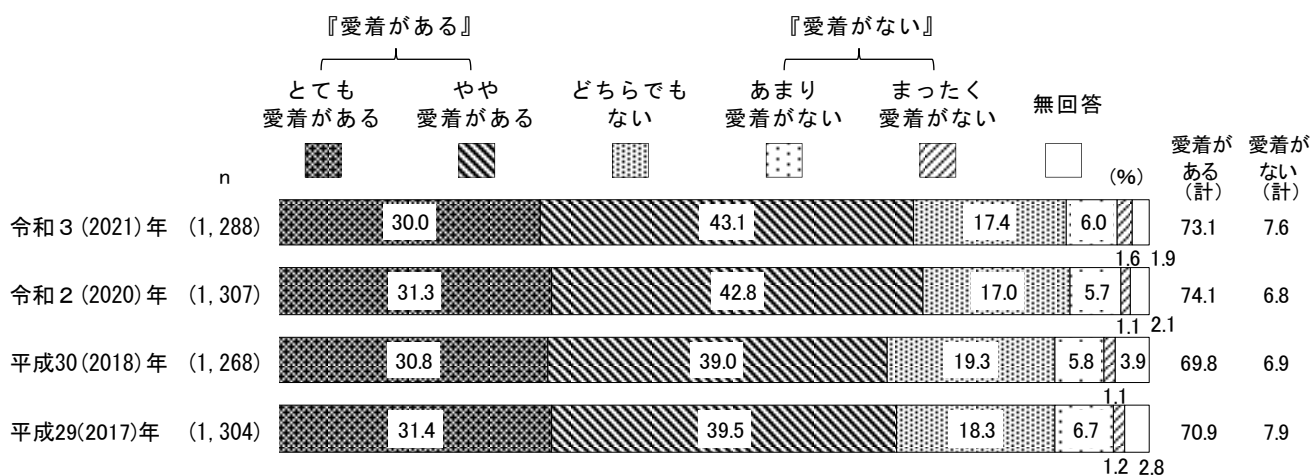
4 栃木県への愛着と誇りについて

(1) 栃木県に対する愛着

問13 あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]



- ・全体で見ると、「とても愛着がある」(30.0%)と「やや愛着がある」(43.1%)の2つを合わせた『愛着がある』(73.1%)が7割を超えている。一方、「あまり愛着がない」(6.0%)と「まったく愛着がない」(1.6%)の2つを合わせた『愛着がない』(7.6%)が1割近くとなっている。また、「どちらでもない」(17.4%)が2割近くとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「とても愛着がある」では〈男性40歳代〉が38.9%、〈女性70歳以上〉が38.2%、〈男性70歳以上〉が37.4%と高くなっている。「どちらでもない」では〈男性20歳代〉が29.7%と高くなっている。『愛着がある』では〈男性65～69歳〉が83.9%と高くなっている。一方、『愛着がない』では〈男性30歳代〉が14.4%、〈女性30歳代〉が13.8%で他の年代と比べて高くなっている。

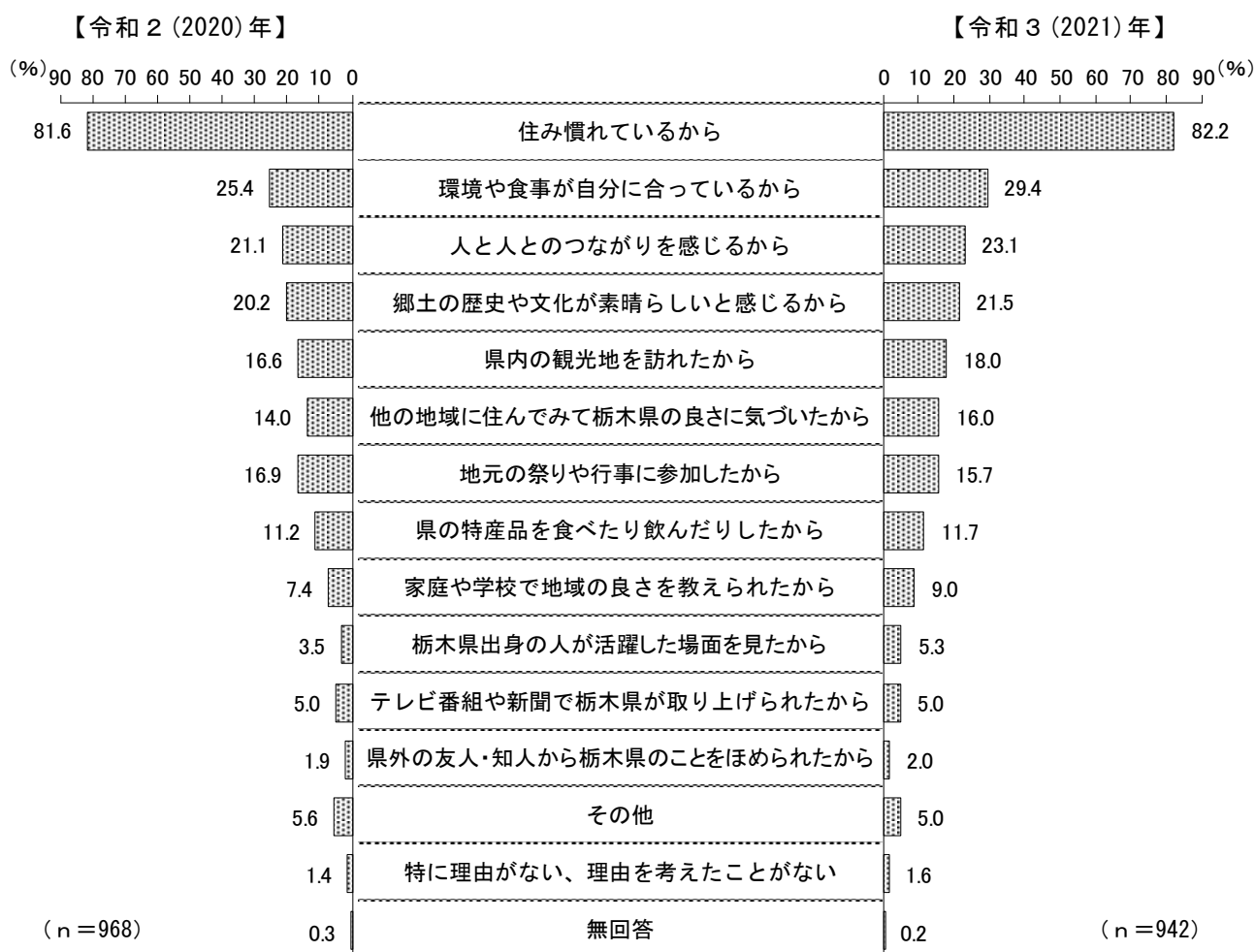


- ・過去の調査結果と比較すると、前回(令和2(2020)年)と大きな傾向の違いはみられない。

(1-1) 栃木県に愛着を感じる理由

(問13で選択肢「とても愛着がある」、「やや愛着がある」を選んだ方のみお答えください)
問13-1 あなたが愛着を感じる理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

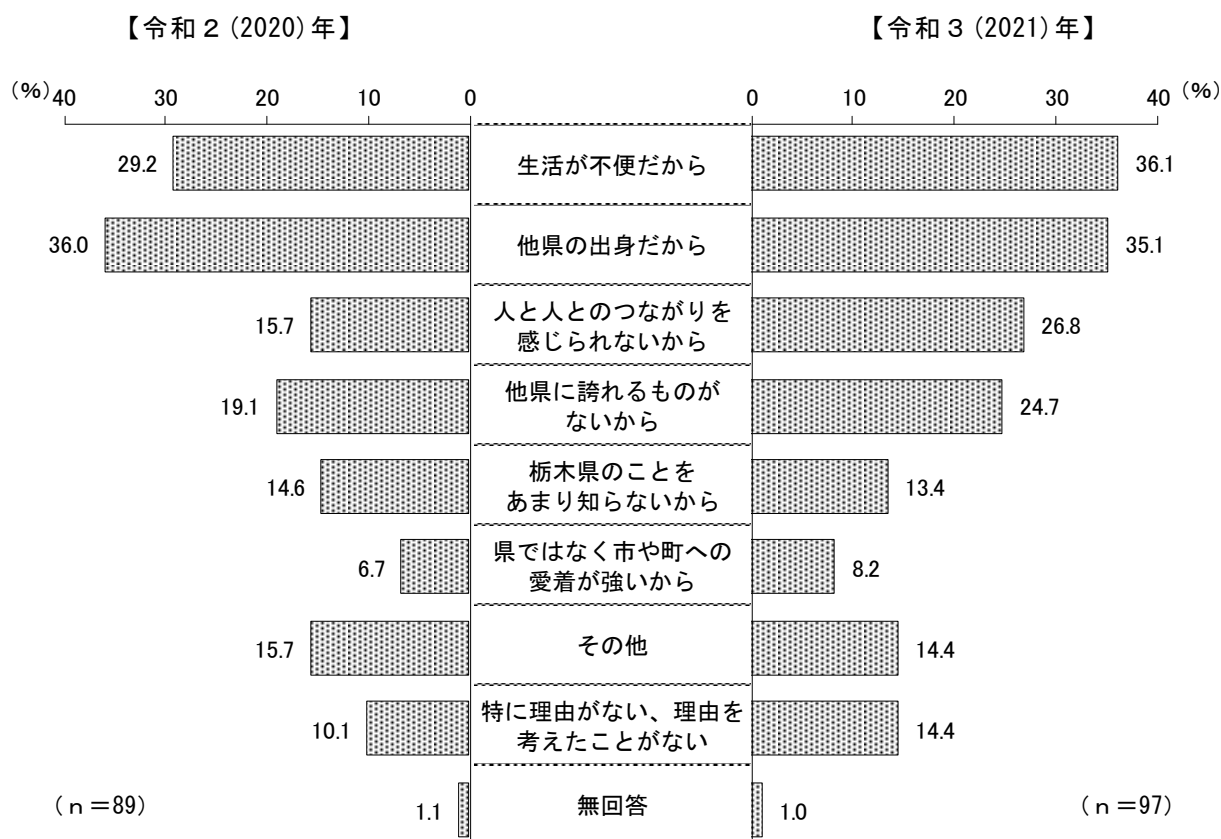
[n=942]



- ・全体で見ると、「住み慣れているから」(82.2%)が8割を超えて最も高く、次いで「環境や食事が自分に合っているから」(29.4%)、「人と人とのつながりを感じるから」(23.1%)、「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」(21.5%)、「県内の観光地を訪れたから」(18.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「人と人とのつながりを感じるから」では〈女性70歳以上〉が36.1%と高くなっている。「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」では〈男性70歳以上〉が39.6%と高くなっている。「県内の観光地を訪れたから」では〈男性70歳以上〉が31.5%と高くなっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、「環境や食事が自分に合っているから」が4.0ポイント増加している。

(1-2) 栃木県に愛着を感じない理由

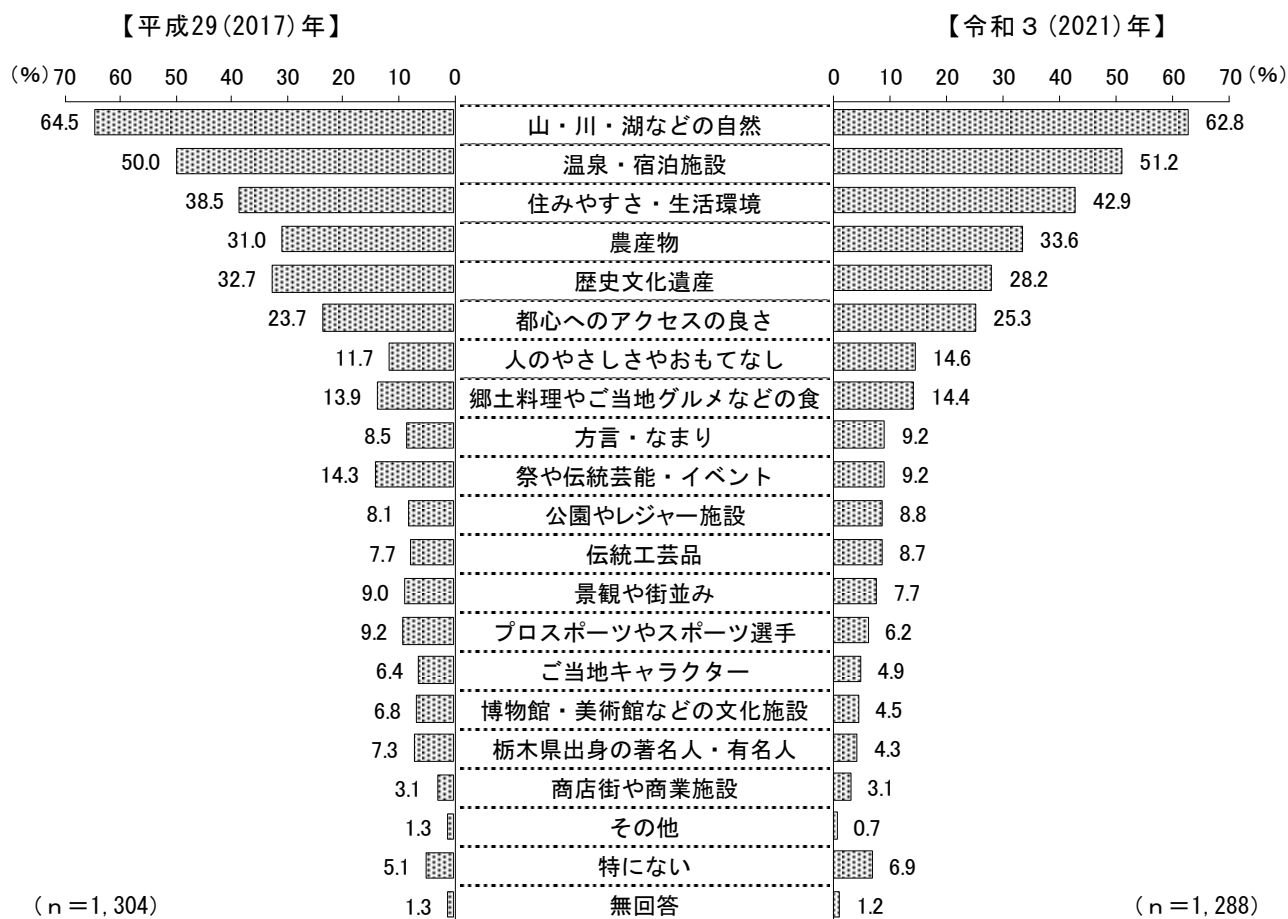
(問13で選択肢「あまり愛着がない」、「まったく愛着がない」を選んだ方のみお答えください)
 問13-2 あなたが愛着を感じない理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。
 [n=97]



- ・全体で見ると、「生活が不便だから」(36.1%)が3割半ばで最も高く、次いで「他県出身だから」(35.1%)、「人と人とのつながりを感じられないから」(26.8%)、「他県に誇れるものがないから」(24.7%)、「栃木県のことをあまり知らないから」(13.4%)の順となっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、「人と人とのつながりを感じられないから」が11.1ポイント、「生活が不便だから」が6.9ポイント、「他県に誇れるものがないから」が5.6ポイント、それぞれ増加している。

(2) 栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの

問14 あなたが栃木県の魅力として自慢できるものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]

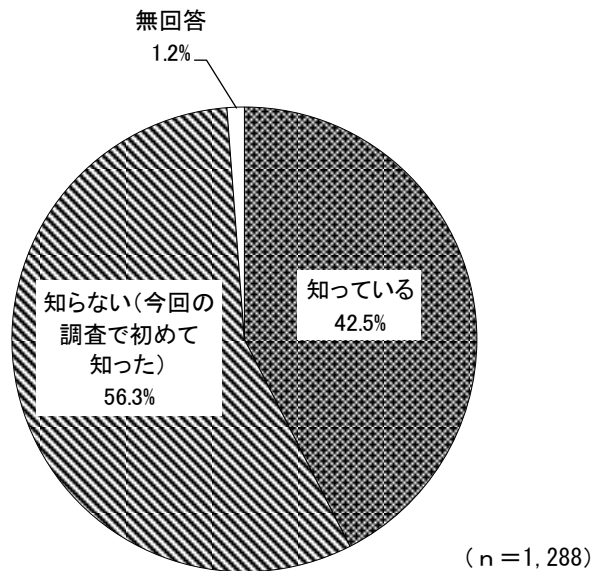


- ・全体で見ると、「山・川・湖などの自然」(62.8%)が6割を超え最も高く、次いで「温泉・宿泊施設」(51.2%)、「住みやすさ・生活環境」(42.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「山・川・湖などの自然」では〈男性65～69歳〉が75.0%、〈男性70歳以上〉が71.0%、〈女性70歳以上〉が70.7%と高くなっている。「歴史文化遺産」では〈女性60～64歳〉が40.6%と高くなっている。「都心へのアクセスの良さ」では〈女性50歳代〉が37.3%と高くなっている。「方言・なまり」では〈男性40歳代〉が17.8%で他の年代と比べて高くなっている。
- ・前回(平成29(2017)年)の調査結果と比較すると、「住みやすさ・生活環境」が4.4ポイント増加し、「祭や伝統芸能・イベント」が5.1ポイント、「歴史文化遺産」が4.5ポイント、それぞれ減少している。

5 SDGsについて

(1) SDGsの認知度

問15 あなたは、SDGs (エスディーゼーズ)という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]

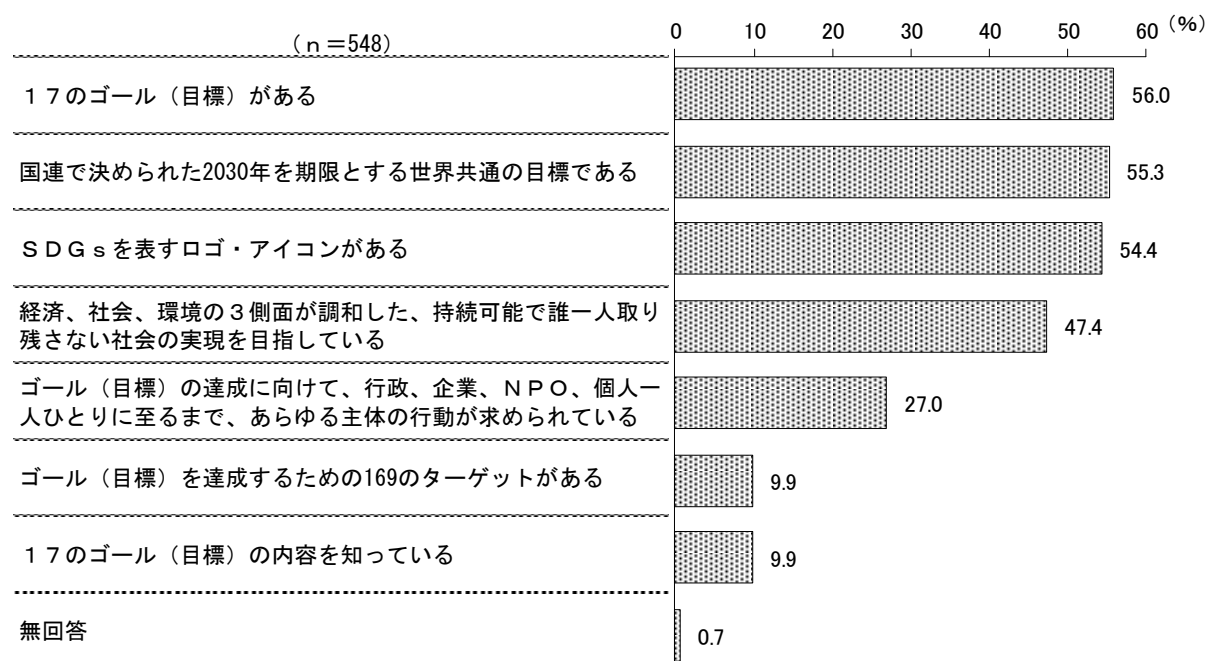


- ・全体で見ると、「知っている」(42.5%)は4割を超えている。一方、「知らない(今回の調査で初めて知った)」(56.3%)は5割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「知っている」では〈男性50歳代〉が62.0%、〈女性30歳代〉が57.5%と高くなっている。一方、「知らない(今回の調査で初めて知った)」では〈女性70歳以上〉が75.8%、〈男性70歳以上〉が69.0%と高くなっている。

(1-1) SDGsのどのようなことを知っているか

(問15で選択肢「知っている」を選んだ方のみお答えください)

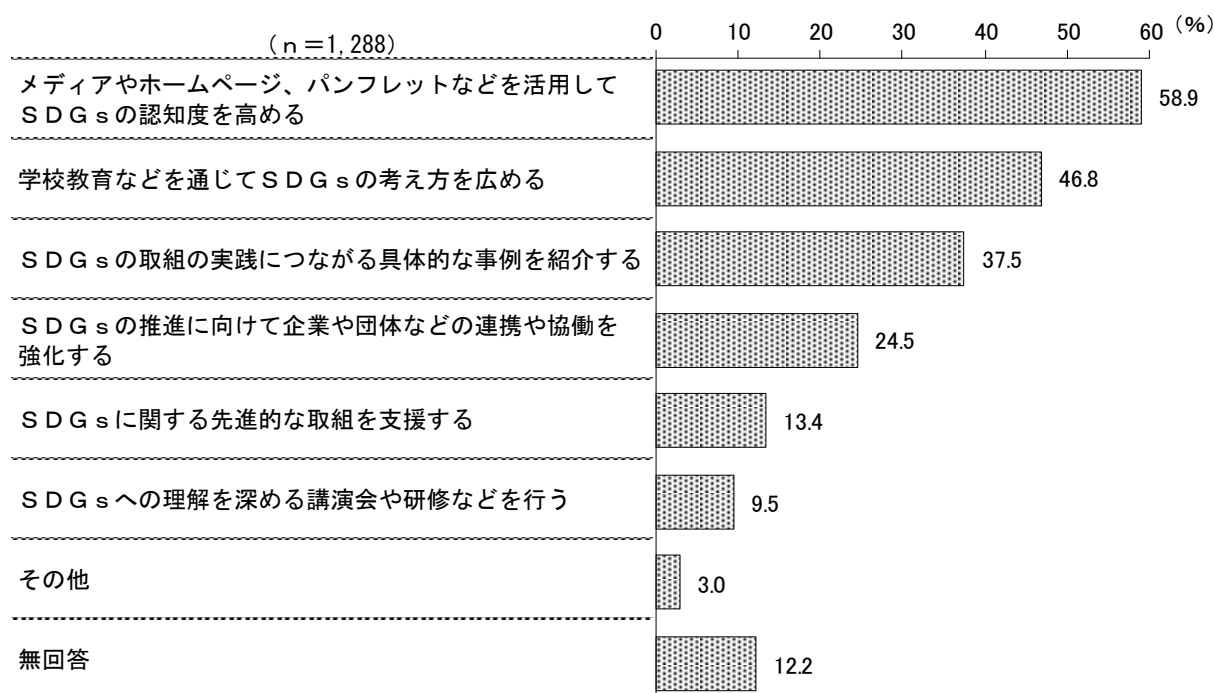
問15-1 SDGs(イステイジ-ズ)について、どのようなことを知っていますか。次の中からいくつかを選んでください。 [n=548]



- ・全体で見ると、「17のゴール(目標)がある」(56.0%)が5割半ばで最も高く、次いで「国連で決められた2030年を期限とする世界共通の目標である」(55.3%)、「SDGsを表すロゴ・アイコンがある」(54.4%)、「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」(47.4%)、「ゴール(目標)の達成に向けて、行政、企業、NPO、個人一人ひとりに至るまで、あらゆる主体の行動が求められている」(27.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「経済、社会、環境の3側面が調和した持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」では〈男性70歳以上〉が68.2%と高くなっている。

(2) SDGsに対する理解・促進の方法

問16 行政、県民、企業、NPO等、あらゆる主体がSDGs（イシューズ）に対する理解を深め、その理念を踏まえて行動していくことが重要となっています。今後、SDGs（イシューズ）に対する理解や取組を促進していくためには、どのような方法が有効だと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]

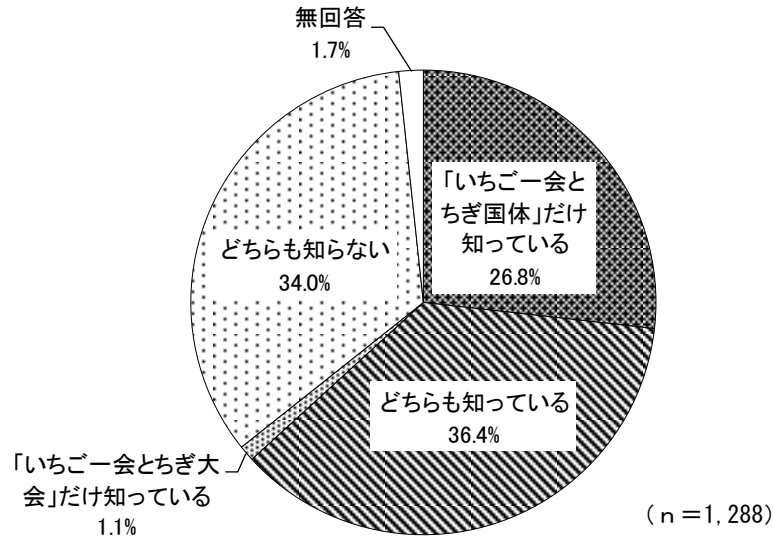


- ・全体で見ると、「メディアやホームページ、パンフレットなどを利用してSDGsの認知度を高める」(58.9%)が6割近くで最も高く、次いで「学校教育などを通じてSDGsの考え方を広める」(46.8%)、「SDGsの取組の実践につながる具体的な事例を紹介する」(37.5%)、「SDGsの推進に向けて企業や団体などの連携や協働を強化する」(24.5%)、「SDGsに関する先進的な取組を支援する」(13.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「学校教育などを通じてSDGsの考え方を広める」では〈女性30歳代〉が70.0%と高くなっている。「SDGsの推進に向けて企業や団体などの連携や協働を強化する」では〈男性20歳代〉が40.6%、〈女性50歳代〉が35.6%と高くなっている。

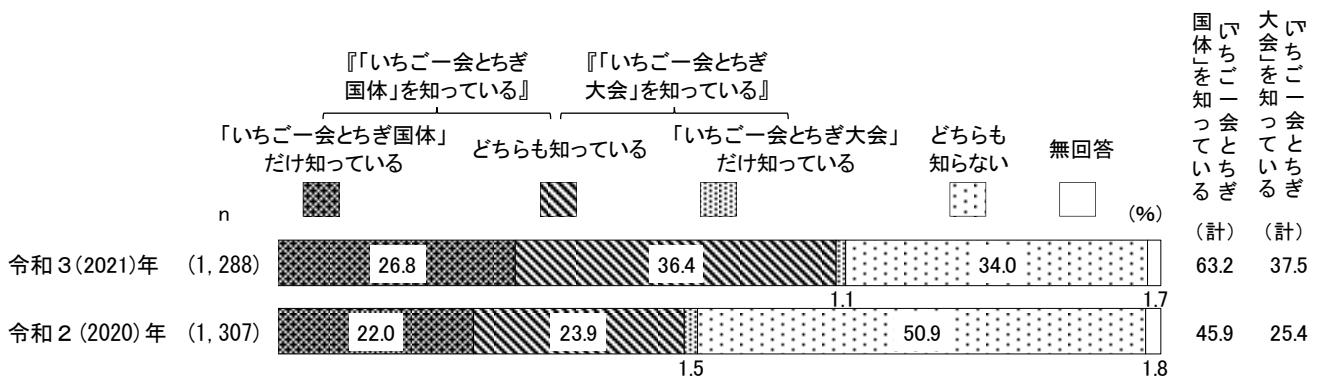
6 第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」及び第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」の開催について

(1) 「いちご一会とちぎ国体」「いちご一会とちぎ大会」の認知度

問17 あなたは、2022年に「いちご一会とちぎ国体」及び「いちご一会とちぎ大会」が栃木県で開催されることを知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]



- ・全体で見ると、「どちらも知っている」(36.4%)と『「いちご一会とちぎ国体」だけ知っている』(26.8%)の2つを合わせた『「いちご一会とちぎ国体」を知っている』(63.2%)が6割を超え、「どちらも知っている」(36.4%)と『「いちご一会とちぎ大会」だけ知っている』(1.1%)の2つを合わせた『「いちご一会とちぎ大会」を知っている』(37.5%)が4割近くとなっている。一方、「どちらも知らない」(34.0%)が3割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『「いちご一会とちぎ国体」を知っている』では〈男性50歳代〉が72.1%、〈女性50歳代〉が72.0%と高くなっている。『「いちご一会とちぎ大会」を知っている』では〈女性50歳〉が46.6%、〈男性70歳以上〉が45.2%と高くなっている。一方、「どちらも知らない」では〈男性65～69歳〉が42.9%と高くなっている。

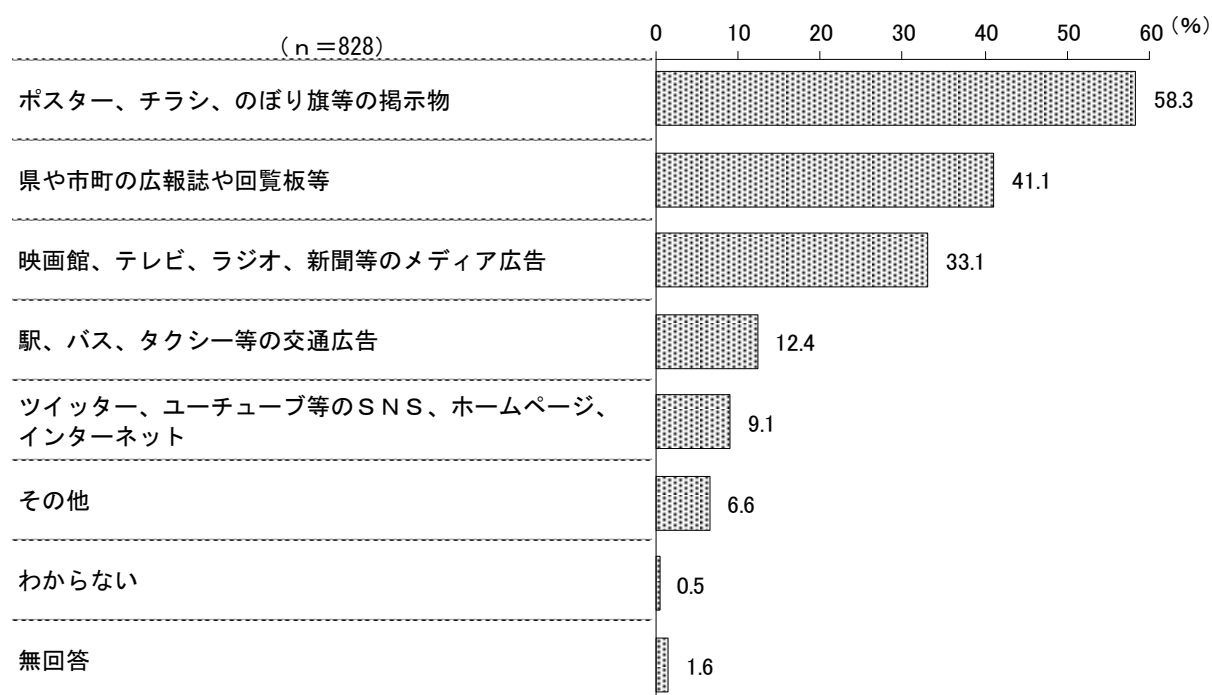


- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、『「いちご一会とちぎ国体」を知っている』は17.3ポイント、『「いちご一会とちぎ大会」を知っている』は12.1ポイント、それぞれ増加している。

(1-1) 両大会が栃木県で開催されることを知った方法

(問17で選択肢「どちらも知っている」、「『いちご一会とちぎ国体』だけ知っている」、
「『いちご一会とちぎ大会』だけ知っている」を選んだ方のみお答えください)

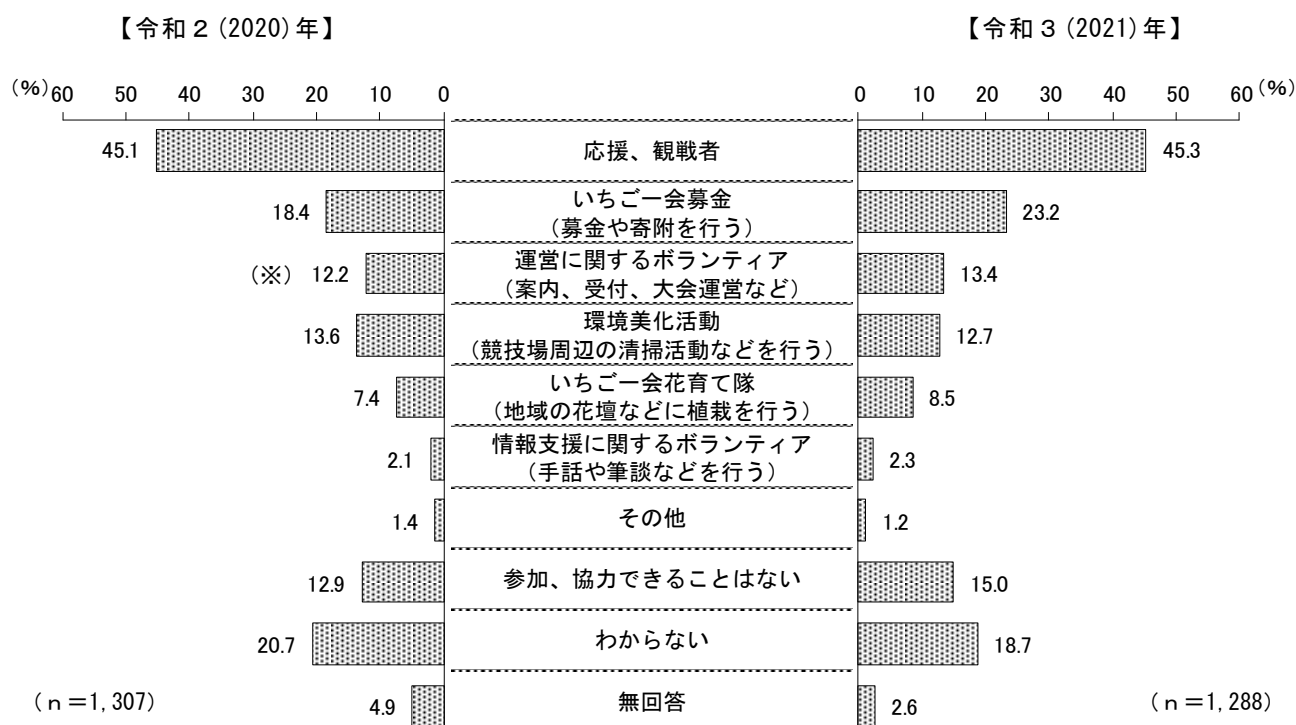
問17-1 あなたは、両大会が栃木県で開催されることを、どのような広報手段で知りましたか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=828]



- ・全体で見ると、「ポスター、チラシ、のぼり旗等の掲示物」(58.3%)が6割近くで最も高く、次いで「県や市町の広報誌や回覧板等」(41.1%)、「映画館、テレビ、ラジオ、新聞等のメディア広告」(33.1%)、「駅、バス、タクシー等の交通広告」(12.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「ポスター、チラシ、のぼり旗等の掲示物」では〈女性〉(63.0%)が〈男性〉(53.5%)より9.5ポイント高くなっている。「映画館、テレビ、ラジオ、新聞等のメディア広告」では〈男性〉(37.0%)が〈女性〉(28.9%)より8.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「ポスター、チラシ、のぼり旗等の掲示物」では〈女性30歳代〉が80.9%と高くなっている。「県や市町の広報誌や回覧板等」では〈男性65~69歳〉が68.8%、〈男性70歳以上〉が62.6%、〈女性70歳以上〉が60.4%と高くなっている。

(2) 両大会に参加・協力できる方法

問18 両大会を盛り上げていくためには、選手や競技役員以外にも1人でも多くの方のご参加、ご協力が必要です。あなたは、選手や競技役員以外でどのような形でなら参加、協力できると思いますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]



(※)「運営に関するボランティア(案内、受付、大会運営など)」は、令和2(2020)年調査までは「運営に関するボランティア(受付、案内、大会運営などを行う)」としていた。

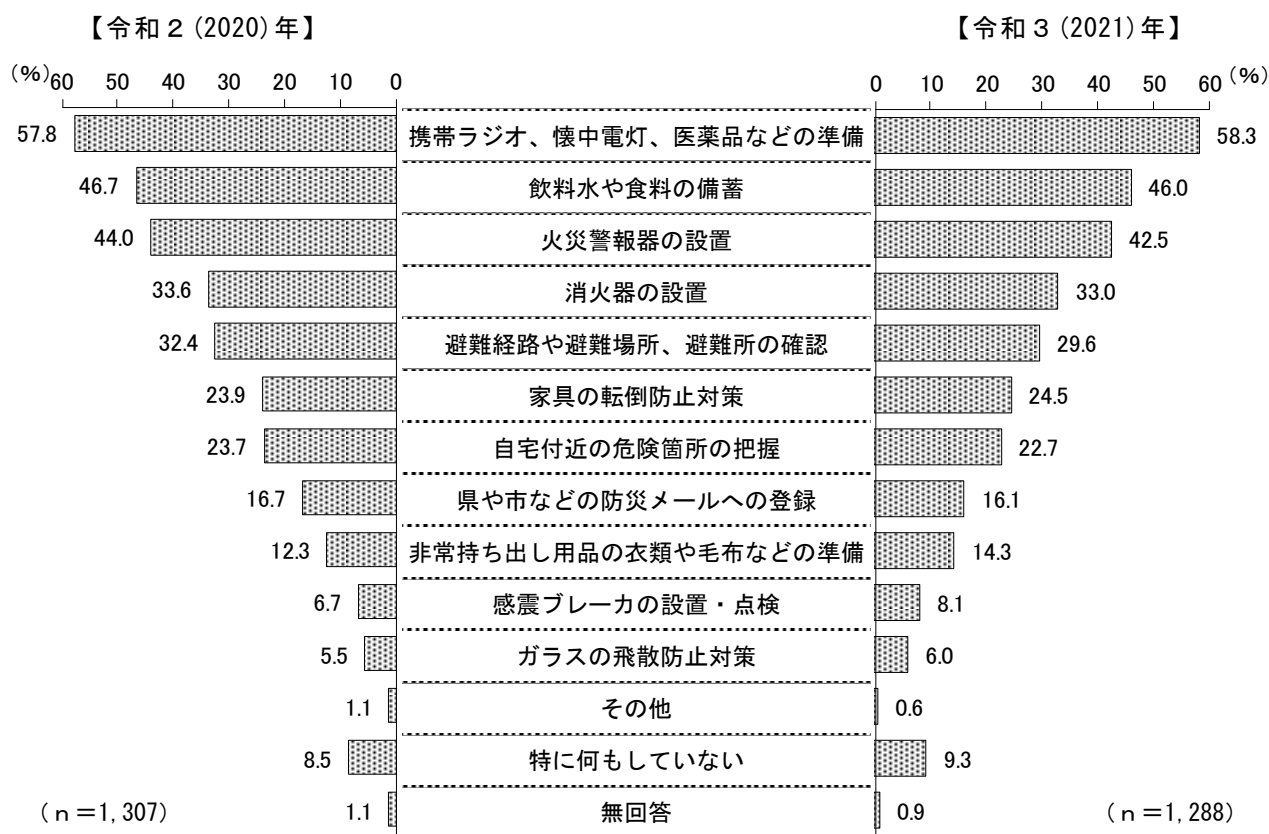
- ・全体で見ると、「応援、観戦者」(45.3%)が4割半ばで最も高く、次いで「いちご一会募金(募金や寄附を行う)」(23.2%)、「運営に関するボランティア(案内、受付、大会運営など)」(13.4%)、「環境美化活動(競技場周辺の清掃活動などを行う)」(12.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「いちご一会募金(募金や寄附を行う)」では〈女性〉(27.7%)が〈男性〉(18.3%)より9.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「いちご一会募金(募金や寄附を行う)」では〈女性40歳代〉が36.0%で他の年代と比べて高くなっている。「運営に関するボランティア(案内、受付、大会運営など)」では〈女性40歳代〉が26.1%と高くなっている。「いちご一会花育て隊(地域の花壇などに植栽を行う)」では〈女性50歳代〉が16.1%で他の年代と比べて高くなっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、「いちご一会募金(募金や寄附を行う)」が4.8ポイント増加している。

7 地域防災について

(1) 災害に対する備え

問19 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]

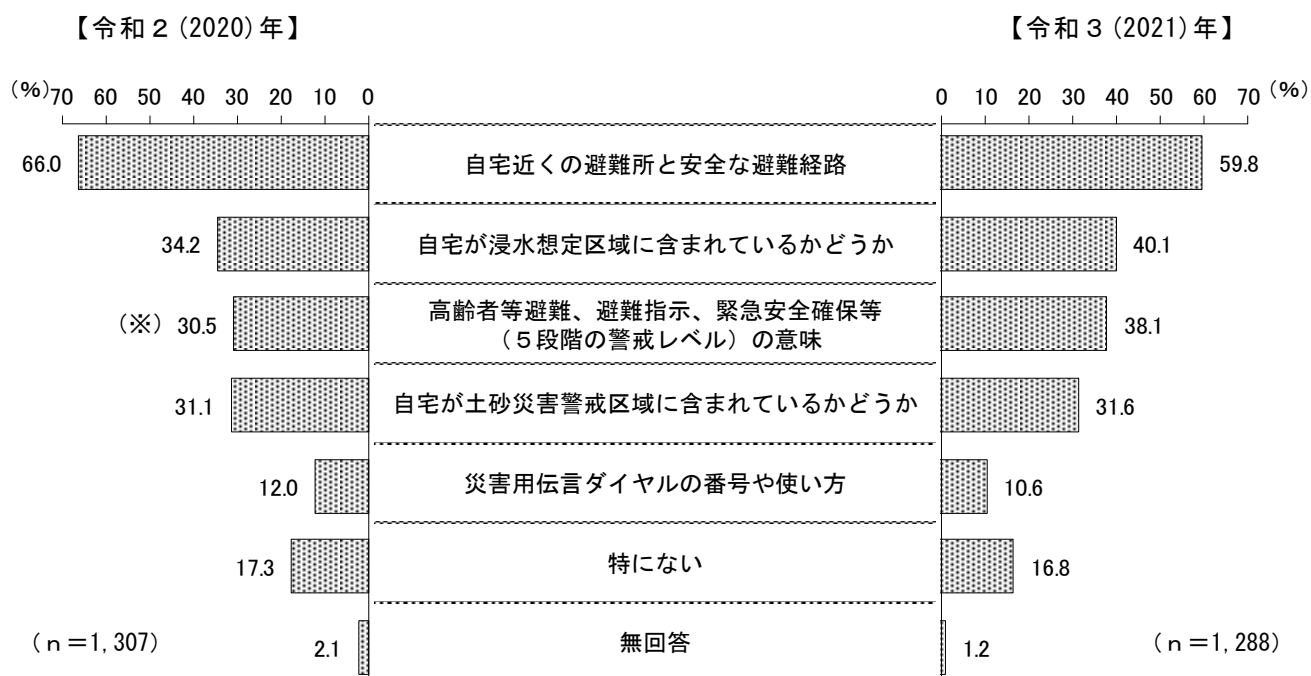
※ 感震ブレーカとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。



- ・全体でみると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」(58.3%)が6割近くで最も高く、次いで「飲料水や食料の備蓄」(46.0%)、「火災警報器の設置」(42.5%)、「消火器の設置」(33.0%)、「避難経路や避難場所、避難所の確認」(29.6%)の順となっている。
- ・性別でみると、「飲料水や食料の備蓄」では〈女性〉(51.5%)が〈男性〉(40.4%)より11.1ポイント高くなっている。「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性〉(33.5%)が〈男性〉(25.7%)より7.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈男性70歳以上〉が73.5%、〈女性70歳以上〉が73.2%と高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈女性50歳代〉が63.6%と高くなっている。「消火器の設置」では〈男性70歳以上〉が50.3%と高くなっている。「家具の転倒防止対策」では〈男性50歳代〉が39.2%と高くなっている。「県や市などの防災メールへの登録」では〈女性40歳代〉が29.7%、〈女性50歳代〉が27.1%と高くなっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 災害の際に必要な情報について知っていること

問20 あなたは、災害の際に必要な情報について、どのようなことを知っていますか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1, 288]



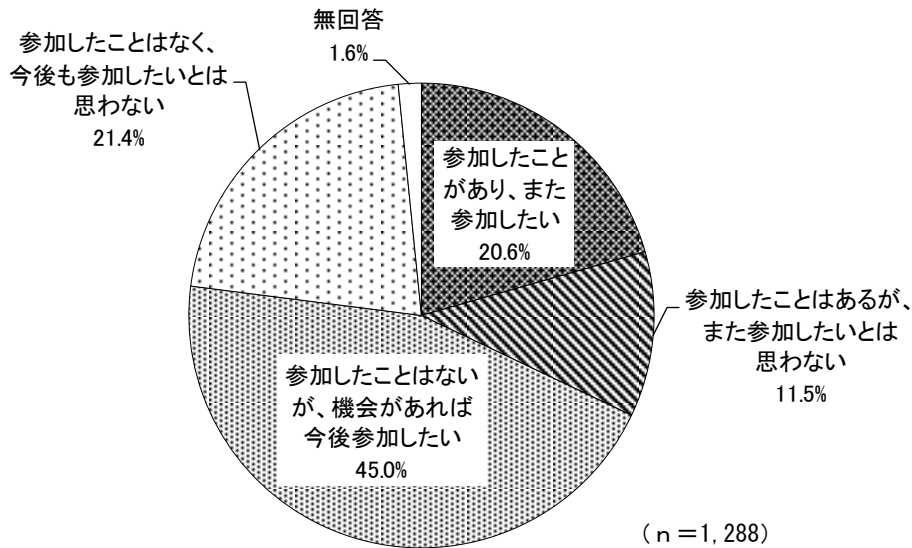
(※)「高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等（5段階の警戒レベル）の意味」は、令和2(2020)年調査では「避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急）の意味及び発令されたとき取るべき行動」としていた。

- ・全体で見ると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」（59.8%）が6割で最も高く、次いで「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」（40.1%）、「高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等（5段階の警戒レベル）の意味」（38.1%）、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」（31.6%）、「災害用伝言ダイヤルの番号や使い方」（10.6%）の順となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性／年齢別で見ると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈女性40歳代〉が52.3%と高くなっている。「災害用伝言ダイヤルの番号や使い方」では〈女性50歳代〉が22.9%と高くなっている。
- ・前回（令和2(2020)年）の調査結果との比較は、一部選択肢が変更されているため参考にとどまるが、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」が6.2ポイント減少している。「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」は5.9ポイント増加している。

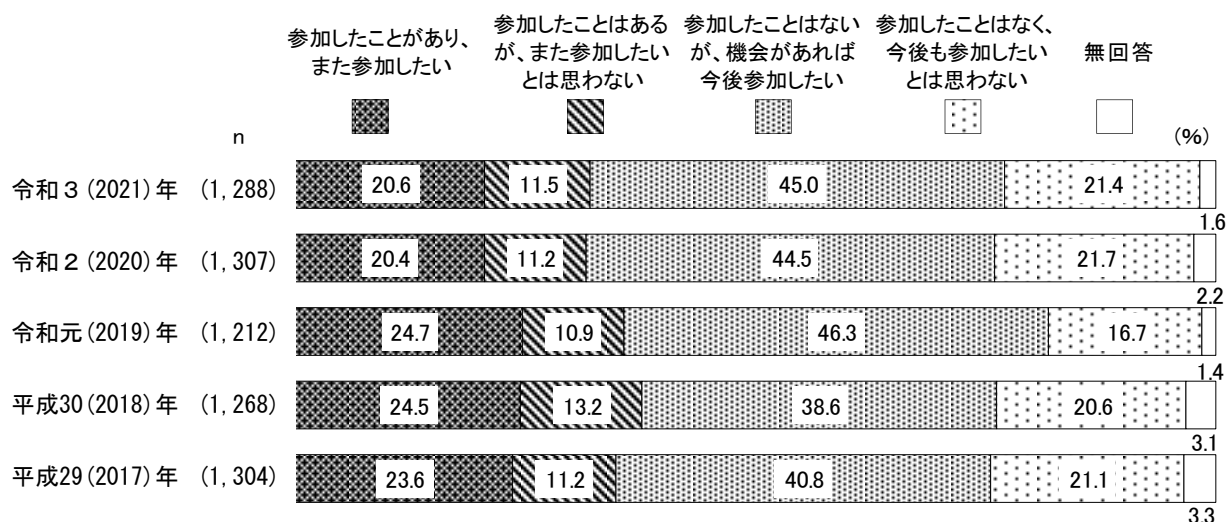
(3) 防災訓練の参加状況

問21 あなたは、県や市町、自治会、企業などが行っている防災訓練に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1,288]



- ・全体で見ると、「参加したことがあり、また参加したい」(20.6%)がほぼ2割となっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」(45.0%)は4割半ば、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」(21.4%)は2割を超えている。
- ・性別で見ると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性〉(47.2%)が〈男性〉(43.0%)より4.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈女性50歳代〉が33.1%、〈男性50歳代〉が32.9%と高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性30歳代〉が60.0%、〈男性20歳代〉が57.8%と高くなっている。「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」では〈男性30歳代〉が32.9%と高くなっている。

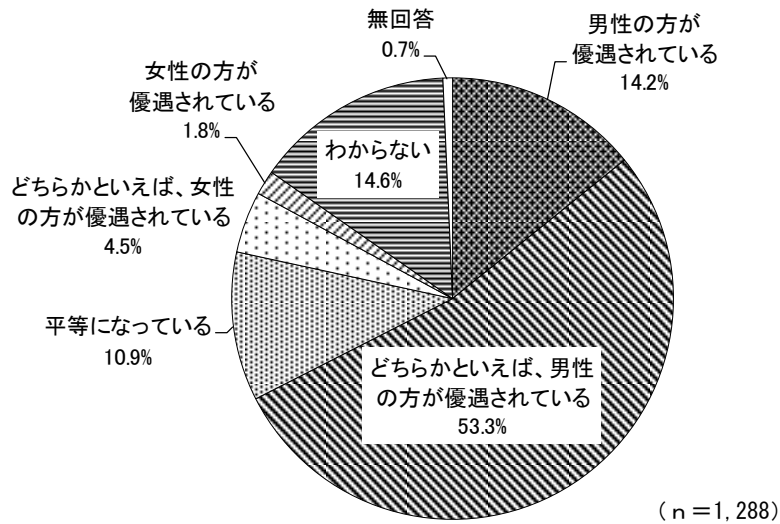


- ・過去の調査結果と比較すると、前回(令和2(2020)年)と大きな傾向の違いはみられない。

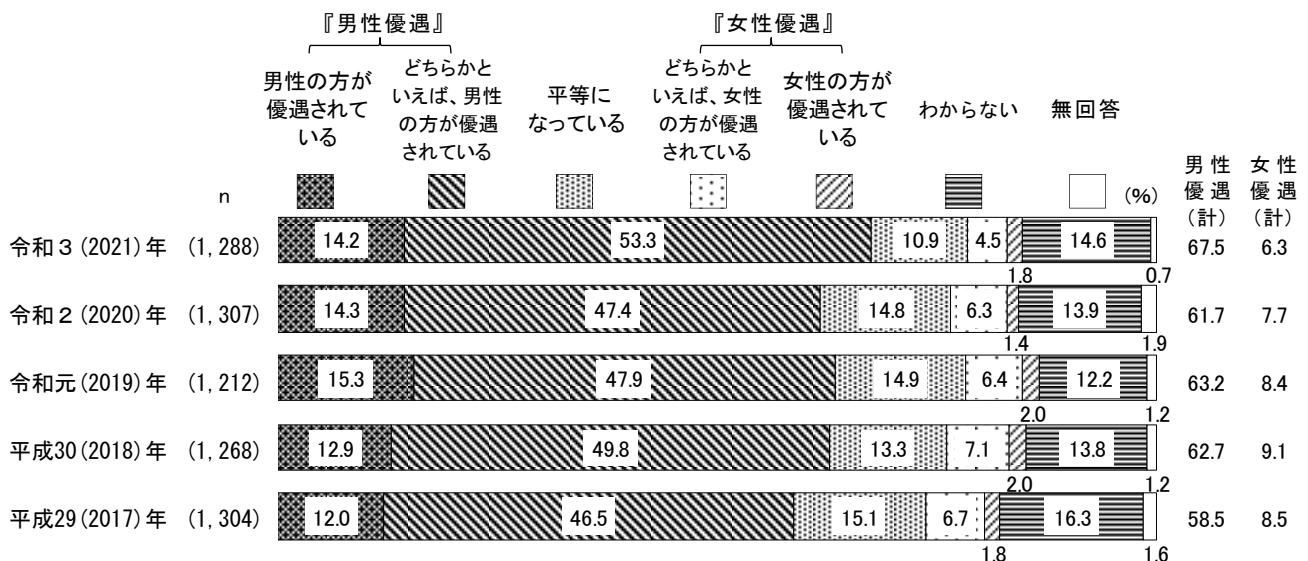
8 男女平等意識について

(1) 社会全体の中での男女の地位の平等感

問22 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]



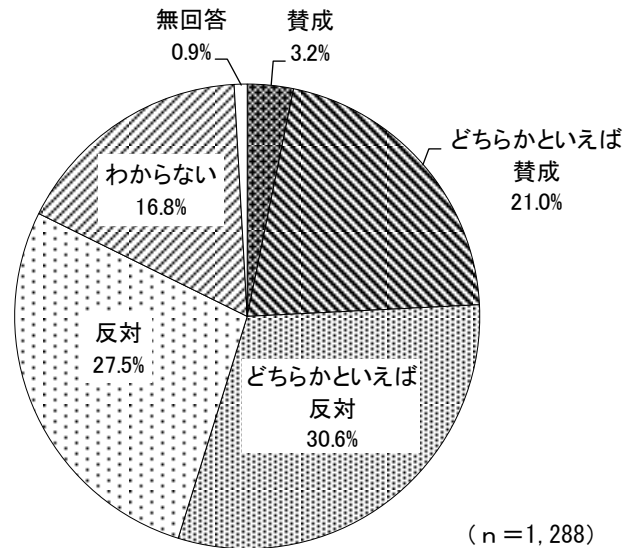
- 全体で見ると、「男性の方が優遇されている」(14.2%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(53.3%)の2つを合わせた『男性優遇』(67.5%)が7割近くと高くなっている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(4.5%)と「女性の方が優遇されている」(1.8%)の2つを合わせた『女性優遇』(6.3%)は1割に満たない。また、「平等になっている」(10.9%)はほぼ1割となっている。
- 性別で見ると、『男性優遇』では〈女性〉(73.5%)が〈男性〉(60.8%)より12.7ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉(9.9%)が〈女性〉(2.9%)より7.0ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、『男性優遇』では〈女性60～64歳〉が87.5%、〈女性50歳代〉が83.1%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性40歳代〉が16.7%と高くなっている。



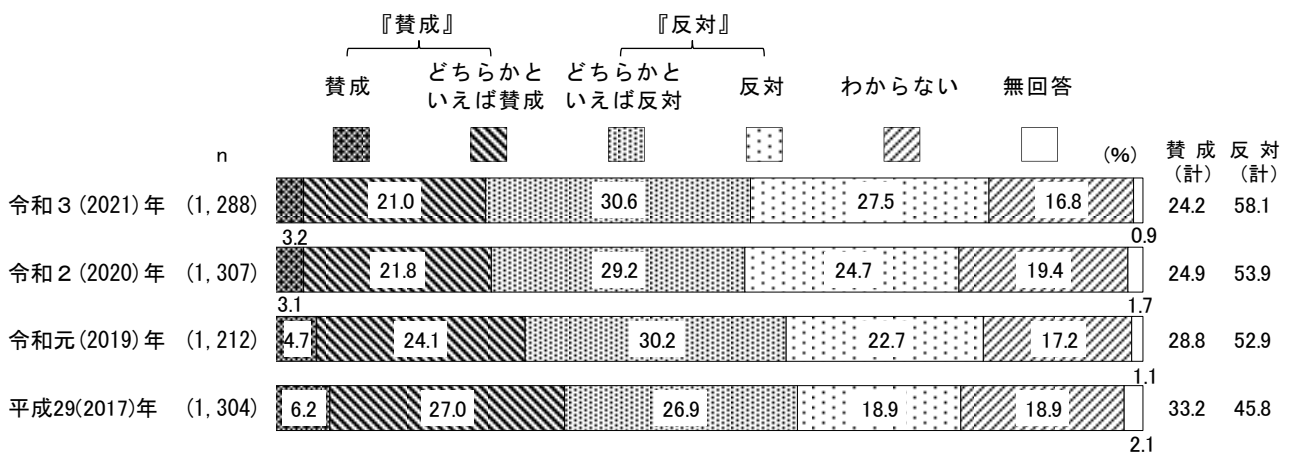
- 過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』が前回(令和2(2020)年)より5.8ポイント増加している。

(2) 固定的な性別役割分担意識

問23 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように
 思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n = 1, 288]



- ・全体で見ると、「賛成」(3.2%)と「どちらかといえば賛成」(21.0%)の2つを合わせた『賛成』(24.2%)が2割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば反対」(30.6%)と「反対」(27.5%)の2つを合わせた『反対』(58.1%)が6割近くとなっている。
- ・性別で見ると、『反対』では〈女性〉(60.4%)が〈男性〉(55.3%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『賛成』では〈男性70歳以上〉が38.1%、〈女性70歳以上〉が37.6%と高くなっている。一方、『反対』では〈女性60～64歳〉が75.0%と高くなっている。

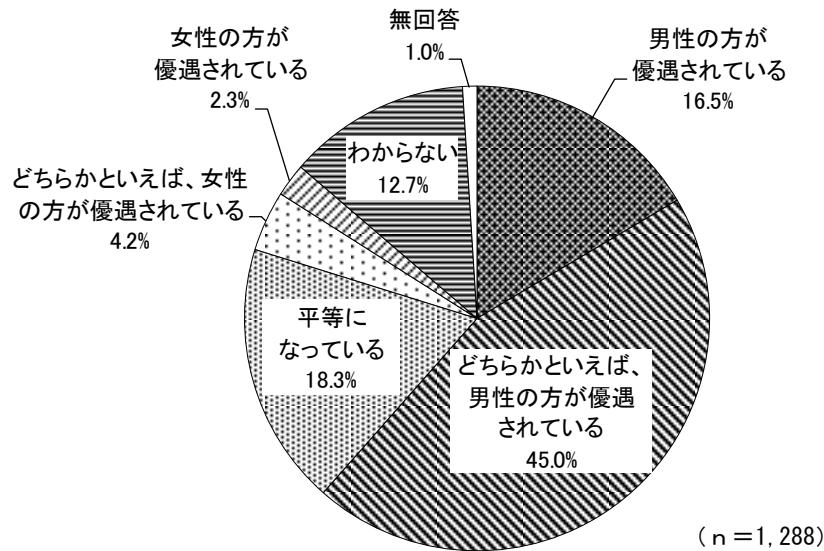


- ・過去の調査結果と比較すると、『反対』は前回(令和2(2020)年)より4.2ポイント増加している。

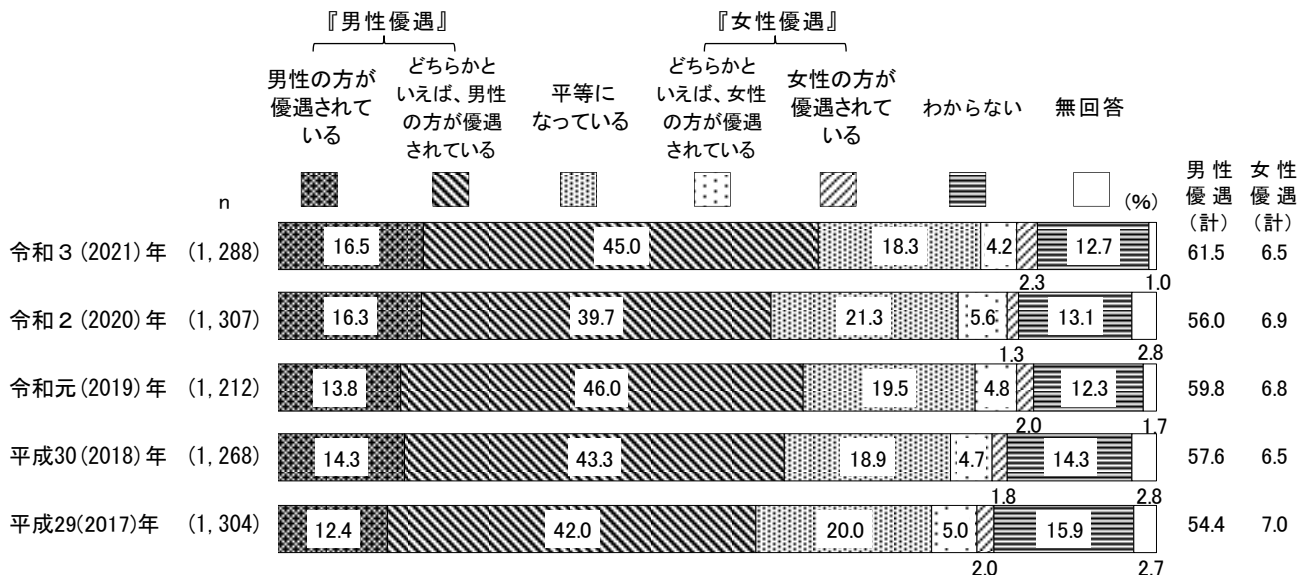
(3) 働く場での男女の地位の平等感

問24 あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。(現在働いていない方も、イメージでお答えください。)

[n=1,288]



- ・全体で見ると、「男性の方が優遇されている」(16.5%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(45.0%)の2つを合わせた『男性優遇』(61.5%)が6割を超えて高くなっている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(4.2%)と「女性の方が優遇されている」(2.3%)の2つを合わせた『女性優遇』(6.5%)が1割近くとなっている。また、「平等になっている」(18.3%)は2割近くとなっている。
- ・性別で見ると、『男性優遇』では〈女性〉(64.5%)が〈男性〉(57.9%)より6.6ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉(9.1%)が〈女性〉(4.2%)より4.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『男性優遇』では〈男性70歳以上〉が71.6%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性40歳代〉が15.5%で他の年代と比べて高くなっている。



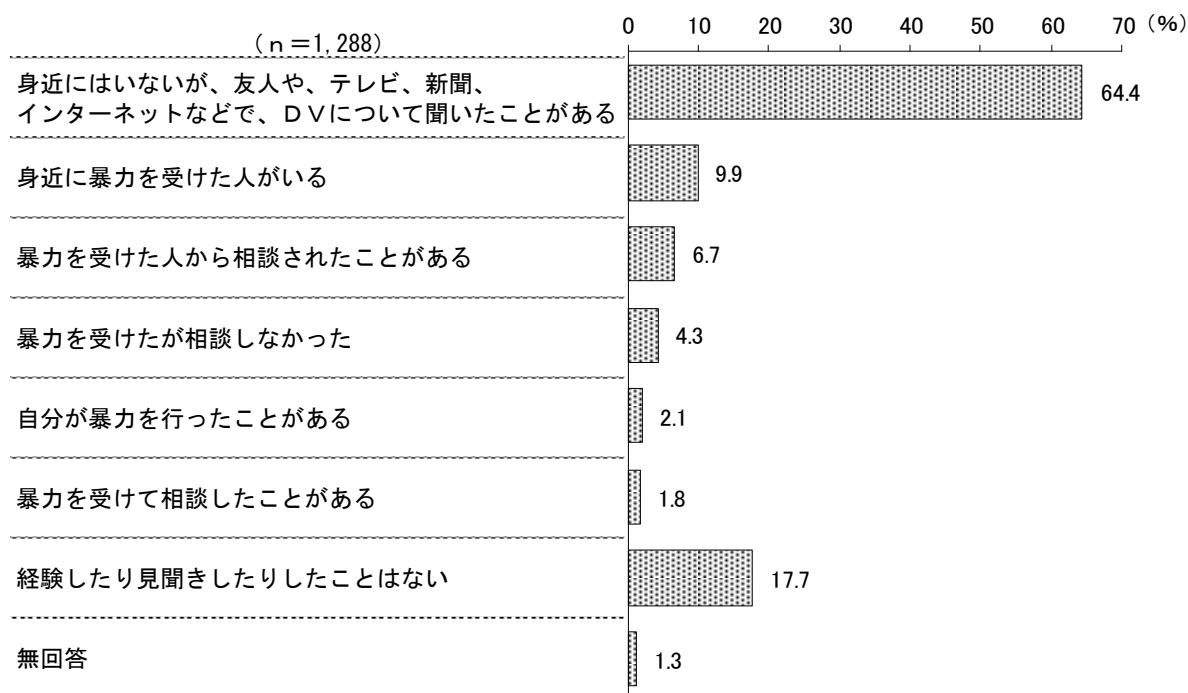
- ・過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』は前回(令和2(2020)年)より5.5ポイント増加している。

9 男女間の暴力について

(1) DVの経験等

問25 あなたは、「夫や妻・恋人など親しい間柄にある男女間の暴力（※）」（DV＝ドメスティック・バイオレンス）について、経験したり見聞きしたりしたことがありますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]

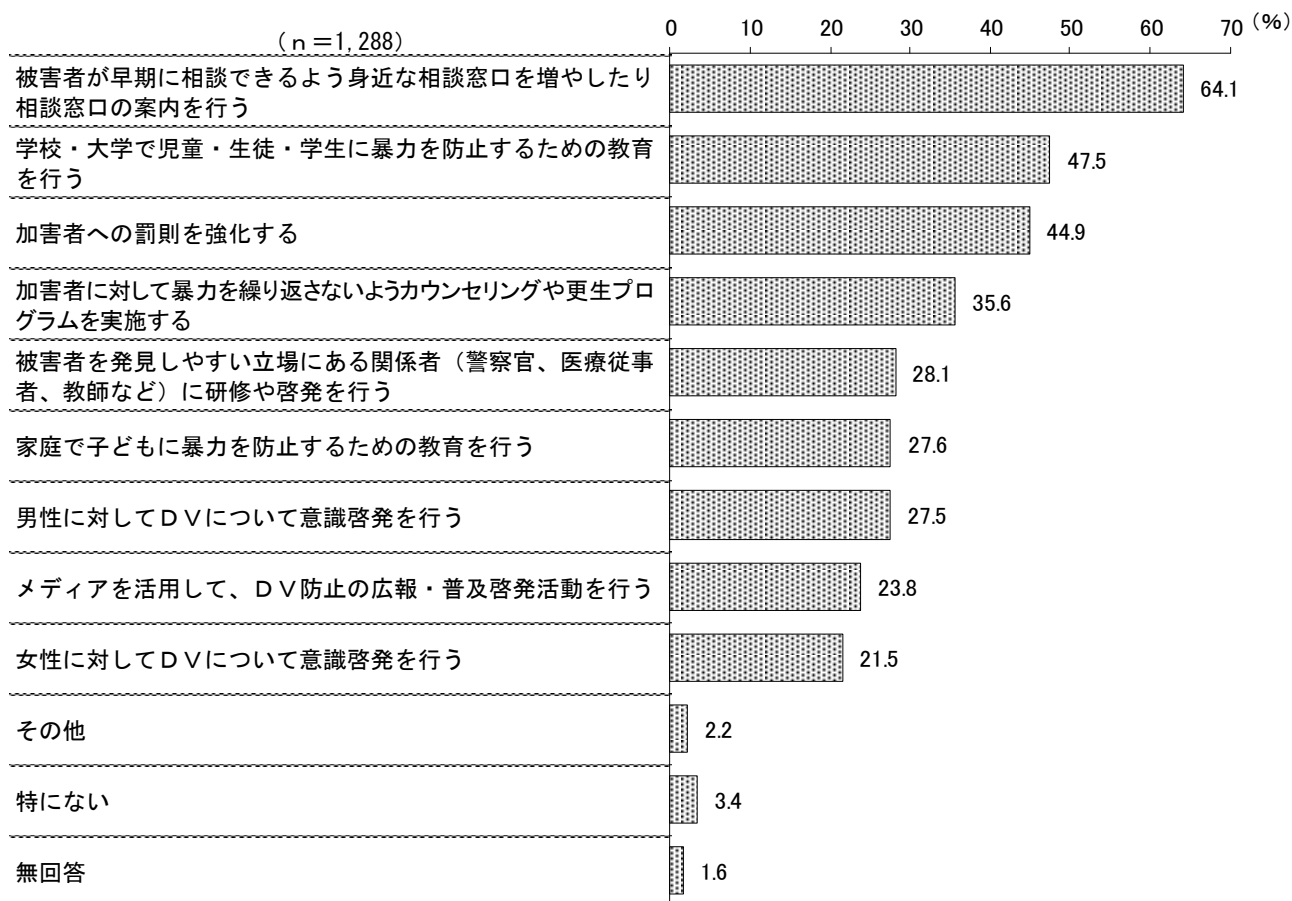
※ 暴力には、身体的暴力（なぐる、ける、物を投げつける等）のみならず、心理的攻撃（人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ等）、経済的圧迫（生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる等）、性的強要（性的な行為を強要される、避妊に協力しない等）なども含まれます。



- ・全体で見ると、「身近にはいないが、友人や、テレビ、新聞、インターネットなどで、DVについて聞いたことがある」（64.4%）が6割半ばで最も高く、次いで「身近に暴力を受けた人がある」（9.9%）、「暴力を受けた人から相談されたことがある」（6.7%）、「暴力を受けたが相談しなかった」（4.3%）、「自分が暴力を行ったことがある」（2.1%）の順となっている。一方、「経験したり見聞きしたりしたことはない」（17.7%）は2割近くとなっている。
- ・性別で見ると、「経験したり見聞きしたりしたことはない」では〈男性〉（20.8%）が〈女性〉（14.7%）より6.1ポイント高くなっている。「暴力を受けたが相談しなかった」では〈女性〉（6.7%）が〈男性〉（1.0%）より5.7ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「暴力を受けた人から相談されたことがある」では〈女性40歳代〉が13.5%で他の年代と比べて高くなっている。「自分が暴力を行ったことがある」では〈男性70歳以上〉が6.5%で他の年代と比べて高くなっている。

(2) 男女間の暴力を防止するために重要な対策

問26 男女間の暴力を防止するために重要だと思う対策を次の中からいくつでも選んでください。
[n = 1,288]

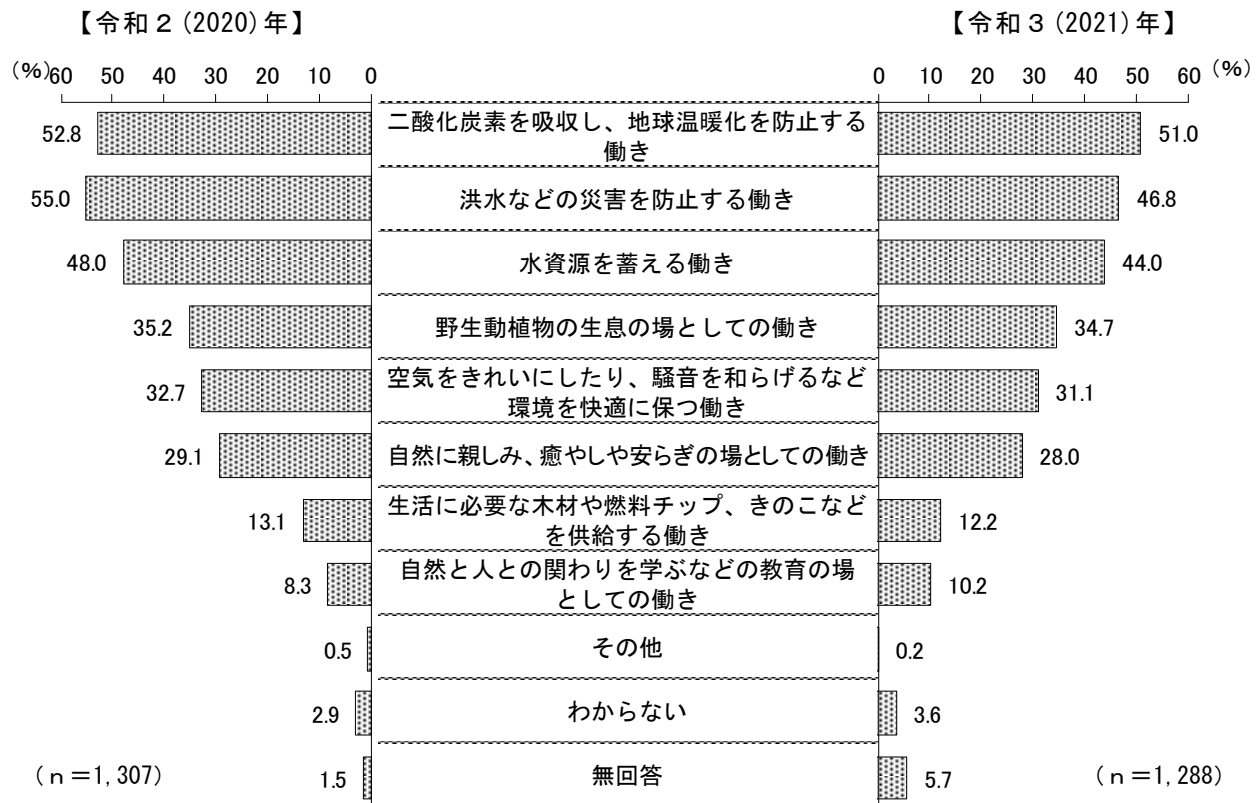


- ・全体で見ると、「被害者が早期に相談できるような身近な相談窓口を増やしたり相談窓口の案内を行う（以下『相談窓口の増設・案内』とする。）」(64.1%) が6割半ばで最も高く、次いで「学校・大学で児童・生徒・学生に暴力を防止するための教育を行う」(47.5%)、「加害者への罰則を強化する」(44.9%)、「加害者に対して暴力を繰り返さないようカウンセリングや更生プログラムを実施する（以下『加害者へのカウンセリングや更生プログラムの実施』とする。）」(35.6%)、「被害者を発見しやすい立場にある関係者（警察官、医療従事者、教師など）に研修や啓発を行う（以下『関係者に研修や啓発を行う』とする。）」(28.1%) の順となっている。
- ・性別で見ると『相談窓口の増設・案内』では〈女性〉(69.0%) が〈男性〉(58.6%) より10.4ポイント高くなっている。『加害者へのカウンセリングや更生プログラムの実施』では〈女性〉(42.1%) が〈男性〉(28.5%) より13.6ポイント高くなっている。『関係者に研修や啓発を行う』では〈女性〉(32.9%) が〈男性〉(23.0%) より9.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『相談窓口の増設・案内』では〈女性50歳代〉が80.5%と高くなっている。「加害者への罰則を強化する」では〈男性20歳代〉が65.6%と高くなっている。『加害者へのカウンセリングや更生プログラムの実施』では〈女性30歳代〉が52.5%と高くなっている。『関係者に研修や啓発を行う』では〈女性20歳代〉が41.2%、〈女性50歳代〉が40.7%と高くなっている。

10 とちぎの元気な森づくり県民税について

(1) 重要と考える森林の働き

問27 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,288]

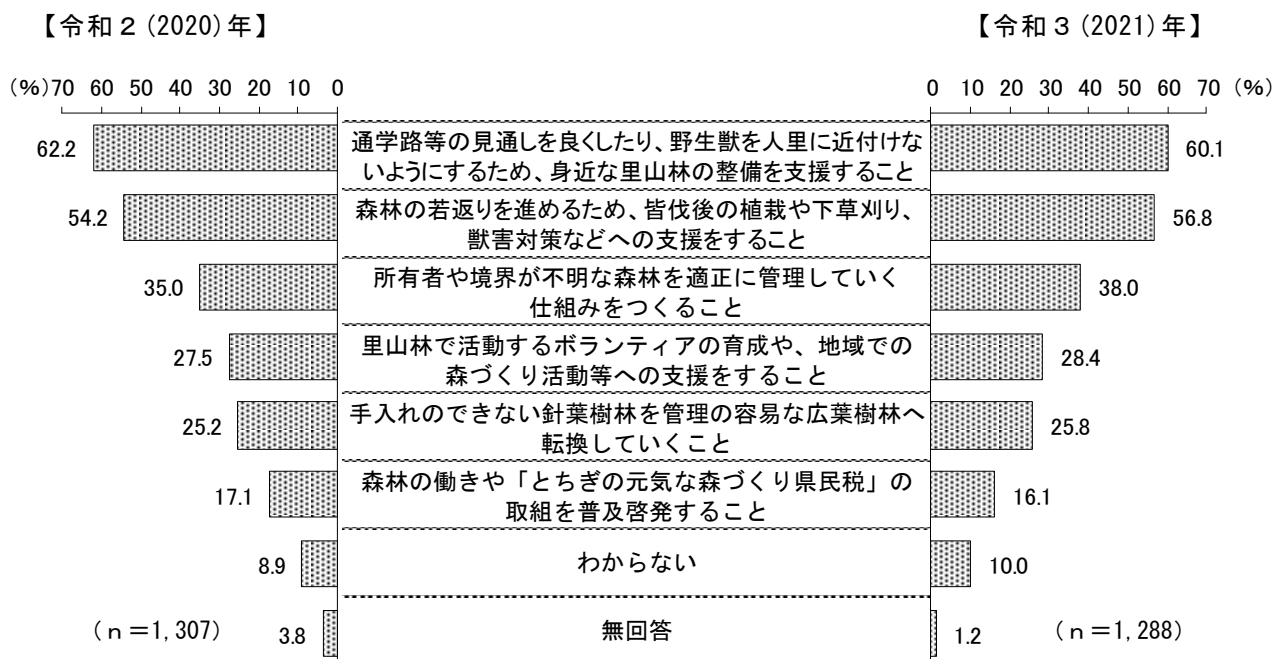


- ・全体で見ると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(51.0%)が5割を超えて最も高く、次いで「洪水などの災害を防止する働き」(46.8%)、「水資源を蓄える働き」(44.0%)、「野生動植物の生息の場としての働き」(34.7%)、「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」(31.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「水資源を蓄える働き」では〈男性〉(50.8%)が〈女性〉(38.0%)より12.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「洪水などの災害を防止する働き」では〈男性50歳代〉が64.6%、〈女性60～64歳〉が64.1%と高くなっている。「水資源を蓄える働き」では〈男性70歳以上〉が61.9%と高くなっている。「野生動植物の生息の場としての働き」では〈女性30歳代〉が52.5%と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」では〈女性20歳代〉が48.5%と高くなっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、「洪水などの災害を防止する働き」が8.2ポイント、「水資源を蓄える働き」が4.0ポイント、それぞれ減少している。

(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの

問28 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,288]

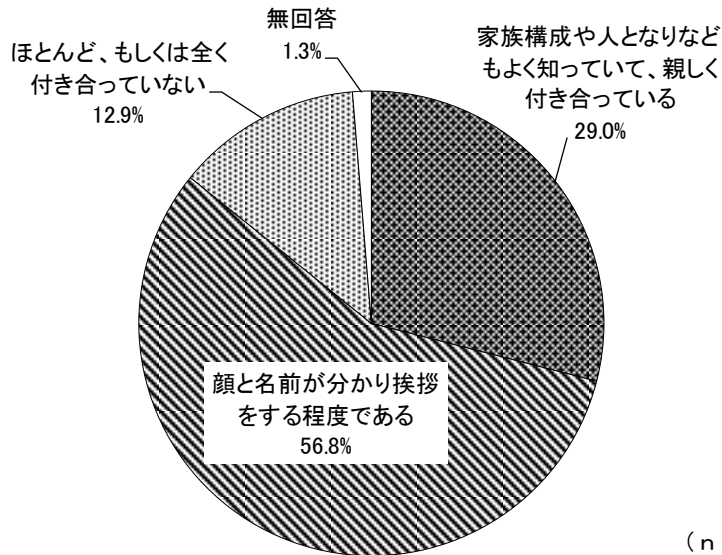


- ・全体で見ると、「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」(60.1%)が6割で最も高く、次いで「森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」(56.8%)、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」(38.0%)、「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」(28.4%)、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」(25.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性〉(29.4%)が〈女性〉(23.2%)より6.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性50歳代〉が43.0%と高くなっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

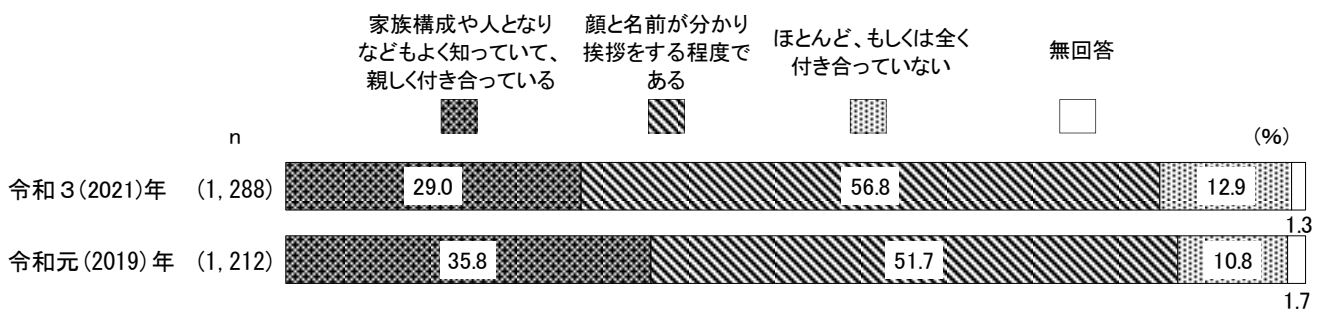
11 地域のつながり・住民同士の支え合いについて

(1) 現在のご近所との関係

問29 あなたは現在、ご近所（隣近所など）の方とどのような関係ですか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]



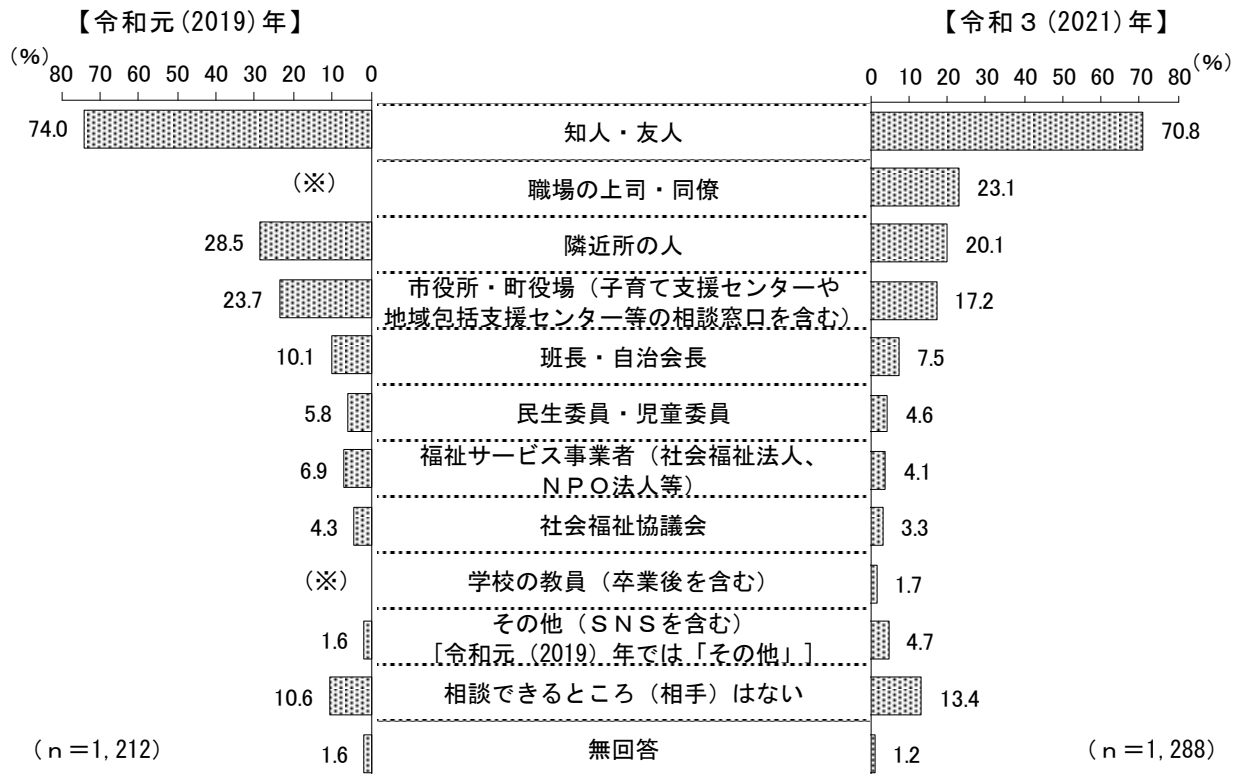
- ・全体で見ると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」(29.0%)がほぼ3割となっている。「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」(56.8%)が6割近くとなっており、「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」(12.9%)は1割を超えている。
- ・性別で見ると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性〉(32.0%)が〈男性〉(25.3%)より6.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性70歳以上〉が45.9%と高くなっている。「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では〈男性50歳代〉が72.2%と高くなっている。「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」では〈女性20歳代〉が42.6%、〈男性20歳代〉が34.4%と高くなっている。



- ・前回(令和元(2019)年)の調査結果と比較すると、「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」が5.1ポイント増加している。「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」は6.8ポイント減少している。

(2) 日常生活で困ったときに相談できるところ

問30 日常生活で困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ（相手）はどこ（誰）ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]

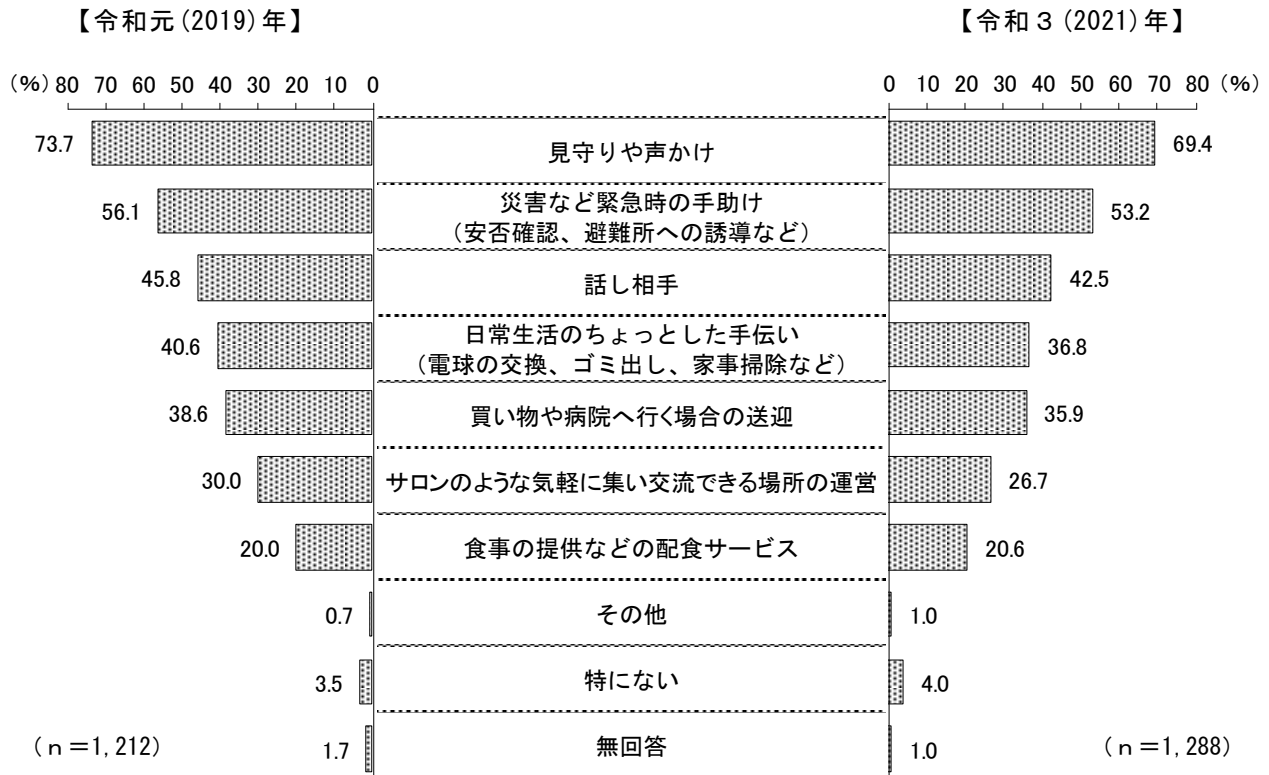


(※)「職場の上司・同僚」「学校の教員（卒業後を含む）」は、今回調査で追加した選択肢である。

- ・全体で見ると、「知人・友人」(70.8%)がほぼ7割で最も高く、次いで「職場の上司・同僚」(23.1%)、「隣近所の人」(20.1%)、「市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）（以下『市役所・町役場』とする。）」(17.2%)、「班長・自治会長」(7.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「知人・友人」では〈女性〉(75.7%)が〈男性〉(66.1%)より9.6ポイント高くなっている。「相談できるところ（相手）はない」では〈男性〉(17.1%)が〈女性〉(10.2%)より6.9ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「知人・友人」では〈女性20歳代〉が92.6%と高くなっている。「職場の上司・同僚」では〈男性30歳代〉が48.7%と高くなっている。「隣近所の人」では〈男性70歳以上〉が34.8%と高くなっている。『市役所・町役場』では〈女性65～69歳〉が27.4%と高くなっている。「班長・自治会長」では〈男性65～69歳〉が26.8%と高くなっている。
- ・前回（令和元(2019)年）の調査結果との比較は、一部の選択肢が変更・追加されているため参考にとどまるが、「隣近所の人」が8.4ポイント、『市役所・町役場』が6.5ポイント、それぞれ減少している。

(3) 必要な住民同士の支え合いによるサービス・活動

問31 高齢者や障害のある方、子育て中の方などが日常生活を送る上で、どのような住民同士の支え合いによるサービス・活動が必要だと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]

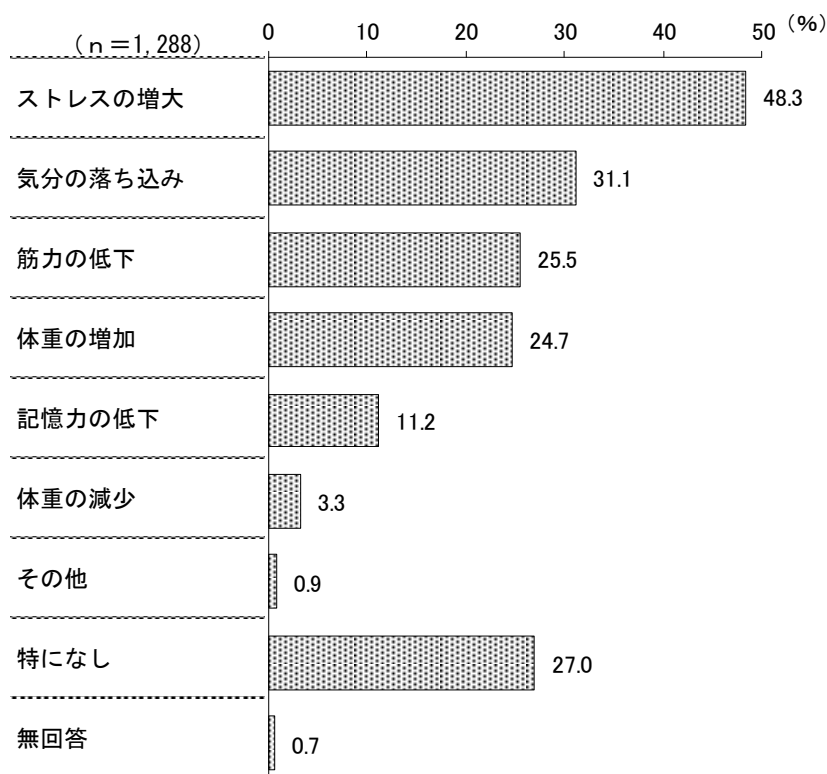


- ・全体で見ると、「見守りや声かけ」(69.4%)がほぼ7割で最も高く、次いで「災害など緊急時の手助け(安否確認、避難所への誘導など)」(53.2%)、「話し相手」(42.5%)、「日常生活のちょっとした手伝い(電球の交換、ゴミ出し、家事掃除など)」(36.8%)、「買い物や病院へ行く場合の送迎」(35.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食事の提供などの配食サービス」では〈女性〉(24.7%)が〈男性〉(15.9%)より8.8ポイント高くなっている。「サロンのような気軽に集い交流できる場所の運営」では〈女性〉(30.7%)が〈男性〉(22.3%)より8.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「災害など緊急時の手助け(安否確認、避難所への誘導など)」では〈女性60~64歳〉が68.8%、〈女性50歳代〉が63.6%と高くなっている。「話し相手」では〈女性20歳代〉が55.9%と高くなっている。「買い物や病院へ行く場合の送迎」では〈女性65~69歳〉が45.2%、〈女性50歳代〉が44.9%と高くなっている。
- ・前回(令和元(2019)年)の調査結果と比較すると、「見守りや声かけ」が4.3ポイント減少している。

12 生活習慣等や健康意識について

(1) 新型コロナウイルス感染拡大による心身の状態の変化

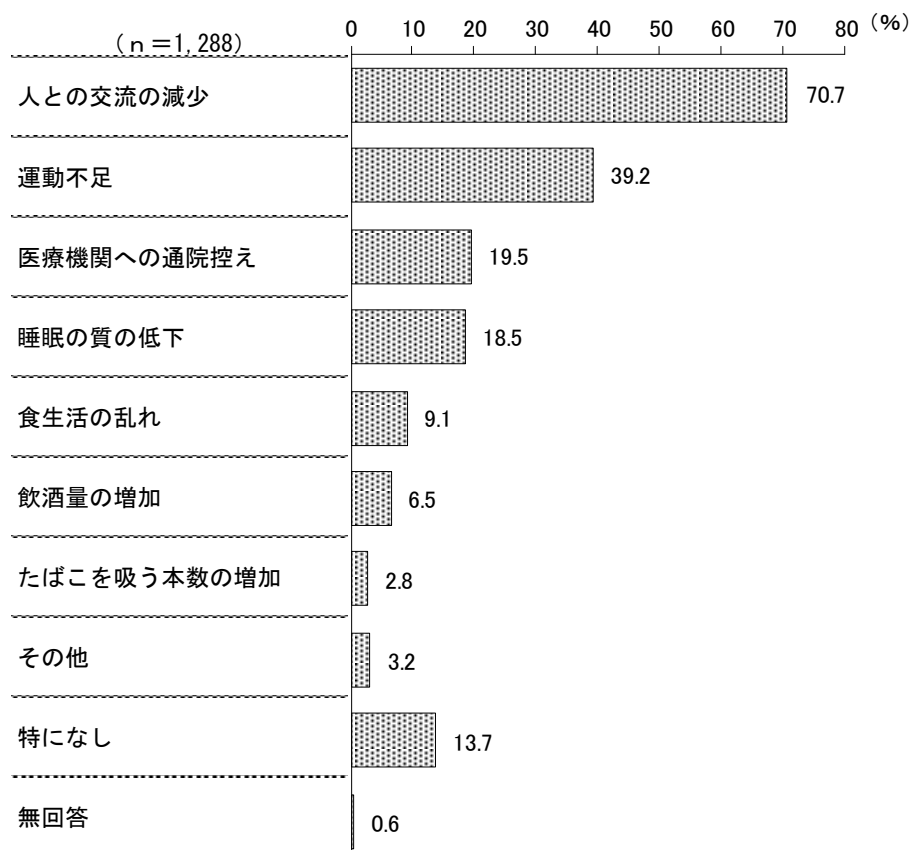
問32 新型コロナウイルス感染症拡大前と現在を比較して、心身の状態に変化はありましたか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]



- ・全体で見ると、「ストレスの増大」(48.3%)が5割近くで最も高く、次いで「気分の落ち込み」(31.1%)、「筋力の低下」(25.5%)、「体重の増加」(24.7%)、「記憶力の低下」(11.2%)の順となっている。一方、「特になし」は27.0%となっている。
- ・性別で見ると、「ストレスの増大」では〈女性〉(52.2%)が〈男性〉(44.5%)より7.7ポイント高くなっている。「気分の落ち込み」では〈女性〉(35.2%)が〈男性〉(26.8%)より8.4ポイント高くなっている。「特になし」では〈男性〉(32.2%)が〈女性〉(22.2%)より10.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「ストレスの増大」では〈女性40歳代〉が62.2%と高くなっている。「筋力の低下」では〈女性60～64歳〉が40.6%、〈男性70歳以上〉が34.8%と高くなっている。一方、「特になし」では〈男性20歳代〉が39.1%、〈男性60～64歳〉が38.5%と高くなっている。

(2) 新型コロナウイルス感染拡大による生活面の変化

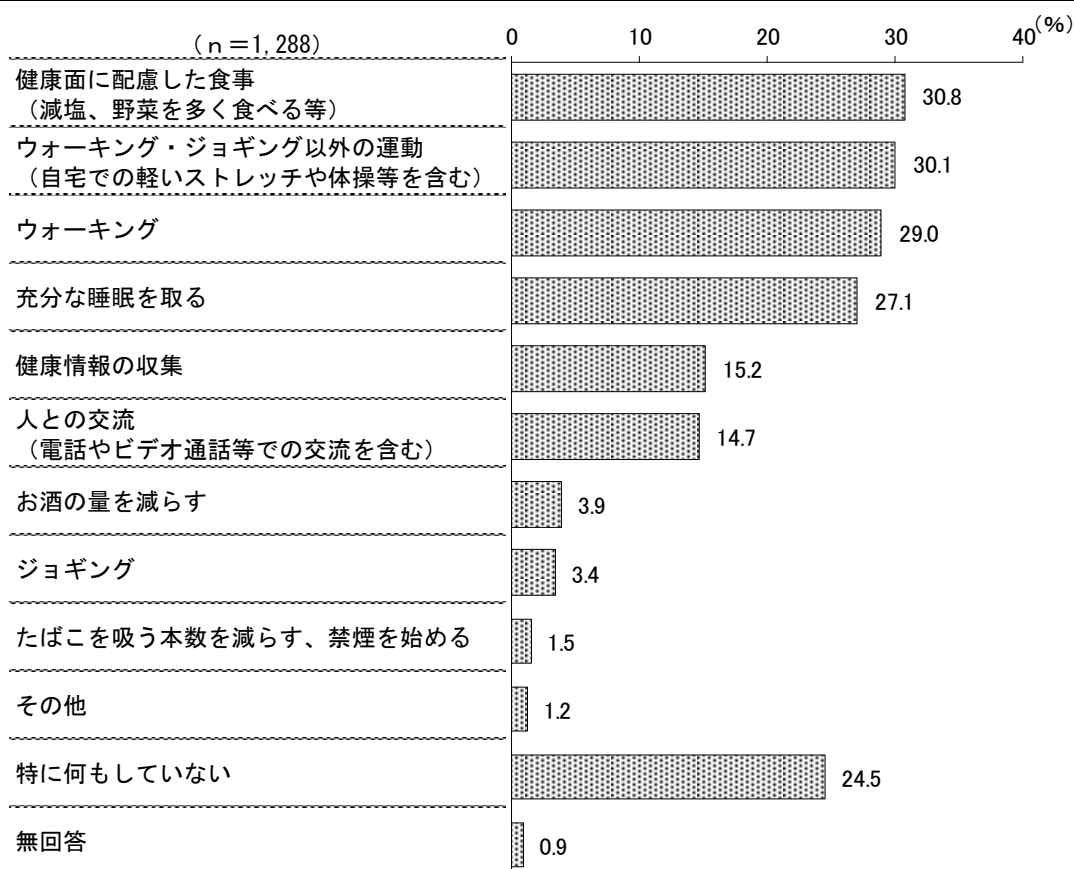
問33 新型コロナウイルス感染症拡大前と現在を比較して、生活面で変化はありましたか。次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1,288]



- ・全体で見ると、「人との交流の減少」(70.7%)がほぼ7割で最も高く、次いで「運動不足」(39.2%)、「医療機関への通院控え」(19.5%)、「睡眠の質の低下」(18.5%)、「食生活の乱れ」(9.1%)の順となっている。一方、「特になし」は13.7%となっている。
- ・性別で見ると、「人との交流の減少」では〈女性〉(75.7%)が〈男性〉(65.8%)より9.9ポイント高くなっている。一方、「特になし」では〈男性〉(18.0%)が〈女性〉(9.7%)より8.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「医療機関への通院控え」では〈女性50歳代〉が33.1%と高くなっている。「睡眠の質の低下」では〈男性65～69歳〉が26.8%、〈女性60～64歳〉が26.6%と高くなっている。一方、「特になし」では〈男性20歳代〉が26.6%と高くなっている。

(3) コロナ禍において心身の健康づくりのために取り組んでいること

問34 コロナ禍において、現在、心身の健康づくりのために意識して取り組んでいることはありますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]



- ・全体で見ると、「健康面に配慮した食事（減塩、野菜を多く食べる等）」（30.8%）がほぼ3割で最も高く、次いで「ウォーキング・ジョギング以外の運動（自宅での軽いストレッチや体操等を含む）（以下『ウォーキング・ジョギング以外の運動』とする。）」（30.1%）、「ウォーキング」（29.0%）、「十分な睡眠を取る」（27.1%）、「健康情報の収集」（15.2%）の順となっている。一方、「特に何もしていない」は24.5%となっている。
- ・性別で見ると、『ウォーキング・ジョギング以外の運動』では〈女性〉（34.3%）が〈男性〉（24.8%）より9.5ポイント高くなっている。「健康情報の収集」では〈女性〉（18.3%）が〈男性〉（11.1%）より7.2ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「健康面に配慮した食事（減塩、野菜を多く食べる等）」では〈女性70歳以上〉が46.5%、〈男性70歳以上〉が43.9%と高くなっている。『ウォーキング・ジョギング以外の運動』では〈女性70歳以上〉が41.4%と高くなっている。「ウォーキング」では〈男性65～69歳〉が42.9%、〈男性70歳以上〉が40.6%と高くなっている。「健康情報の収集」では〈女性60～64歳代〉が25.0%、〈女性50歳代〉が24.6%と高くなっている。一方、「特に何もしていない」では〈男性60～64歳〉が40.0%、〈男性30歳代〉が39.5%と高くなっている。

(4) 健康寿命について

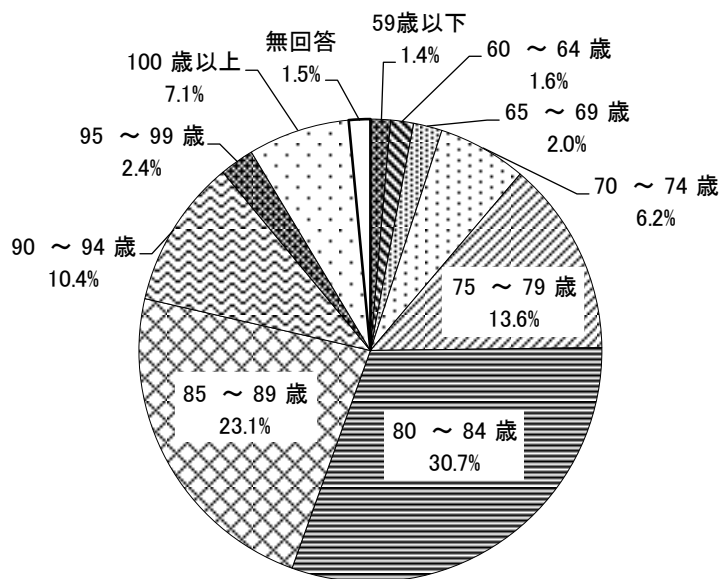
問35 あなたは、何歳まで健康で長生きしたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

【参考】本県の平均寿命 (2015年調査) 男性80.10年、女性86.24年

本県の健康寿命(※) (2016年調査) 男性72.12年、女性75.73年

[n=1,288]

※「健康寿命」とは、寝たきりになったり、介護が必要になるなど、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことを言います。



(n=1,288)

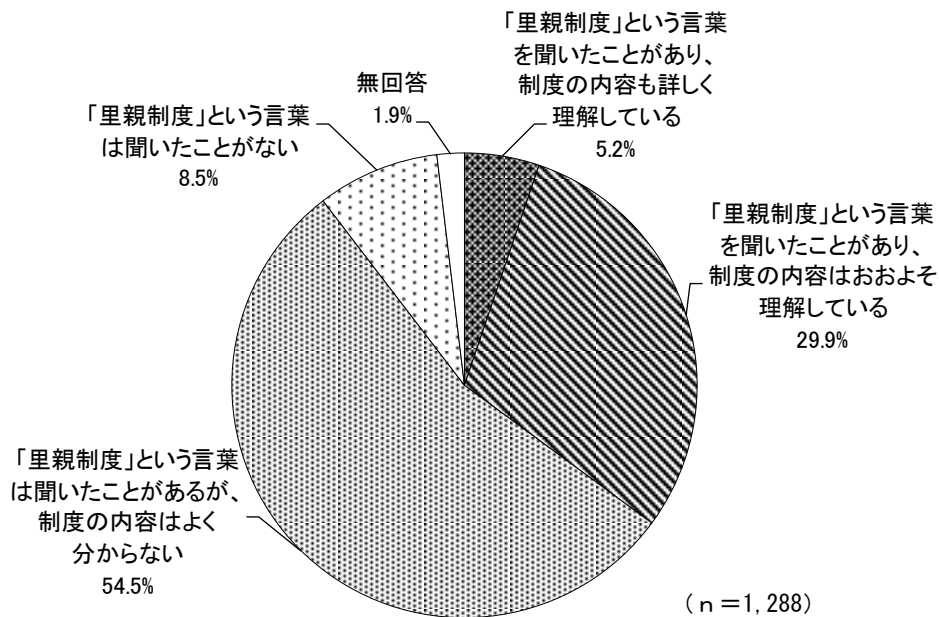
- ・全体で見ると、「80~84歳」(30.7%)がほぼ3割で最も高く、次いで「85~89歳」(23.1%)、「75~79歳」(13.6%)、「90~94歳」(10.4%)、「100歳以上」(7.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「75~79歳」では〈男性65~69歳〉が30.4%と高くなっている。「80~84歳」では〈男性50歳代〉が46.8%、〈女性65~69歳〉が45.2%と高くなっている。「85~89歳」では〈男性70歳以上〉が34.2%、〈女性70歳以上〉が31.8%と高くなっている。

13 里親制度について

(1) 里親制度の認知度

問36 あなたは、「里親制度」(※)についてどの程度知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]

※ 里親制度とは、児童福祉法に基づき、虐待、貧困、保護者の疾病等により家庭での生活が出来なくなり公的な保護が必要となった子どもを、都道府県等からの委託を受けて自らの家庭で養育する制度です。



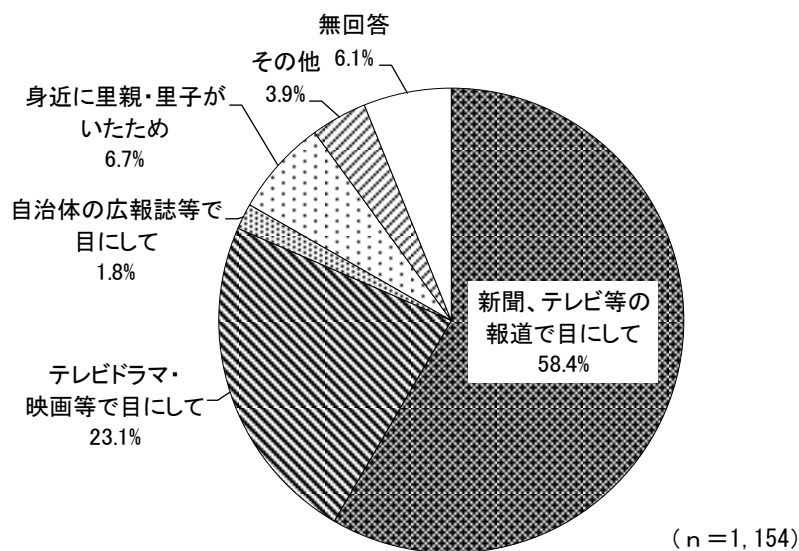
- ・全体でみると、「『里親制度』という言葉を聞いたことがあり、制度の内容も詳しく理解している」(5.2%)は1割に満たない。「『里親制度』という言葉を聞いたことがあり、制度の内容はおおよそ理解している」(29.9%)が3割、「『里親制度』という言葉は聞いたことがあるが、制度の内容はよく分からない」(54.5%)が5割半ばとなっている。一方、「『里親制度』という言葉は聞いたことがない」(8.5%)は1割近くとなっている。
- ・性別でみると、「『里親制度』という言葉を聞いたことがあり、制度の内容はおおよそ理解している」では〈女性〉(33.5%)が〈男性〉(26.2%)より7.3ポイント高くなっている。一方、「『里親制度』という言葉は聞いたことがない」では〈男性〉(12.8%)が〈女性〉(4.8%)より8.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「『里親制度』という言葉は聞いたことがない」では〈男性20歳代〉が20.3%、〈男性30歳代〉が19.7%、〈男性50歳代〉が17.7%と高くなっている。

(1-1) 里親制度を知ったきっかけ

(問36で選択肢「1」～「3」を選んだ方のみお答えください)

問36-1 里親制度を知ったきっかけは何ですか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,154]

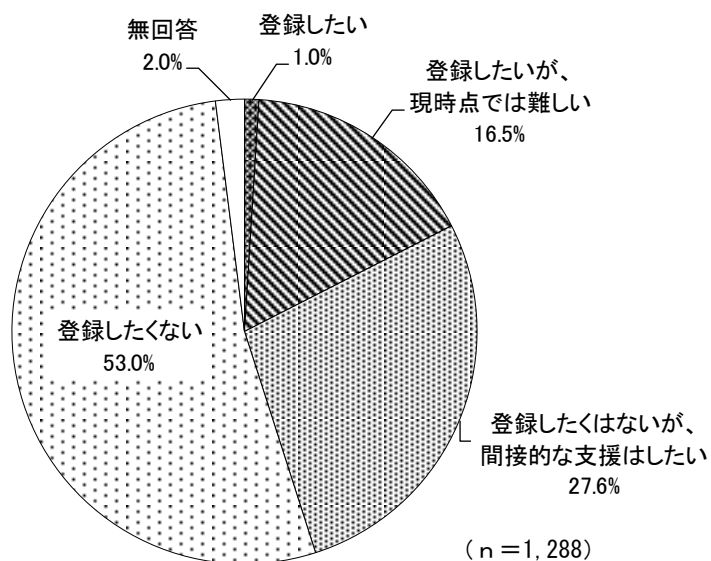


- ・全体で見ると、「新聞、テレビ等の報道で目にして」(58.4%)が6割近くで最も高く、次いで「テレビドラマ・映画等で目にして」(23.1%)、「身近に里親・里子がいたため」(6.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「新聞、テレビ等の報道で目にして」では〈男性〉(62.9%)が〈女性〉(54.8%)より8.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「新聞、テレビ等の報道で目にして」では〈男性70歳以上〉が72.9%と高くなっている。

(2) 里親への登録意向

問37 あなたは実際に里親として登録したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

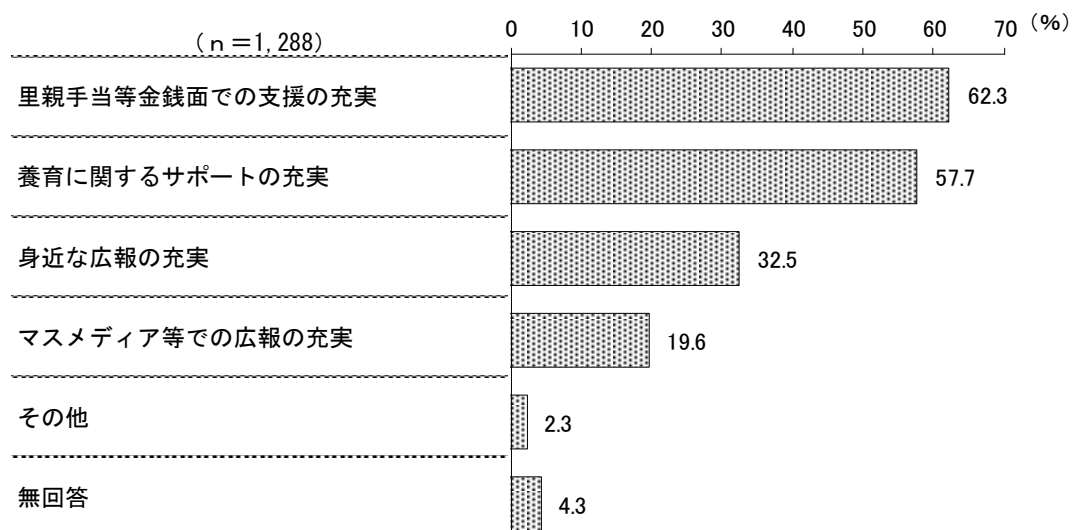
[n=1,288]



- ・全体で見ると、「登録したい」(1.0%)と「登録したいが、現時点では難しい」(16.5%)の2つを合わせた『登録したい』(17.5%)は2割近くとなっている。一方、「登録したくないが、間接的な支援はしたい」(27.6%)と「登録したくない」(53.0%)の2つを合わせた『登録したくない』(80.6%)はほぼ8割と高くなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「登録したい」では〈男性30歳代〉が5.3%で他の年代と比べて高くなっている。一方、「登録したくない」では〈女性70歳以上〉が61.1%と高くなっている。

(3) 里親制度の登録を増やすために、あるとよい社会的支援

問38 今後、里親として登録する方を増やしていくには、どのような社会的支援があるとよいと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,288]

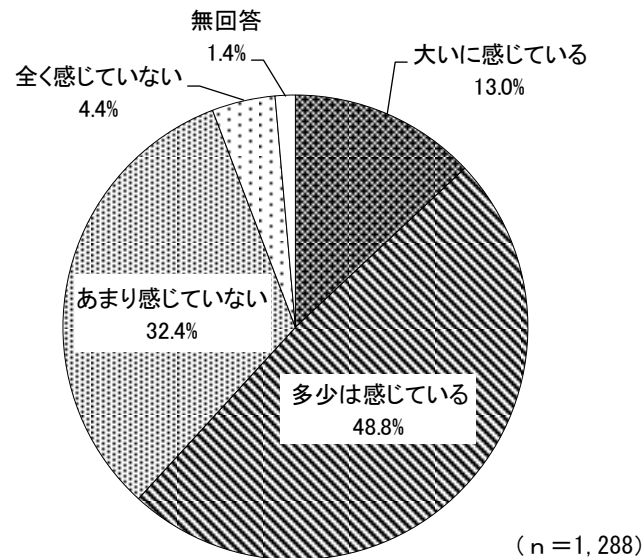


- ・全体で見ると、「里親手当等金銭面での支援の充実」(62.3%)が6割を超えて最も高く、次いで「養育に関するサポートの充実」(57.7%)、「身近な広報の充実」(32.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「養育に関するサポート充実」では〈女性〉(63.3%)が〈男性〉(52.0%)より11.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「養育に関するサポートの充実」では〈女性50歳代〉が74.6%、〈女性30歳代〉が72.5%と高くなっている。

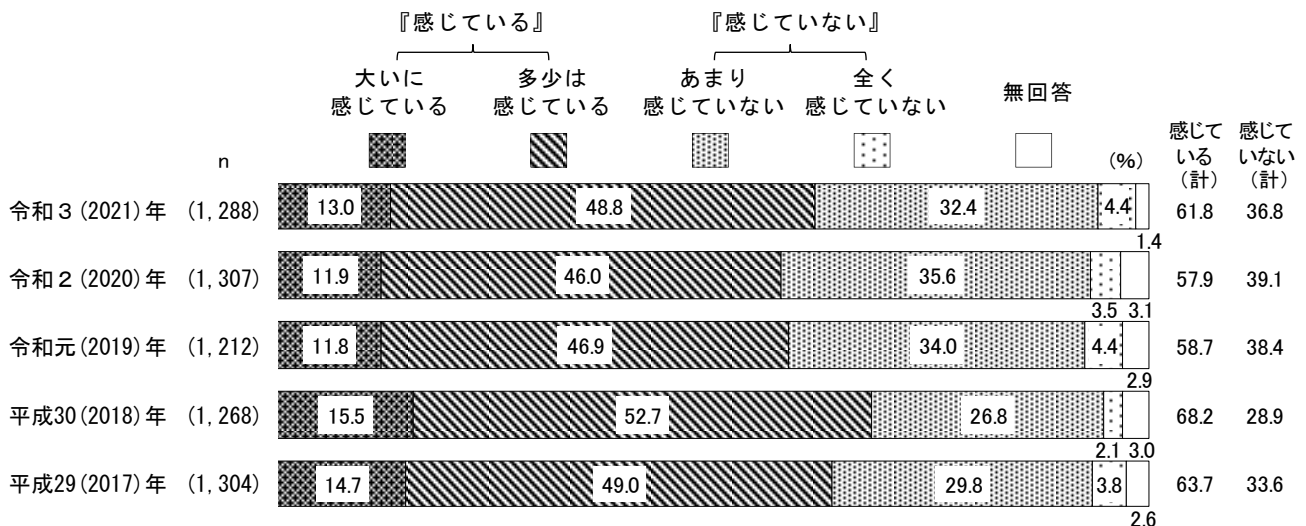
14 食の安全・安心について

(1) 食品の安全性に対する不安

問39 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]



- ・全体で見ると、「大いに感じている」(13.0%)と「多少は感じている」(48.8%)の2つを合わせた『感じている』(61.8%)は6割を超えて高くなっている。一方、「あまり感じていない」(32.4%)と「全く感じていない」(4.4%)の2つを合わせた『感じていない』(36.8%)は4割近くとなっている。
- ・性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(70.0%)が〈男性〉(52.8%)より17.2ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉(45.5%)が〈女性〉(29.1%)より16.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『感じている』では〈女性65～69歳〉が80.6%、〈女性60～64歳〉が78.2%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈女性20歳代〉が67.7%、〈男性20歳代〉が60.9%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、『感じている』は前回(令和2(2020)年)より3.9ポイント増加している。

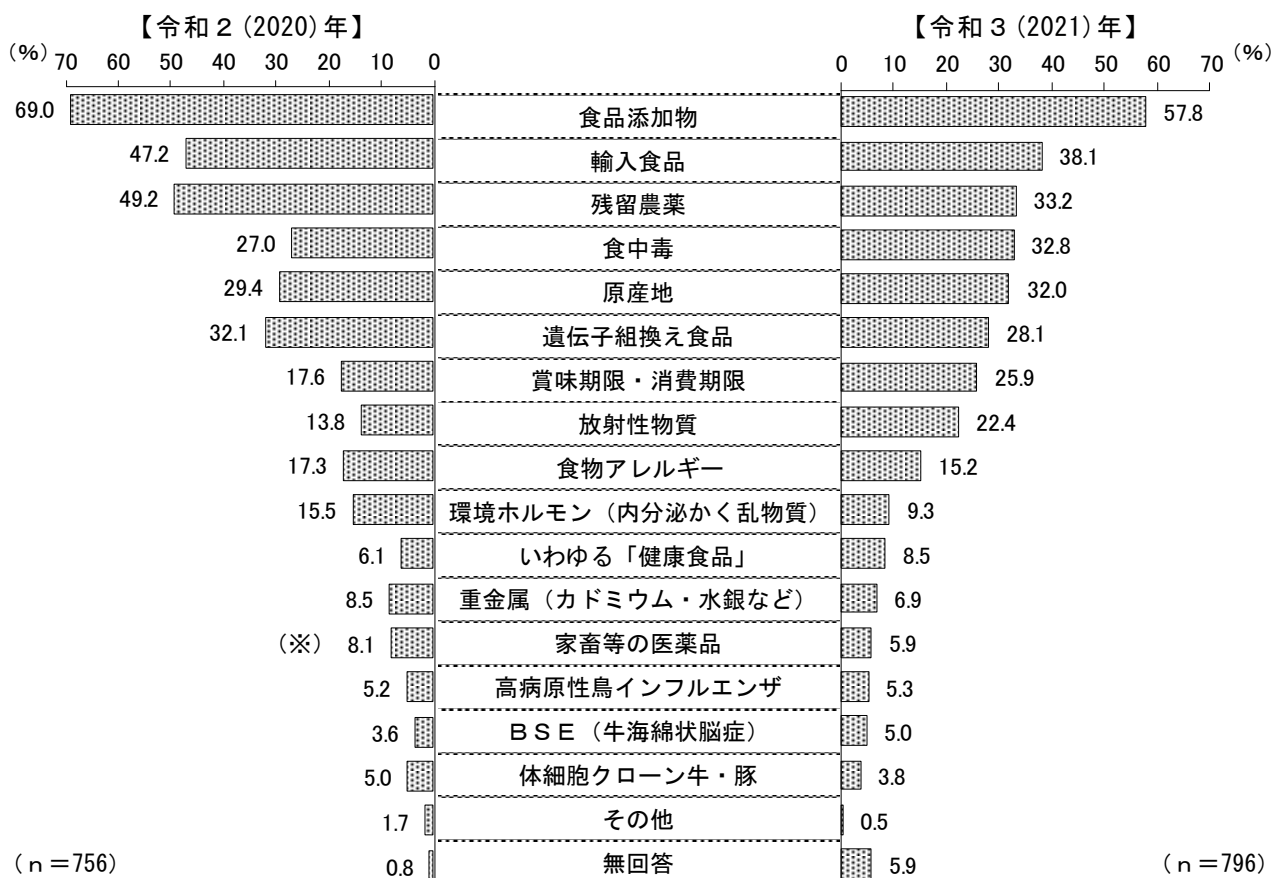
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの

(問39で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問39-1 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。

次の中から4つまで選んでください。

[n=796]



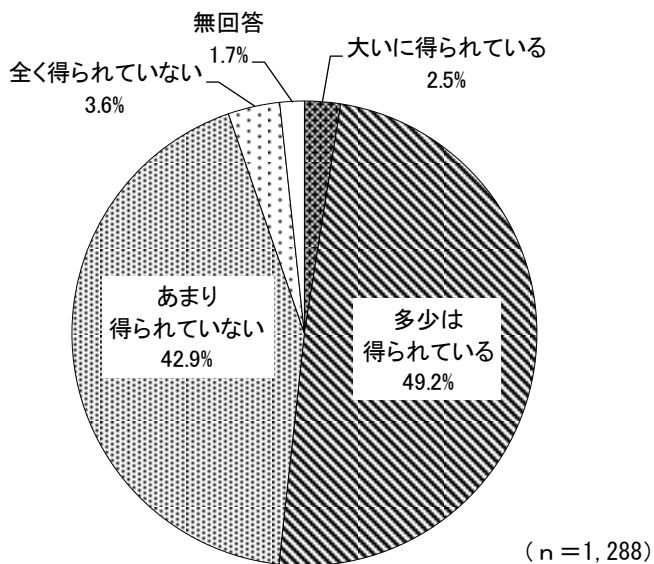
(※)「家畜等の医薬品」は、令和2(2020)年調査では「家畜の医薬品」としていた。

- ・全体で見ると、「食品添加物」(57.8%)が6割近くで最も高く、次いで「輸入食品」(38.1%)、「残留農薬」(33.2%)、「食中毒」(32.8%)、「原産地」(32.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食品添加物」では〈女性〉(60.9%)が〈男性〉(52.4%)より8.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「食品添加物」では〈女性65~69歳〉が78.0%と高くなっている。「食中毒」では〈女性30歳代〉が52.0%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈男性70歳以上〉が40.5%、〈女性70歳以上〉が38.5%と高くなっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果との比較は、「残留農薬」が16.0ポイント、「食品添加物」が11.2ポイント、「輸入食品」が9.1ポイント、それぞれ減少している。一方、「放射性物質」が8.6ポイント、「賞味期限・消費期限」が8.3ポイント、それぞれ増加している。

(2) 食の安全に関する情報を得られているか

問40 あなたは、食の安全に関する正しい知識や情報を得られていると感じていますか。
次の中から1つ選んでください。

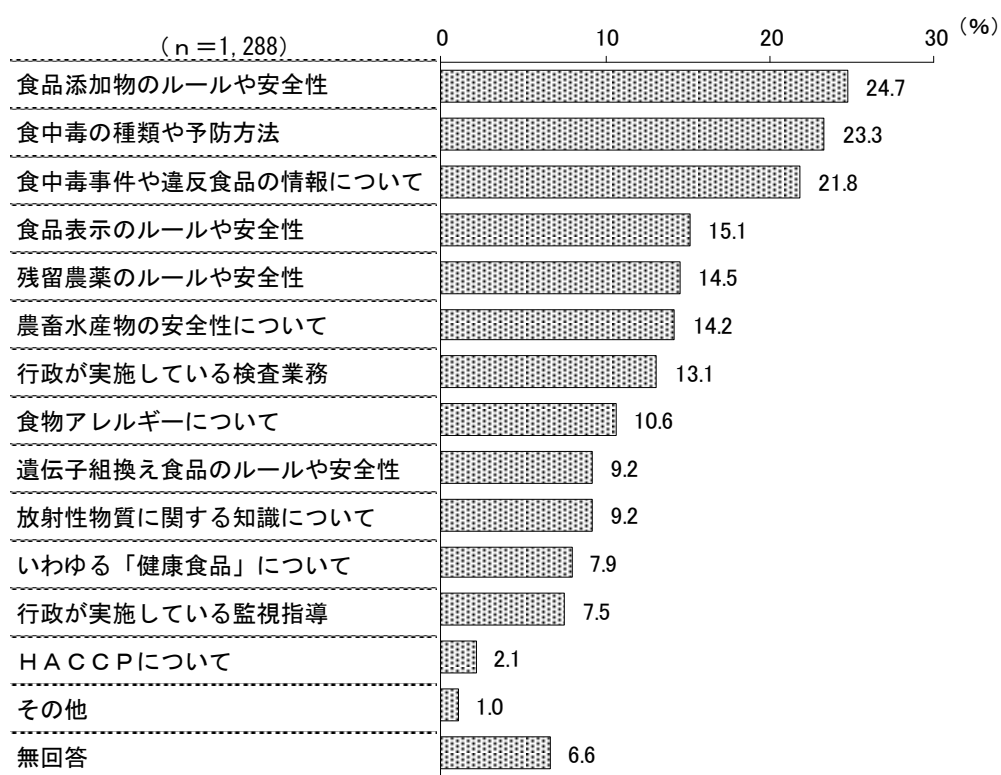
[n = 1, 288]



- ・全体で見ると、「大いに得られている」(2.5%)と「多少は得られている」(49.2%)の2つを合わせた『得られている』(51.7%)は5割を超えている。一方、「あまり得られていない」(42.9%)、「全く得られていない」(3.6%)の2つを合わせた『得られていない』(46.5%)は5割近くとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『得られている』では〈女性70歳以上〉が59.9%と高くなっている。『得られていない』では〈男性30歳代〉が59.2%と高くなっている。「全く得られていない」では〈男性60～64歳〉が10.8%で他の年代と比べて高くなっている。

(3) 食の安全について県から発信してほしいこと

問41 あなたが、県から特に発信して欲しい内容は何ですか。次の中から2つまで選んでください。 [n = 1,288]

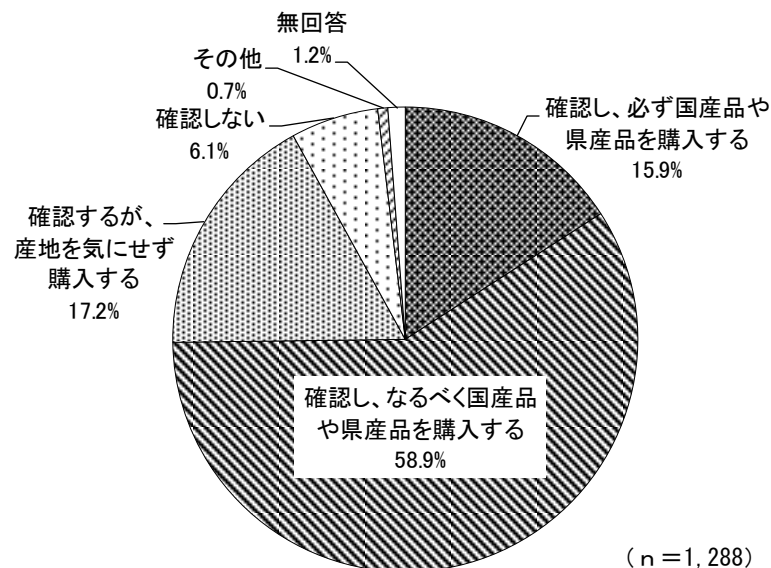


- ・全体で見ると、「食品添加物のルールや安全性」(24.7%)が2割半ばで最も高く、次いで「食中毒の種類や予防方法」(23.3%)、「食中毒事件や違反食品の情報について」(21.8%)、「食品表示のルールや安全性」(15.1%)、「残留農薬のルールや安全性」(14.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食品添加物のルールや安全性」では〈女性〉(28.9%)が〈男性〉(19.6%)より9.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「食品添加物のルールや安全性」では〈女性65～69歳〉が35.5%、〈女性70歳以上〉が33.8%と高くなっている。「食中毒の種類や予防方法」では〈女性20歳代〉が42.6%と高くなっている。「食物アレルギーについて」では〈男性20歳代〉が21.9%と高くなっている。

15 食に関する意識と実践について

(1) 生鮮食品購入の際、産地を確認しているか

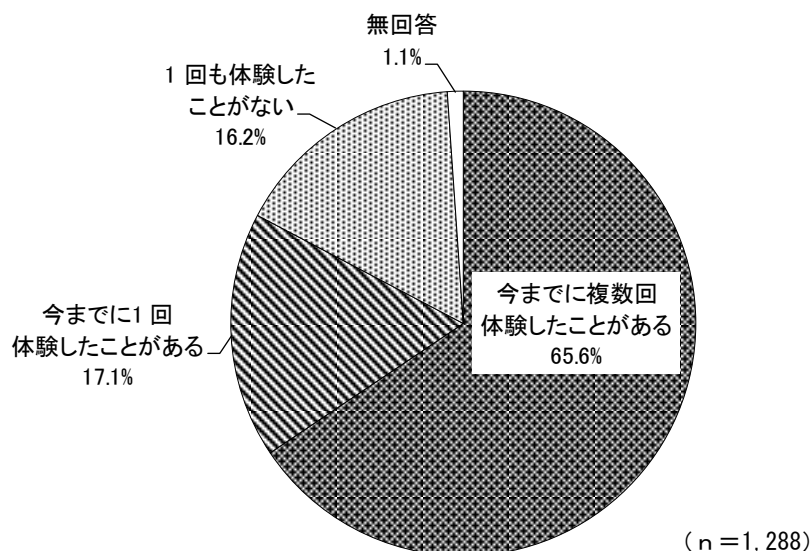
問42 あなたがお米や野菜、果物などの生鮮食品を購入する際、国産や県産など産地を確認し選んで購入しますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]



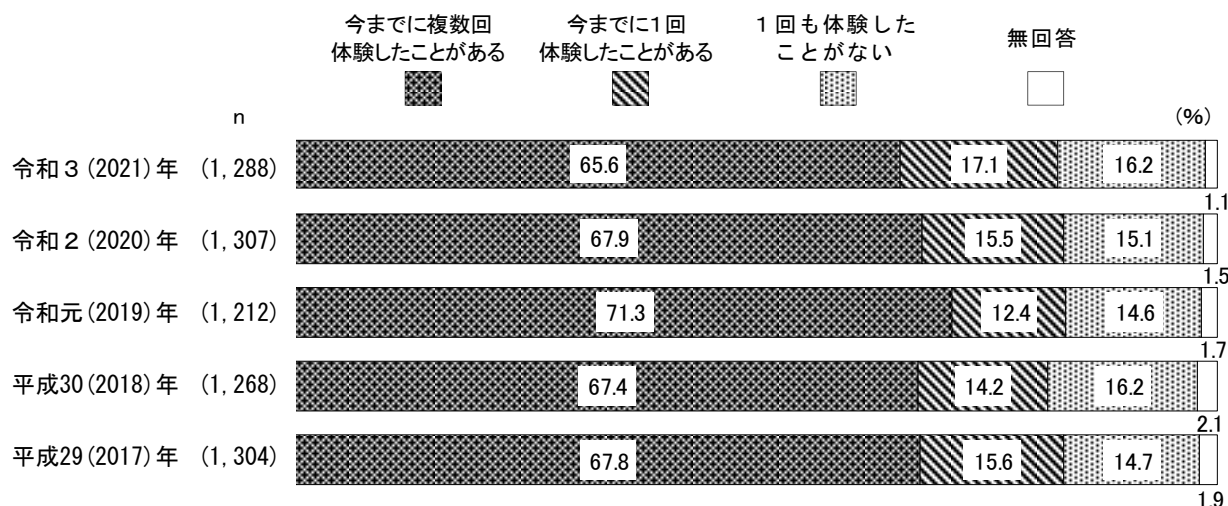
- ・全体で見ると、「確認し、必ず国産品や県産品を購入する」(15.9%)は1割半ばとなっている。「確認し、なるべく国産品や県産品を購入する」(58.9%)が6割近くと高く、「確認するが、産地を気にせず購入する」(17.2%)が2割近く、「確認しない」(6.1%)は1割に満たない。
- ・性別で見ると、「確認し、必ず国産品や県産品を購入する」では〈女性〉(19.5%)が〈男性〉(11.9%)より7.6ポイント高くなっている。「確認するが、産地を気にせず購入する」では〈男性〉(22.1%)が〈女性〉(12.7%)より9.4ポイント高くなっている。「確認しない」では〈男性〉(9.1%)が〈女性〉(3.6%)より5.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「確認し、必ず国産品や県産品を購入する」では〈女性70歳以上〉が29.9%と高くなっている。「確認し、なるべく国産品や県産品を購入する」では〈女性40歳代〉が71.2%と高くなっている。「確認するが、産地を気にせず購入する」では〈男性20歳代〉が31.3%、〈女性20歳代〉が29.4%と高くなっている。「確認しない」では〈女性20歳代〉が19.1%、〈男性20歳代〉が14.1%で他の年代と比べて高くなっている。

(2) 農業体験をした経験

問43 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなどの農業体験をしたことがありますか。
次の中から1つ選んでください。 [n=1,288]



- ・全体で見ると、「今までに複数回体験したことがある」(65.6%)は6割半ばとなっている。「今までに1回体験したことがある」(17.1%)は2割近く、「1回も体験したことがない」(16.2%)は1割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性〉(69.8%)が〈男性〉(61.4%)より8.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性50歳代〉が77.1%と高くなっている。「今までに1回体験したことがある」では〈男性30歳代〉が31.6%と高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈男性70歳以上〉が25.8%と高くなっている。



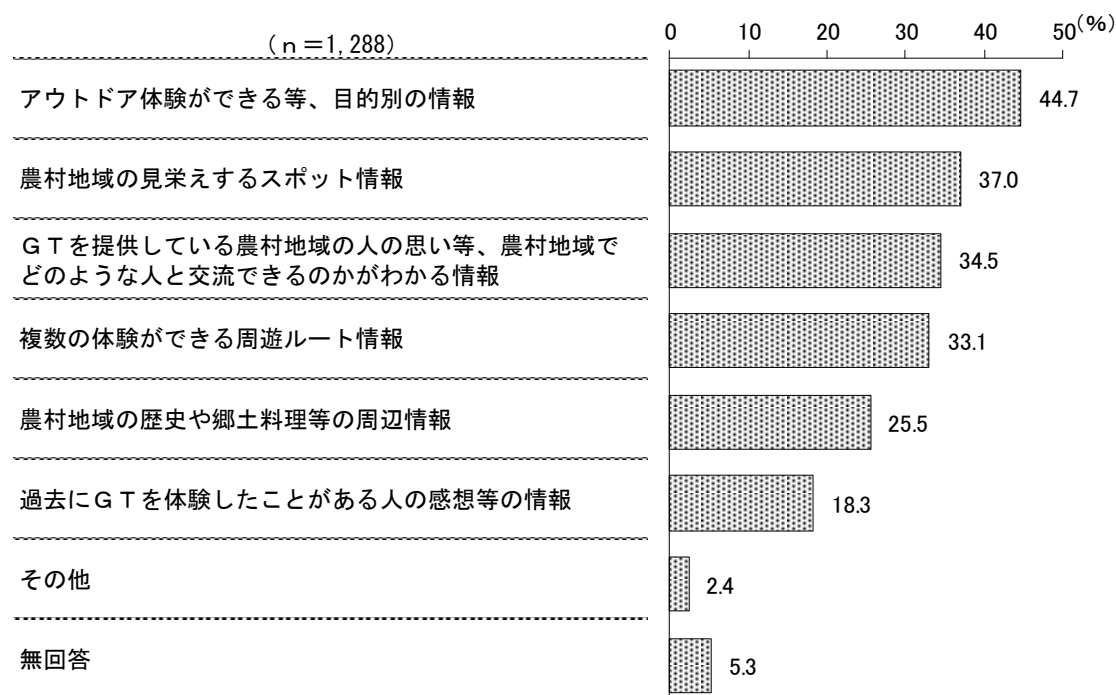
- ・過去の調査結果と比較すると、前回(令和2(2020)年)と大きな傾向の違いはみられない。

16 グリーン・ツーリズムに関する情報発信について

(1) グリーン・ツーリズムを楽しむために必要な情報

問44 農村地域でグリーン・ツーリズム（※）（以下、G T）を楽しむ（楽しんだことがない方は楽しみたいくなる）ためには、施設やイベント情報に加えて、どのような情報が必要ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1, 288]

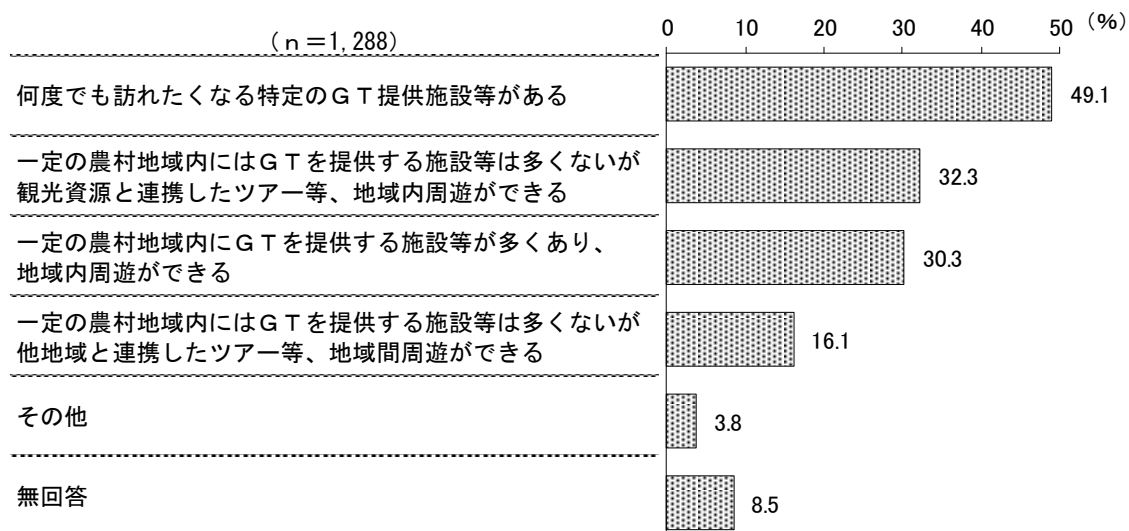
※ G Tとは、農山漁村地域で、農産物直売所での購買や農村レストランでの地産地消、農家民宿での宿泊、農作物の収穫などの農業体験等を楽しむことです。



- ・全体で見ると、「アウトドア体験ができる等、目的別の情報」(44.7%) が4割半ばで最も高く、次いで「農村地域の見栄えするスポット情報」(37.0%)、「G Tを提供している農村地域の人の思い等、農村地域でどのような人と交流できるのかがわかる情報（以下『農村地域でどのような人と交流できるのかがわかる情報』とする。）」(34.5%)、「複数の体験ができる周遊ルート情報」(33.1%)、「農村地域の歴史や郷土料理等の周辺情報」(25.5%) の順となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「アウトドア体験ができる等、目的別の情報」では〈女性30歳代〉が70.0%、〈女性20歳代〉が69.1%と高くなっている。「農村地域の見栄えするスポット情報」では〈男性20歳代〉が53.1%と高くなっている。『農村地域でどのような人と交流できるのかがわかる情報』では〈女性50歳代〉が50.0%と高くなっている。「複数の体験ができる周遊ルート情報」では〈女性40歳代〉が45.0%と高くなっている。「農村地域の歴史や郷土料理等の周辺情報」では〈男性70歳以上〉が38.1%、〈女性70歳以上〉が37.6%と高くなっている。

(2) 農村地域に繰り返し訪れたいくなる事例

問45 どのような場合に農村地域に繰り返し訪れてみたいと考えますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1, 288]



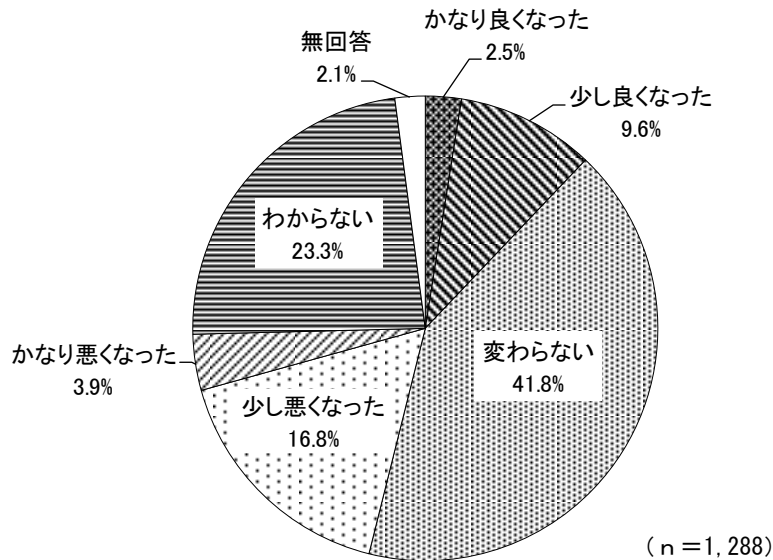
- ・全体で見ると、「何度でも訪れたいくなる特定のG T提供施設等がある」(49.1%) がほぼ5割で最も高く、次いで「一定の農村地域内にはG Tを提供する施設等は多くないが観光資源と連携したツアー等、地域内周遊ができる(以下『観光資源と連携したツアー等、地域内周遊ができる』とする。)」(32.3%)、「一定の農村地域内にG Tを提供する施設等が多くあり、地域内周遊ができる」(30.3%) の順となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「何度でも訪れたいくなる特定のG T提供施設等がある」では〈男性20歳代〉が60.9%、〈男性30歳代〉が60.5%と高くなっている。「一定の農村地域内にG Tを提供する施設等が多くあり、地域内周遊ができる」では〈女性30歳代〉が43.8%と高くなっている。

17 犯罪と治安対策について

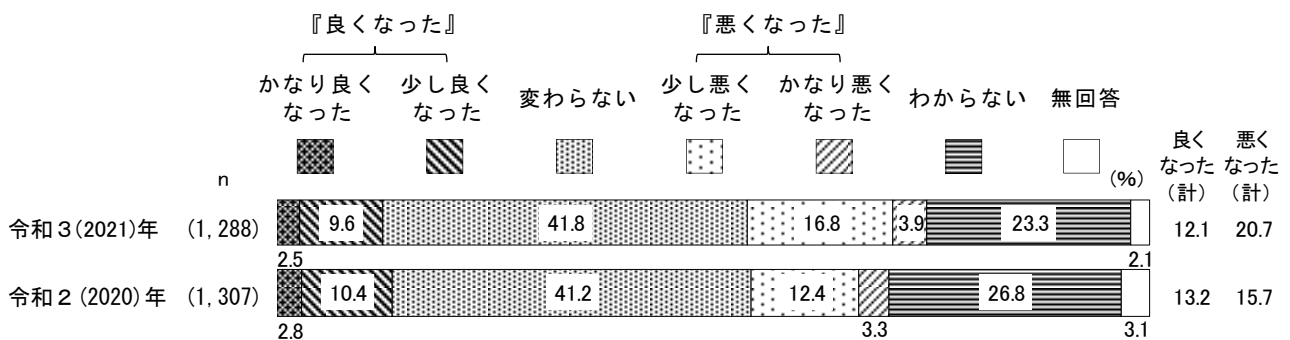
(1) 県内の治安状況の変化

問46 県内の治安は、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 288]



- ・全体で見ると、「かなり良くなった」(2.5%)と「少し良くなった」(9.6%)の2つを合わせた『良くなった』(12.1%)は1割を超えている。一方、「少し悪くなった」(16.8%)と「かなり悪くなった」(3.9%)の2つを合わせた『悪くなった』(20.7%)はほぼ2割となっている。「変わらない」(41.8%)は4割を超えている。
- ・性別で見ると、『良くなった』では〈男性〉(14.0%)が〈女性〉(10.0%)より4.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『良くなった』では〈男性70歳以上〉が23.9%と高くなっている。『悪くなった』では〈男性50歳代〉が30.3%と高くなっている。

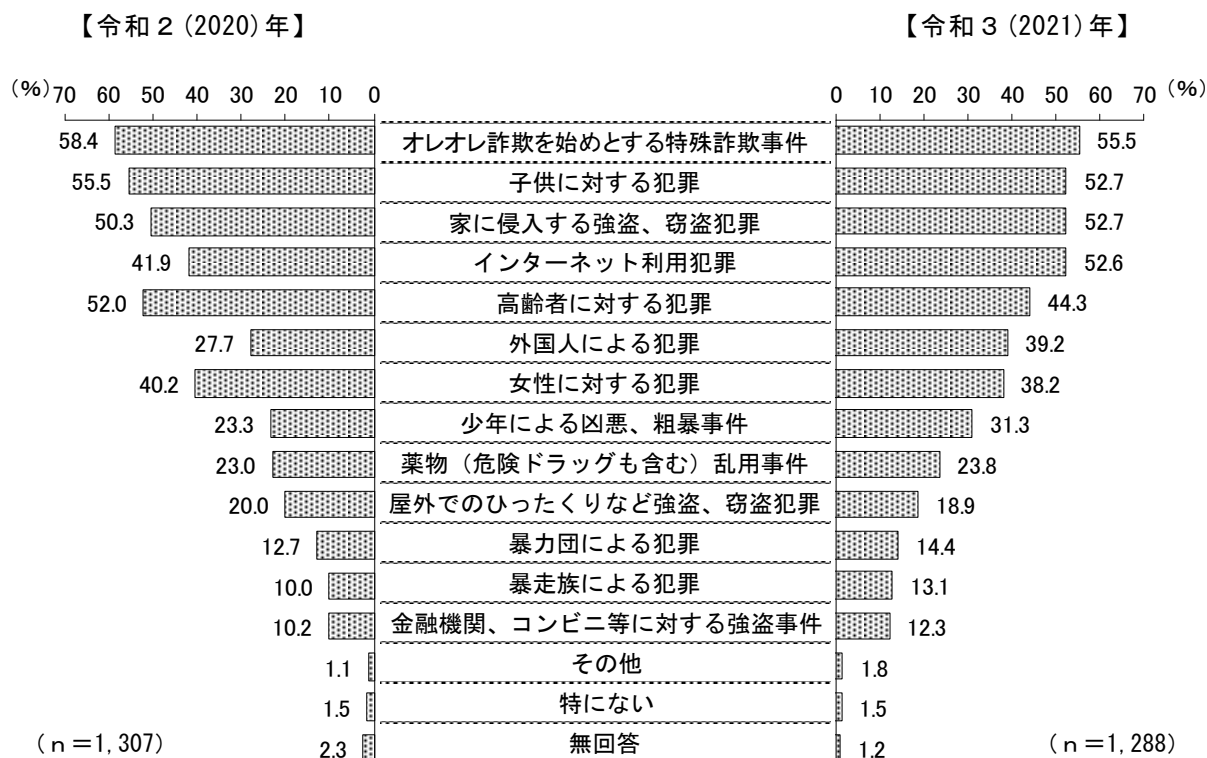


- ・前回(令和2(2020年))の調査結果と比較すると、『悪くなった』が5.0ポイント増加している。

(2) 不安を感じる犯罪

問47 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,288]

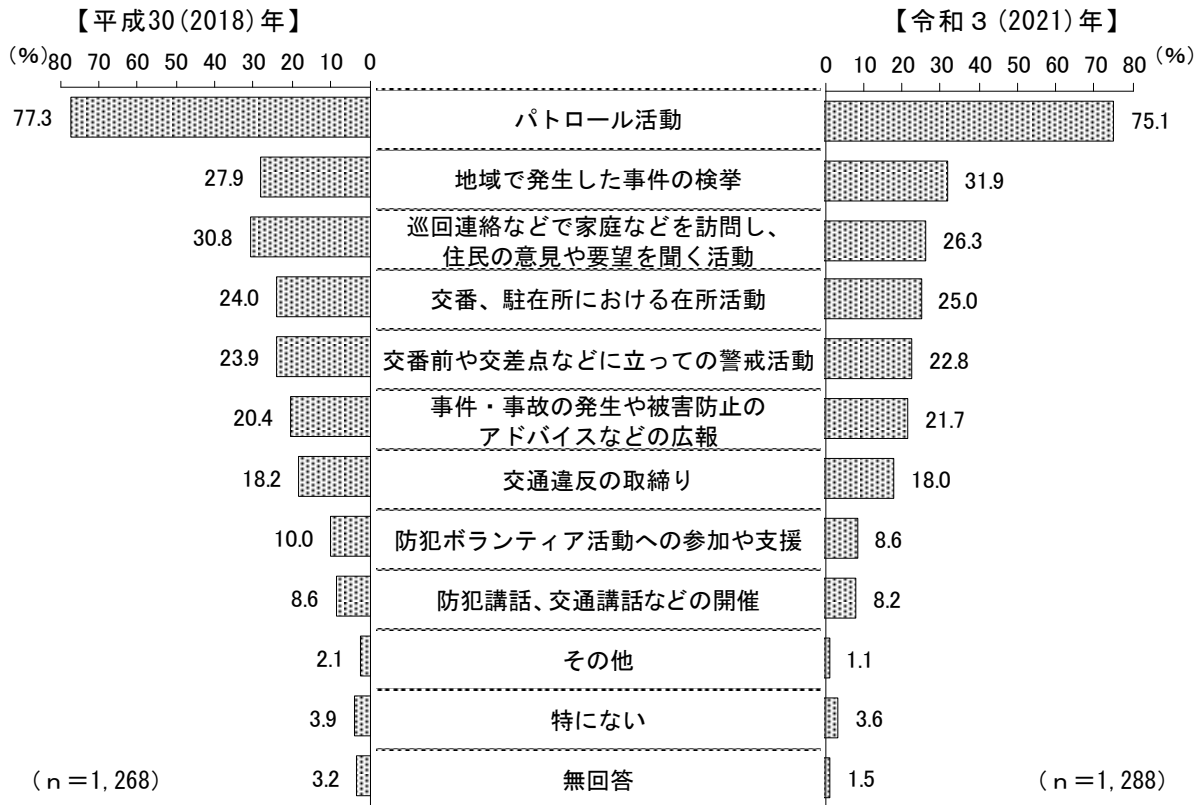


(※) 令和2(2020)年調査で選択肢に加えていた「若者に対する犯罪」(11.1%)と「悪質商法による犯罪」(36.3%)と「食の安全・安心に関する犯罪」(9.6%)と「不法投棄等の環境に関する犯罪」(18.4%)は、今回調査では選択肢に加えていない。

- 全体でみると、「オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺事件」(55.5%)が5割半ばで最も高く、次いで「子供に対する犯罪」(52.7%)、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(52.7%)、「インターネット利用犯罪」(52.6%)、「高齢者に対する犯罪」(44.3%)の順となっている。
- 性別でみると、「女性に対する犯罪」では〈女性〉(43.4%)が〈男性〉(32.6%)より10.8ポイント高くなっている。
- 性/年齢別でみると、「オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈女性70歳以上〉が68.2%、〈男性70歳以上〉が67.1%と高くなっている。「子供に対する犯罪」では〈女性30歳代〉が82.5%、〈女性20歳代〉が72.1%、〈女性40歳代〉が68.5%と高くなっている。「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性30歳代〉が71.3%と高くなっている。「インターネット利用犯罪」では〈女性50歳代〉が72.0%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈男性70歳以上〉が56.1%、〈女性50歳代〉が55.1%、〈女性70歳以上〉が54.8%と高くなっている。「外国人による犯罪」では〈男性40歳代〉が55.6%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性20歳代〉が61.8%、〈女性30歳代〉が58.8%と高くなっている。
- 前回(令和2(2020)年)の調査結果との比較は、一部の選択肢を変更しているため参考にとどまるが、「外国人による犯罪」が11.5ポイント、「インターネット利用犯罪」が10.7ポイント、「少年による凶悪、粗暴事件」が8.0ポイント、それぞれ増加している。「高齢者に対する犯罪」は7.7ポイント減少している。

(3) 警察官に力を入れてほしい活動

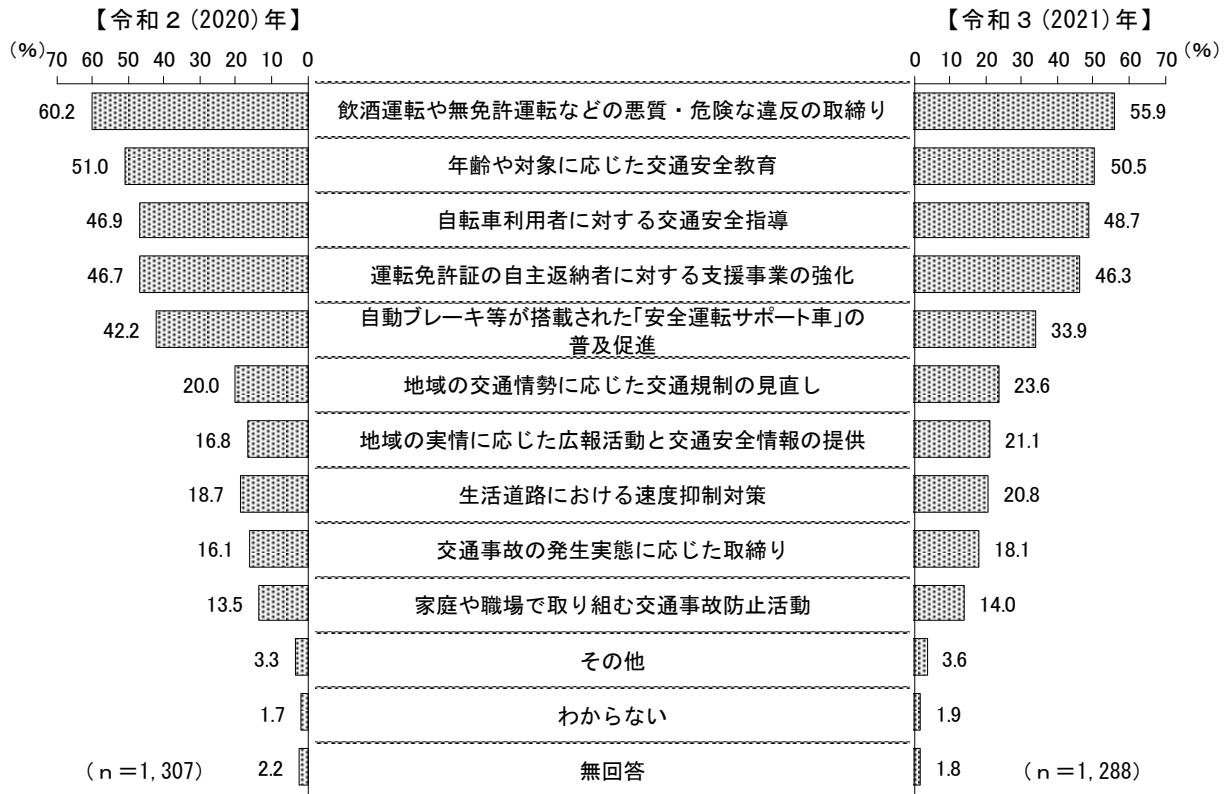
問48 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。次の中からいくつかも選んでください。 [n=1,288]



- ・全体で見ると、「パトロール活動」(75.1%)が7割半ばで最も高く、次いで「地域で発生した事件の検挙」(31.9%)、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(26.3%)、「交番、駐在所における在所活動」(25.0%)、「交番前や交差点などに立っての警戒活動」(22.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「パトロール活動」では〈女性〉(78.7%)が〈男性〉(71.5%)より7.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「パトロール活動」では〈女性50歳代〉が87.3%、〈女性30歳代〉が85.0%と高くなっている。「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性70歳以上〉が46.5%、〈男性65~69歳〉が42.9%と高くなっている。
- ・前回(平成30(2018)年)の調査結果と比較すると、「地域で発生した事件の検挙」が4.0ポイント増加し、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」が4.5ポイント減少している。

(4) 交通事故を抑止するための対策

問49 交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。次の中からいくつかでも選んでください。 [n = 1, 288]



- ・全体で見ると、「飲酒運転や無免許運転などの悪質・危険な違反の取締り」(55.9%)が5割半ばで最も高く、次いで「年齢や対象に応じた交通安全教育」(50.5%)、「自転車利用者に対する交通安全指導」(48.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「年齢や対象に応じた交通安全教育」では〈女性20歳代〉が67.6%と高くなっている。「交通事故の発生実態に応じた取締り」では〈女性30歳代〉が31.3%と高くなっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、「自動ブレーキ等が搭載された『安全運転サポート車』の普及促進」が8.3ポイント減少し、「地域の実情に応じた広報活動と交通安全情報の提供」が4.3ポイント増加している。

VERY 
GOOD
LOCAL

とちぎ

令和3（2021）年度

栃木県政世論調査

調査報告書（概要版）

令和3（2021）年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市塙田1-1-20
電話（028）623-2158